沼津貝塚保存管理計画策定事業報告書

昭和51年3月

石巻市 教育委員会

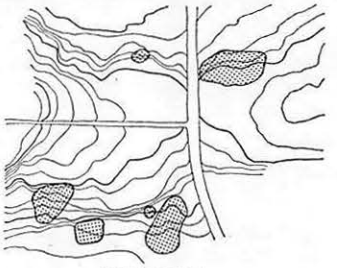
沼津貝塚保存管理計画策定事業報告書正誤表

第１表とかえてください

番号	型式名 / 遺跡名	早期	前期						中期						後期	晩期				
		大山寺1式	素川名1式	上川名2式	大木1a式	大木2a式	大木2b式	大木3式	大木4式	大木5式	大木6式	大木7a式	大木7b式	大木8a式	大木8b式	大木9式	南境峯式	宝ケ峰式	金剛寺式	大洞B式	大洞BC1式	大洞C1C2式	大洞A式	大洞A'式
1	沼津貝塚			○				○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	永巌寺貝塚																						○	○
3	舘山貝塚																							
4	明神山下貝塚																	○						
5	内原遺跡																							
6	小沢貝塚														○	○	○	○						
7	南境貝塚		○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	小多田遺跡																	○						
9	越田台遺跡											○												
10	台A遺跡																							
11	由利郷遺跡																							
12	入遺跡																							
13	寺前貝塚																	○		○	○	○		

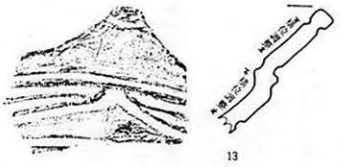
※ 明神山下貝塚からは繊維土器が発見されている。

第３図版金剛寺式期の遺物包含層とかえてください



第13図版10．13とかえてください

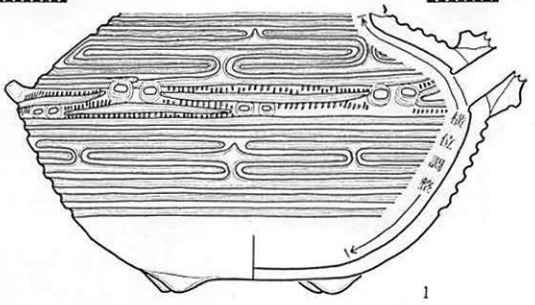
10



13

第26図版１．1aとかえてください

1a



1

頁・行	誤	正
8頁24行	学術的な発堀調査	学術的な発掘調査
12頁２行	15遺跡	13遺跡
12頂44行	各舘は鎌倉時代	各舘跡は鎌倉時代
16頁32行	松島湾諸島	松島湾岸諸島
16頁38行	門前式，宝ケ峰式	門前式，南境式，宝ケ峰式
19頁45行	後期宝ケ峰	後期宝ケ峰式
22頁30行	ハマグリ主体	ハマグリ，カキ主体
23頁２行	金剛時式期	金剛寺式期
26頁６行	総括	沼津貝塚の総括

はしがき

今回の国庫補助による沼津貝塚保存管理計画策定にあたり，沼津貝塚の現状，及び歴史的価値をできるだけふまえた上で，これを策定するという基本的立場から，数度に及ぶ実地踏査，及び出土遺物，文献等の調査を実施した。この調査にあたり，種々のご配慮を賜わった宮城県教育委員会，東北歴史資料館，東北大学文学部考古学研究室，尚絅女学院，尚絅女学院地学研究室，毛利伸，清水毅，工藤雅樹，藤沼邦彦，丹羽茂，阿部恵，開北小学校児童有志には記して謝意を表する。

なお，本報告書は，計画編及び調査データ編の二つの章により構成されているが，第一章計画編は，石巻市文化財保護委員木村敏郎，石巻市教育委員会社会教育課長桜井妻雄，同文化係中村光一がこれを執筆した。また第二章調査編は，東北学院大学史学科三塚敏明，同大学聴講生阿部正光，尚絅女学院短大事務局佐藤正人の３名が，実地踏査及び資料整理を含めて担当した。執筆は３名の協議調査の下に成されたものである。また，調査編に関する原稿，図版等の監修は石巻市教育委員会中村光一が行なったものである。

目　　次

第一章　保存管理計画 …… 2

第一節　保存管理計画策定の目的 …… 2
第二節　保存管理計画策定事業の経過 …… 2
第三節　沼津貝塚の保護に関する基本事項及び問題 …… 2
1項　史跡指定範囲内の遺跡保護に関する基本事項及び問題 …… 2
2項　史跡指定範囲外の遺跡保護に関する基本事項及び問題 …… 4
3項　沼津貝塚の公有化に関する計画 …… 5
4項　まとめ …… 5
第四節　活用に関する基本計画及び問題 …… 6
1項　学校教育における活用 …… 6
2項　社会教育における活用 …… 6
3項　活用に関するその他の問題 …… 6
第五節　余論　環境整備等に関する予察 …… 7
第六節　附録　(1)沼津貝塚地権者一覧 …… 7
(2)沼津貝塚史跡指定官報告示内容 …… 8

第二章　沼津貝塚の考古学的調査 …… 8

第一節　はじめに …… 8
第二節　沼津貝塚の自然的環境 …… 9
第三節　沼津貝塚の歴史的環境 …… 11
第四節　沼津貝塚の研究史 …… 15
第五節　沼津貝塚の分布調査 …… 17
第六節　沼津貝塚の遺構 …… 22
第七節　沼津貝塚の遺物 …… 24
第八節　沼津貝塚の総括 …… 26
附　録　(3)沼津貝塚地形測量平面図 …… 61
(4)沼津貝塚グリット配置，及び遺物包含層分布図 …… 62

第一章　保存管理計画

第一節　保存管理計画策定の目的

昭和８年市制施行の石巻市は，総面積138.16㎢ 現在人口約116,000人，をかぞえる，宮城県内第２の都市として発展しつつある。

昭和40年代の石巻工業港及び新漁港の完成等による産業基盤整備により，経済活動や人口等も増大し，第３次産業部門も活況を呈して来ている。

こうした中で，生活基盤整備に伴う土地需要が年々増大しており，いきおい農業用地の減少が目立って来ている。

沼津貝塚の所在する稲井地区における農地面積の推移を見ると，昭和43年，1,026*ha*，昭和44年，1,045*ha*，昭和45年，1,051*ha*，昭和46年，1,036*ha*，昭和47年，1,022*ha*，昭和48年，1,002*ha*，昭和49年，999*ha*と，多少の増減を見せながら，昭和40年代後半では，次第に減少する傾向を見せている。

こうした現象は，第２次・第３次産業への流出による，農業人口の減少，専業農家から兼業農家への転換また減反等の農業政策や宅地化の進展等がその原因と考えられよう。

経営面においても，従来の方式に反省が加えられ，次第に合理的かつ高効率の農業経営方向に進展して来ていると考えられる。

さて，このような情勢の中で，沼津貝塚の保護を推進しようとする時，本遺跡の現状及び特性に応じた適切な保存管理対策が考慮されなければならない。

この計画は，こうした姿勢の基に，本貝塚の保護上予想される諸々の事態に対処するための当面計画であり今後の保存及び管理を進める上での指針とするものである。

第二節　保存管理計画策定事業の経過

沼津貝塚保存管理計画策定事業は，国庫補助事業として昭和49年度に着手し，同年は70万円の事業費をもって，沼津貝塚の地形測量及び地積測量を実施した。

昭和50年度には，50万円の事業費で，前年実施した500分の１地形平面図を基に，同貝塚の現況及び特性を明確にするため，貝層，包含層の分布，遺物散布の状況，遺跡範囲，出土遺物，及び同貝塚の歴史的評価についてデータ作成ならびに必要な諸調査を実施し，これらのデータの検討の上に，第２年次の保存管理計画を策定したものである。これら経過の概要は以下のとおりである。

実施年度	49 年 度	50 年 度				
期　日	12・24～50・１・31	７月２日	７月22～30日	９月～	11月３～16日	51・２月～
実施事項	沼津貝塚及びその周辺の地形・地積測量と1/500実測図作成	第１回打合わせ	毛利コレクション実測調査	東北歴史資料館収蔵遺物調査	沼津貝塚及び周辺部の実地調査	数度に及ぶ打合わせ・原稿執筆

第三節　沼津貝塚の保護に関する基本事項及び問題

１項　史跡指定範囲内の遺跡保護に関する基本事項及び問題

土地所有権及び耕作権との調整

昭和47年10月に指定を受けた同貝塚は，指定面積20,991㎡に及んでいるが，このすべては民有である。従って，公有化に至るまで，当面の間は，これら私権との調整が大きな課題となろう。

本項では，今後予想される種々の現状変更及びその他の遺跡破壊等について，それに対処する場合の指針を作成したものである。

もとより，この指針はその状況により適宜変更すべき性格のものであり，これが最善の方策ではない。従って，本項は問題提起とそれに対する一つのあり方を提示したものである事を付記しておきたい。

(1) 農業用施設

農業経営の効率化，合理化をはかる立場から，将来，個別的，あるいは共同的な農業施設の建設が予想される。たとえば，葉タバコの乾燥出荷貯蔵共同施設，また導水・貯水・散水施設等が考えられるであろう。

これらについては，農業経営者個人の生活設計とあいまって，農業収益等と直接関連する場合が多く，その調整をはかる事は，かなり至難であると言える。これらに優先して，遺跡保護を考えようとする場合その補償，補助，あるいは代替用地等について考慮しなければならないであろう。この場合，部分的な買上げ措置も考慮する必要があろう。

(2) 一般住宅の建設及び造成

本遺跡の所在する地域は，都市計画法により，市街化調整区域に編入されている。将来的に展望しても少なくとも十年以内に市街化区域に編入される事はないと思われる。従って，こうした点では，大規模な民間開発や宅造の心配はないと考えられる。しかしながら農業後継者の独立等にかかる小規模の新規宅造とか，既設住宅地の拡張等は可能であり，又充分予想されるところであろう。この点については，基本的には，補償費の問題ではなく，代替地を必要とする事態が予想されるので基本的問題として念頭にしておかなければならないものと思われる。

(3) 畑作作物の種類と耕作方法

本遺跡は全て畑地であり，現在，葉タバコ栽培が作物の主体となっており，その他，大豆，麦が若干ながら栽培されている。タバコ収益の高率さから，近い将来，夏季には葉タバコ栽培が全面積を占めると思われる。これらの栽培種は深い草根をもたないので，遺跡の地下遺構に対しその影響は，ほとんどないと考えられる。また，耕作は耕運機による機械耕作であるが，通常，その耕作深度は30～40cm程度であり，あまり問題にならないであろう。従ってこの項については当面問題はないが，仮に，根菜栽培が実施される場合は適切な指導が必要である。

(4) 電柱，送電塔，各種導管の設置

これらについては，その設置件数は非常に少ないと思われるが，いずれも，削平，掘削を伴うものであり小面積ながら遺跡破壊につながるものである。この設置については，既設のものは仕方がないが，新設については，基本的に遺跡を迂廻させる方向で検討すべきものである。

(5) その他

指定行為は，遺跡保護を目的になされたものであるが，反面，土地の現状を拘束し，地権者の土地利用に大きな制限を加えている事も否定できない。また，知名度が高い遺跡でもあり，見学者による農地，畑作物への影響も当然あると考えられる。従って，少なくとも指定行為に伴って生じた土地利用の制約については，指定時に承諾書を徴収しているとはいえ，基本的にこれを補償する方向での発想が成されなければならないのではないかと思われる。特に公有化を前提に史跡指定行為に及ぶのが通常のあり方とはいえ種々の要因により当面公有化できない見通しの遺跡も多い。こうしたものの保護管理徹底には，一つのあり方として考慮されてよいだろう。また，遺跡に対する理解を深める意味から，地権者を含め地域住民に対する説明会や懇談会を開催する事や，採集資料の寄託等について協力を求める事も間接的な方法ながら，遺跡保護を進めるうえで有効であろう。

遺跡観覧者との調整

学校教育また社会教育の中の現地学習の場として本遺跡を活用する事は好ましいことであるが，遺跡保護に対する理解を欠いて，教育効果の一面だけを扱おうとするのは避けるべきである。従来，学校児童あるいは一般人により，稀少ながら乱掘されているような箇所もあり，今後の沼津貝塚の保護を考える場合，考慮しなければならない点である。

(1) 学校児童，生徒への保護思想の徹底

学校関係については，教育委員会による行政指導が考えられるが，問題の本質は児童生徒及び学校教育担当者の文化財に対する理解レベルに帰納するものであろう。従って小中高校に対する文書による指導の他に，別記活用項目にかかる諸策が，行政指導と一体を成して行なわれる必要があろう。

(2) 一般への保護思想の徹底

これについては，50年度に設置した，沼津貝塚注意板が一つの効用をもつものである。しかしながら一般に対してもまた平素の保護思想普及活動の徹底が最も効果的である事はいうまでもない。

具体的には，新聞や市広報紙を通じて，呼びかけをはかるとともに，地権者に対しても，見学者への注意を喚起するよう呼びかける事も必要であろう。また直接的な注意だけでなく，同貝塚の内容についての紹介も注意を促す間接的な効用をもつであろう。

(3) 巡検体制，その他

前記の啓蒙的方法と合わせ，現在県単位で実施されている，文化財保護指導員制度ー文化財パトロールについて，その巡回箇所に国・県・市町村の指定史跡を必須点検箇所として組み入れるようすべきである。

最も，現在すでに宮城県の場合実施されているが，その場合でも，遺跡地そのものにかかる点検だけでなく，周辺部における，開発や土地利用状況，また都市計画法をはじめとする諸法の適合エリア内か外かなど，今後，先行的な保護行政を進める上で必要な，これら諸項について必須点検事項として組み入れる事が必要である。また市レベル独自の定期巡検が実施されれば，より完全であろう。

2項　史跡指定範囲外の遺跡保護に関する基本事項及び問題

本計画策定にかかる沼津貝塚範囲の精査により，国指定史跡範囲として線引きした以外に，更にこれを越える形で貝層の広がりが確認され，該当部分の今後の保存及びその方向について検討する必要が生じた。

この部分の保護については，現行上，文化財保護法第57条関係の適用を受けるだけであり，明らかに同一沼津貝塚に含まれる部分について，その取り扱い方が異なる事になる。以下については，こうした指定範囲外に広がる部分について，今後の保存上の問題及び方向を予察的に示したものである。

(1) 基本的な指針

まず，こうした範囲外に広がる貝層あるいは包含層については，基本的にこれを追加指定という形で，史跡指定する方向を考えるべきであろう。しかしながら，地権者が，昭和47年時点の指定による土地制約に不安感を抱いていると推測される現在，追加指定の方法，時期等については，慎重に検討する必要がある。

(2) 現状変更に関する指針

範囲外にかかる該当部分の保護については，当面法第57条に依拠する以外にない。従ってもし仮に史跡範囲隣接地点に，現状変更の必要性が生じた場合には，基本的に保護の立場から変更撤回の方向で結論を出す事が理想であるがもし最悪の場合でも，完全な記録保存をはかる必要があろう。この点と関連して，積極的な保護推進策として(3)に述べる方策が検討されてしかるべきである。更に，届出の周知徹底をはかるため，地権者に協力要請する必要があるのは言うまでもない。

(3) 範囲外保護にかかる一方向

前述したごとく，沼津貝塚の遺跡範囲が，現指定地域内に留まるものでない事は，今回の現地踏査データから明らかである。従って，同一貝塚の部分によって，保護対策が異なる形となり，こうした現象は沼津貝塚，ひいては他の史跡の保護を考慮する場合，決して好ましい事ではない。該当部分の保護を積極的な方向で検討しようとするなら以下の方向が考えられよう。

すなわち，遺跡の範囲限界を確認する必要があることである。このためには，年次計画等による周辺隣接地の計画的発掘が必要であり，この点に関しては，人員，体制，財政面の問題から市単独実施は明らかに不可能である。

従って，国県レベルにおける，財政，人員面の配慮が検討されてしかるべきであり，それを抜いた実施は不可能であろうと思われる。更に，この範囲限界確認調査は，追加指定を前提に考慮するものでなけ

れば無意味であろう。

(4) その他の問題

今回の実地踏査において，また過去の調査における文献等の検討から，沼津貝塚北部に隣接して展開する水田部分に泥炭層が存在する可能性が非常に強くなった。少なくとも，一部において，東北大学による花粉分析データ採集のためのボーリング泥炭採収があり，その存在は間違いのないところである。

従って，遺跡に隣接する泥炭部分は，通常，文化層として，多くの石器時代遺物を包含する可能性が高く特に毛利コレクション所蔵遺物の中に見られる土器中には，泥炭層から出土したと思われる物も確認されている。この点から考えても，その所在地点範囲を明確にする調査が考慮されて良いと思われる。

3項　沼津貝塚の公有化に関する計画

沼津貝塚の位置する沼津部落は，市中心部からほぼ6.5キロメートルを隔てた市域の最東端にあり，昭和42年3月市へ合併した旧稲井町地域に属する戸数112戸の兼業農家部落である。昭和45年以来，市中心部に近い一部人口集中地区を除く稲井地域がすべて市街化調整区域および農業振興区域に指定されたこともあって，同部落の戸数はここ数年来ほとんど横ばいの状態にある。また，貝塚自体の現況も，地権者12人のうち11人までが，専売公社の委託生産で，かつ収益性の高い葉タバコ耕作地にしているため，きわめて良好な状態で保存されている。

しかし，現在人口116,000人，県下第2の都市として急激に発展しつつある市勢の方向が，同部落に都市化現象をもたらしつつあることも明らかである。すなわち，昭和42年，仙台湾港臨海地域新産業都市建設事業の最大として進められてきた石巻工業港が開港され，その背後地に造成された工業用地に現在進出企業32余社の操業をみている。加えて，はやくから全国10指に入る漁港，水産加工業都市として発展してきた当市の実績とその立地条件の優位性を考慮し，特定第3種漁港として全国一を誇る新漁港と，その背後地に計画最次年次（昭和52年度）85万平方メートルの規模をもつ水産加工団地（国指定水産流通加工センター形成事業）の一部が完成し，目下進出企業の配置や排水処理施設の最終整備が進められている。こうした産業基盤の整備に伴う第2次産業の飛躍的な発展により，つれて商業観光などの第3次産業部門にも外部資本の進出が目立ち，年々活況を呈している。

以上の事情から，道路，ニュータウン，学校，文化体育施設，ごみおよびし尿処理施設，青果市場，民間宅地，レジャー用地など官民両面の土地需要が急激に膨張し，郊外一円に著しい農地減少をもたらしているが，沼津部落およびその周辺部にも近年次に示すような開発行為が行なわれてきている。

1．市施行事業

(1) 石巻地区広域幹線道路建設事業 …… 改良 2,170m。　舗装 5,350m。

貝塚付近通過。本年度路盤整備完了一部舗装済み。

(2) 不燃性ごみ捨場造成事業 …… 沼津部落内に造成

山ろく原野私有地約5ヘクタールを借用し捨場とする。昭和52年度から約5年間使用し，完了後地権者はこれを宅地に利用の見込み。

(3) 稲井地区統合小学校舎及び同中学校舎新築事業

沼津部落の隣接地区に敷地約33千平方メートルを造成し，稲井地区4小学校の統合校舎と老朽甚しい稲井中学校の新校舎を建設する。

2．民間施行事業

昭和47年10月，規模25万平方メートルのゴルフ場が同部落内に開設され営業中。

既述のとおり貝塚は地権者にとって魅力のある葉タバコ耕作地に利用されているため，その公有化には強い難色を示しているが，以上の市勢から可及的すみやかにこれを実現して行かなければならない。

4項　まとめ

沼津貝塚の保護については，昭和47年10月に国の史跡指定を受け飛躍的に強化された事はいう間でもな

い。また，その事が他の遺跡保護に良い意味での影響を与えている事も事実である。しかしながら指定部分についても，いずれ公有化が成されなければ，その保護は地権者に協力を願うという限界を越える事はできない。また今回の策定事業の中で判明した範囲外に拡がる遺跡部分の保護が今後特に問題となろう。これら保護の推進にあたっては，法の定めるところに従がい，所有権との節度ある調和のもとに進める事が必要であろう。

第四節　活用に関する基本計画及び問題

1項　学校教育における活用

小・中・高等学校において，次のような学習場面での活用が考えられる。

(1) 教科学習 —— 主として社会科

(2) 特別活動における学習 —— クラブ活動，部活動等

(3) 学校行事等における学習 —— 遠足等，行事に際しての学習

上の学習に活用するため，次のような事業が必要と考えられる。

(1) 小・中・高等学校の教師（主として社会科担当者）対象に「沼津貝塚に関する資料集」を作成して配布提供し，教育課程に位置づけられるようにする。

(2) 特に中学校1学年社会科歴史的分野の学習に役立てられるよう，生徒を対象とした資料集を作成し，各中学校へ提供する。

(3) 沼津貝塚に関するスライド（解説，活用の手引付）を作成し，石巻広域行政事務所内にある視聴覚教材センターに提供，保管・管理を依頼し，各学校の求めに応じて活用できるようにする。

2項　社会教育における活用

社会教育分野における活用については，つぎのような場面での活用が考えられる。

(1) 各学級，教室における学習　(2) 文化財講座等における学習　(3) 一般市民の研究活動での学習

以上の学習場面で十分に活用されるよう，つぎのようなことをしていきたい。

(1) 沼津貝塚に関するパンフレット（学習資料）を作成し，図書館及び公民館を中心とした社会教育諸機関に配布し，活用を図る。 —— 具体的には，各学級，教室，文化財講座等におけるテキストとしての活用が考えられる。

(2) 「沼津貝塚見学のしおり」（リーフレット）を作成し，一般市民の見学に役立てられるようにしたい。

(3) パンフレットの作成は，沼津貝塚保存管理事業の進展に応じて遂次刊行を重ねる方向で継続し，学術研究者の研究資料としても提供できるようにしたい。

3項　活用に関するその他の問題

活用に関する前記二項の他に，以下の様な活用事業が検討されてしかるべきであろう。

(1) 遺物の集成

早くから知られた本貝塚は，多くの研究者また一般見学者がおとずれ，特に文化財保護法施行以前の段階で，地域外，県外に流出した遺物は相当数にのぼると思われる。これらについては，現時点で回収する事は全く不可能なので，所蔵者のリストアップ，及び実測図や写真等により，できうる限り集成する方向がのぞまれる。また，保護法施行以後，現在に至るまでの間で実施された諸調査により出土した遺物については，その所在は明確であるが，内容については不明な点が多い。こうしたものについては，活用の使宜上，一カ所に集中保管する事がのぞまれるとともに，当面，報告書また資料集等による公開及び活用が必要であろう。

(2) 報告書，資料集等印刷物の整備刊行

前項と合わせ，沼津貝塚の活用効果を高め，内容を正しく理解させるには，印刷物の整備が方策の1つ

として考えられるであろう。こうした印刷物の整備は，現在県レベルでは比較的良く行なわれていると思われるが，市町村については，かなりのバラつきがあり，今後レベルの平均化をはかる意味からも，国県レベルでの市町村に対する奨励策が考慮されて良いと思われる。なお現行の，各種保存，調査補助事業の中で，これを扱う場合でも，現行の補助件数を更に増加させる方向で検討されて良いだろう。

第五節　余論，環境整備等に関する予察

環境整備については，手順として遺跡公有化後に実施されるものであり，具体的な計画策定はその段階で成されるべきものである。従ってここでは，今回の計画策定事業の中で予察された将来への希望事項及び，問題点を提起するという立場から本節を設定したものである。

(1) 環境整備にあたっての要望注意事項

○遺跡保存を大前提として整備計画を策定する方向で考慮すべきである。

○遺跡形成過程及び構成形態を把握できる方向で進めると良いと思われ，今回の調査成果から，特に大木9，10式期と大洞A式期の二時期は，貝層分布のあり方が典型的であり，これについて，地上復元するのが最も効果があるのではないかと思われる。

○散策路，遊歩道の設置にあたっては，既設農道，畦畔を利用する方向で検討し，道路の新設は極力行なわないようにすべきである。

○遺跡内に各種施設，特に大形の建築設備を設ける事はさけるべきであるが，必要があり設けなければならない場合には，指定地東端部の一部に，黄褐色土層（地山面）の広範に分布する地域があるので，最悪の場合には，これを利用する方向も考えられる。

○環境整備時点での問題として，遺跡中央部を分断する形で，５ｍ巾の市道が貫通しており，将来，回遊路等の設置に当たり適切な対策が必要となる。

第六節　附録 (1)沼津貝塚地権者一覧

氏　　名	住　　所	所　有　地　番
木　村　信　義	沼津字出外１９	沼津字出外30，33，34，37，38
浅　野　繁　雄	沼津字出外２５	沼津字出外29，33の１，65の１，66，67の１，68の１，69の１，69の２，70，71，75，76，32，77
鈴　木　俊　視	沼津字山中６８	沼津字出外60の１，61の１，62，64 沼津字八幡山25の１
浅　野　宣　雄	沼津字出外７	沼津字出外35，36
木　村　泰　治	沼津字山中２７	沼津字出外42の１，53の１，58
木　村　昭　子	沼津字山中１６	沼津字出外73の１
阿　部　　稔	沢田字台８９	沼津字出外72 沼津字出外79
木　村　襲　喜	沼津字出外18	沼津字出外65の２
木　村　清　子	沼津字出外73	沼津字出外73の２
天　野　健　治	沼津字沢口116	沼津字出外57，59
鈴　木　万次郎	沼津字出外２	沼津字出外51，63
木　村　憲　一	沼津字山中114の２	沼津字出外78
計　１２名		

(2)沼津貝塚史跡指定官報告示内容

官報告示内容

文部省告示第146号

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第69条第１項の規定により，次の表に掲げる記念物を史跡に指定する。

昭和47年10月21日

文部大臣　稲葉　修

名称	所在地	地域
沼津貝塚	宮城県石巻市沼津字出外	29番，30番，32番，33番，33番の１，34番，35番，36番，37番，38番，42番の１のうち実測254.59平方メートル，51番のうち実測25.83平方メートル，53番の１，57番のうち実測161.79平方メートル，58番，59番，60番の１，61番の１，62番，63番，64番のうち実測862.75平方メートル，65番の１，65番の２，66番，67番の１，68番の１，69番の１，69番の２，70番，71番，72番，73番の１，73番の２，75番，76番，77番，78番，79番
	同　字八幡山	25番の１のうち実測569.15平方メートル

第二章　沼津貝塚の考古学的調査

第一節　はじめに

国史跡に指定されている沼津貝塚は，宮城県石巻市沼津字出外（でと）に所在し，仙石線石巻駅からは，東北東約6.5kmの位置にある。

本貝塚は，古くから学術的な発掘調査が実施されてきたわが国でも屈指の大貝塚である。調査によって出土した遺物は学術的に高く評価され，研究者の間だけでなく，国民にも広く紹介されている。しかし，本貝塚を総合的に把握しようとする試みとその公表は，個々の労作が極めて多いにもかかわらず，なされていないというのが現状である。

本章は以上の様な認識に立ち，沼津貝塚保存管理計画策定事業の一環として，本貝塚に関する考古学的資料を作成し，本事業が最も適切に，且つ効果的に実施されることを目的とする。そこで次の様な方法を取った。最初の段階では，現在に至るまで積み重ねられてきた本貝塚に関するデータ（本事業に伴う今回の調査も含む）の概要を述べる。次の段階では，以上のデータを踏まえて，沼津貝塚という遺跡の現時点における歴史的位置づけを行なう。

第二節　沼津貝塚の自然的環境

(1) 地形

石巻地方の地形は，海抜高度から次の三地域に区分される（注1）

(A) 北上川，及び追波川によって区画された北上山地南端部地域。本地域には，籠峰山（348m），上品山（468m），京ケ森（281m），牧山（219m），黒森山（400m），大六天山（440m），袴ケ岳（359m）などの急な山々が存在する。

(B) 石巻平野に点在する丘陵部地域。本地域には，北上川河口部の日和山丘陵と，石巻平野中央部の須江丘陵があり，高度は60m 前後である。

(C) 北上川下流一帯の石巻平野。高度が数m 以内の低湿な沖積平野である。

沼津貝塚は，以上の三地域の中で，北上山地南端部地域に立地する。本貝塚の周辺には，籠峰山，上品山，雄勝峠，石投山，京ケ森，牧山などの山々が存在する。それらは，西方に開口して古稲井湾を形成している。その古稲井湾には，京ケ森から西方にのびる半島状の丘陵（標高52m）が張り出している。本貝塚はその丘陵上，比較的平担な鞍部（標高20m 前後）に立地する。

(2) 地質

石巻地方の地質は三地域に分類される（注2）。それは，海抜高度による地形の分類と同じ三地域に該当する。

(A) 北上山地南端部地域。本地域は，一部に古生代二畳紀の地層も見られるが，大部分は中生代三畳紀の地層が基盤となっている。この地層は，下部，中部三畳紀の稲井層群（花崗岩質砂岩からなる）と，上部三畳紀の皿貝層群（砂岩，粘板岩からなる）とに区分されている。

(B) 丘陵部地域。本地域は，新生代新第三紀中新世の礫岩（花崗岩・砂岩・頁岩・安山岩からなる）からなっている。

(C) 石巻平野。本地域は，その基盤岩（中生代三畳紀伊里前層，新生代新第三紀鮮新世広淵層）の上に次の層が堆積している。下層から述べると，洪積世蛇田層（古北上川河谷を埋めた埋没段丘の礫層と考えられる），沖積世釜層（細，中粒砂粒で，内湾性堆積物と考えられる），沼向層（下から砂・粘土・泥炭層と漸移的に変化するもので，釜層堆積後の海退陸化につれてできた湖沼，低湿地を埋めた層である），中埣層（細粒砂，ロームからなる河川氾濫時の堆積層），雲雀野層（中埣層前面にある現汀線に沿ったもので，平担部最上位の砂丘層）となっている。

沼津貝塚が立地する地層は，北上山地南端部地域，中生代上部三畳紀皿貝層群である。本貝塚の前方には古稲井湾（釜層以降の地層から構成される）もその一部に含む低湿な石巻平野が展開している。

(3) 海洋と陸水

沼津貝塚周辺の海洋としては，古稲井湾・万石浦・石巻湾がある。古稲井湾は，現在，低湿な水田と化しているが，元来，現在の北上川河口付近で石巻湾と接続していた。また，本貝塚の東南約1.5kmには，現在でも石巻湾と接続している万石浦が存在する。陸水としては真野川がある。この真野川は，古稲井湾地域中央部を流れる北上川の一支流で，現在の北上川河口付近で北上川と合流する。

(4) 気候

宮城県の気候は，太平洋岸から平野部を経て奥羽山脈東斜面になるにつれて，その気候特性を表日本型から裏日本型へと次第に変化させていくのが，大きな特徴と言える（注3）。ここでは，沼津貝塚が存在する石巻地方についての現在の気候をのべる。

(A) 気温。寒候季と暖候季に区分することができる。寒候季は，海面の海岸部に及ぼす熱的影響（気候の調節作用）を受けて，比較的温暖である。1月の平均気温は，1°Cと温暖で，奥羽山脈東斜面地域との差は3°～4°Cに及ぶ。暖候季は，陸地に対して海水が相対的に低温となり，海岸部に沿って低温帯が現われる。そのため8月の平均気温は，24°Cと比較的冷涼である。年平均気温は12°Cである。

(B) 降水量。石巻地方の降水量は，冬季少雨，夏季多雨の傾向が宮城県で最も著しい。

(C) 風。宮城県全域と同様に，冬季は西北西～北西の風，夏季は東南東の風が一般的である。なお，本地方も含む海岸部には，日中，海風が著しく発達することが知られている。

(5) 植物相

日本列島における植物帯の分布に関して吉良龍夫（注4）は，温度気候を基礎にして次の四区分を行なっている。エゾマツ・トドマツを主体とする常緑針葉樹林帯。ブナ・ミズナラを主体とする落葉広葉樹林帯。モミ・イヌブナ・クリ・コナラ・シデを主体とする暖帯落葉樹林帯。カシ・シイ・クスを主体とする照葉樹林帯。以上の四区分の中で，沼津貝塚の存在する石巻地方は，暖帯落葉樹林帯に属する。なお，最近の植生調査（注5）によれば，沼津貝塚周辺の植生は植林（スギ・アカマツ）地域，耕作地域とコナラ・クリ林地域とに二大別される。この事実は，吉良の成果とも一致する。

(6) 気候，植生の変遷

日本列島における晩氷期以降の気候と植生の変遷は，各地の花粉分析結果に基づいて，下部からL時代，RⅠ時代，RⅡ時代，RⅢa 時代，RⅢb 時代と区分されている（注6）。ここでは，安田喜憲の見解に基づき（注7），沼津貝塚が存在する石巻地方をも含む東北日本（北海道を除く）について述べる。

(A) L時代。トウヒ属・モミ属・ツガ属・マツ属などを主体とする亜寒帯針葉樹林が生育していた。本時代は，晩氷期と呼ばれる寒冷な時期で，年代はB.P.15000～B.P.10000年と考えられる。

(B) RⅠ時代。亜寒帯針葉樹林にかわって，カバノキ属・ナラ属・ブナ属などを主体とする落葉広葉樹林が，その生育地を急速に拡大した。これはB.P.10000年頃におこった急激な気候温暖化によるものとされ年代はB.P.10000年～B.P.8000年と考えられる。

(C) RⅡ時代。前代のカバノキ属が激減し，コナラ属・ニレ属・ケヤキ属・ハンノキ属・クルミ属・ブナ属などを主体とする落葉広葉樹林が生育していた。このことは，前代以上に気候が温暖化，湿潤化したことを示すとされ，年代はB.P.8000～B.P.3000年と考えられる。

(D) RⅢa 時代。前代のコナラ属が減少し，ブナ属・カバノキ属・ツカ属・モミ属・マツ属などを主体とする落葉広葉樹林が生育していた。本時代の気候は冷涼化に伴って湿潤化したものと考えられる。年代はB.P.3000～B.P.1500年と考えられる。

(E) RⅢb 時代。本時代は，人間による森林破壊が著しくなったと考えられる時代で，イネ科・キク科・ヨモギ属・ギンギシ属などの人間の生産活動と関係する花粉が多くなる。気候は前代と同じか，または幾分温暖化したものと考えられる。年代はB.P.1500年以降と考えられる。

沼津貝塚に人間が，居住を開始したのはRⅡ時代のことである。なお，過去において日比野紘一郎，安田喜憲によって，本貝塚北側の水田，海抜5mの地点より花粉分析試料の採取が行なわれている（注8）。その堆積物の種類は泥炭堆積物で，時代はRⅡ時代，RⅢ時代である。結果の公表は未だなされていない。

(7) 海面高度の変遷

日本列島における海面高度の変遷については，洪積世末以降に開始された汎世界的な気暖の温暖化に伴う現象として説明されており，江坂輝弥（注9）によれば，一般に次のような海面高度の変遷が認められるという。縄文時代早期前葉頃にその当時の沖積低地面まで次第に海水が侵入し始め，早期末葉頃に急激な海面上昇運動が起った。最大海進時はこの時期に求められ，これ以降，海面上昇運動はほぼ停滞し，中期初頭以後，海面が下降するという海退現象が開始され，海岸線は徐々に現在の位置へと後退し始めた。

なお，宮城県における海面高度の変遷に関して伊東信雄（注10）は，江坂輝弥と同様に最大海進時を縄文時代早期末葉に求め，それ以降は海退の時期として考えている。

以上に述べた海面高度の変遷は，沼津貝塚の存在する古稲井湾地域にもほぼ該当するものと考えられる。

注1　菅原祐輔　1973年　「石巻地方の地理と地質」『石巻地方の歴史と民俗』

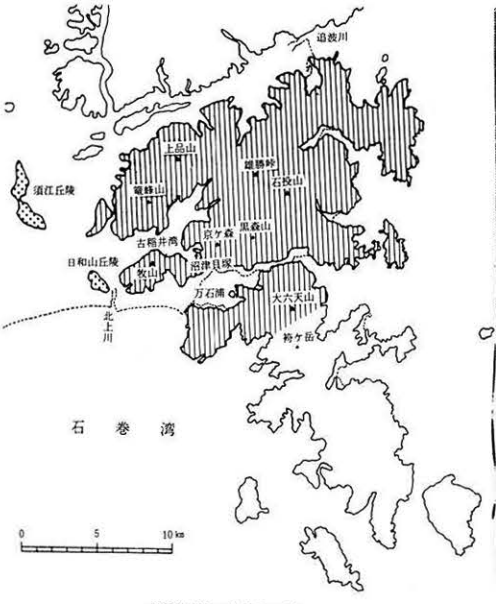
注2　注1と同じ

注3　日本地誌研究所　1971年　「気候」『日本地誌』第4巻

注4　吉良龍夫　1953年　「植物」『日本地理新大系』第1巻

注5　宮 城 県　1973年　『宮城県現存植生図』

注6　中村　純　1967年　『花粉分析』　古今書院



沼津貝塚の自然的環境

沼津貝塚周辺の航空写真（石巻市建設部監理課提供）

沼津貝塚の現状写真（京ケ森より撮影）

沼津貝塚の現状写真（京ケ森より撮影）

第1図版　沼津貝塚の位置

注7　安田喜憲　1974年　「日本列島における晩氷期以降の植生変遷と人類の居住」『第四紀研究』第13巻第3号
　　安田喜憲　1975年　「縄文文化成立期の自然環境」『考古学研究』第21巻第4号

注8　安田喜憲　1974年　「日本列島における晩氷期以降の植生変遷と人類の居住」『第四紀研究』第13巻第3号

注9　江坂輝弥　1965年　「生活の舞台」『日本の考古学』Ⅱ

注10　伊東信雄　1957年　「古代史」『宮城県史』Ⅰ

第三節　沼津貝塚の歴史的環境

沼津貝塚の歴史的環境を述べるに際しては，便宜的に一部北上川河口地域を含む古稲井湾地域に限定した。また，原始時代（旧石器時代，縄文時代，弥生時代），古代（古墳時代，奈良・平安時代），中世という区分も便宜的なものである。

(1)　原始時代

(A)　旧石器時代

自然物の獲得経済段階にあった旧石器時代の遺跡は，古稲井湾地域において現在のところ発見されていない。

(B) 縄文時代

自然物の獲得経済段階にあった縄文時代の遺跡は，古稲井湾地域においては現在，15遺跡発見されている。本地域における縄文時代の発展段階は遺跡の数，遺跡の居住期間から三時期に区分される。

縄文時代早期後葉～前期前葉

本地域において縄文時代の遺跡が営まれ始めた時期である。この時期の遺跡としては沼津貝塚，南境貝塚，明神山下貝塚があげられるが，遺跡の居住期間は短い。これらの遺跡から発見された遺物は少ない。

縄文時代前期中葉～中期前葉

本地域において縄文時代の遺跡が減少する時期である。この時期の遺跡としては沼津貝塚，越田台遺跡があげられる。これらの遺跡の居住期間は短い。これらの遺跡から発見された遺物はきわめて少ない。

縄文時代中期中葉以降

本地域において縄文時代の遺跡が増加する時期である。この時期の遺跡としては沼津貝塚，南境貝塚，小沢貝塚，明神山下貝塚，小多田遺跡，永巌寺貝塚，寺前貝塚があげられる。これらの遺跡の居住期間は長く，発見された遺物もきわめて多い。

第1表　古稲井湾地域における縄文時代の遺跡とその時期

番号	遺跡名＼型式名	早期	前期						中期					後期		晩期				
		大寺山1式	素川名1式	上川名2式	大木1式	大木2a式	大木2b式	大木3式	大木4式	大木5式	大木6式	大木7a式	大木7b式	大木8a式	大木8b式	大木9式	大木10式	南境式	宝峯寺式	金ケ剛寺式	大洞B式	大洞BC式	大洞C1式	大洞C2式	大洞A式	大洞A′式
1	沼津貝塚			○						○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	永巌寺貝塚																								○	○	○
3	舘山貝塚																										
4	明神山下貝塚																		○								
5	内原遺跡																										
6	小沢貝塚															○	○	○	○								
7	南境貝塚		○	○	○									○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
8	小多田遺跡																		○								
9	越田台遺跡											○															
10	堤貝塚								○	○																	
12	台A遺跡																										
13	由利郷遺跡																										
14	入遺跡																										
15	寺前貝塚																			○	○	○	○				

※ 明神山下貝塚からは繊維土器が発見されている。

(C) 弥生時代

現在，古稲井湾地域において知られている弥生時代の遺跡は沼津貝塚のみである。本貝塚からは弥生土器とともに石庖丁が発見されている。このことから弥生時代の主な経済基盤は，縄文時代以来の自然物獲得経済段階にあったものの，本貝塚周辺のごく一部において谷地などを利用した小規模な水稲耕作が開始されたと考えられる。

(2) 古代

(A) 古墳時代

現在，古稲井湾地域において知られている古墳時代の遺跡としては沼津貝塚，田道町遺跡があげられる。これらの遺跡からは塩釜式期の土師器が発見されているが，古墳の築造は本地域には見られない。しかし，古稲井湾地域の南西，仙石線石巻駅の南西約3kmの位置（石巻市門脇）に釜東古墳・釜西古墳が存在する。なお，本地域ではこの時代，弥生時代以来の水稲耕作が行なわれていたと考えられる。

(B) 奈良・平安時代

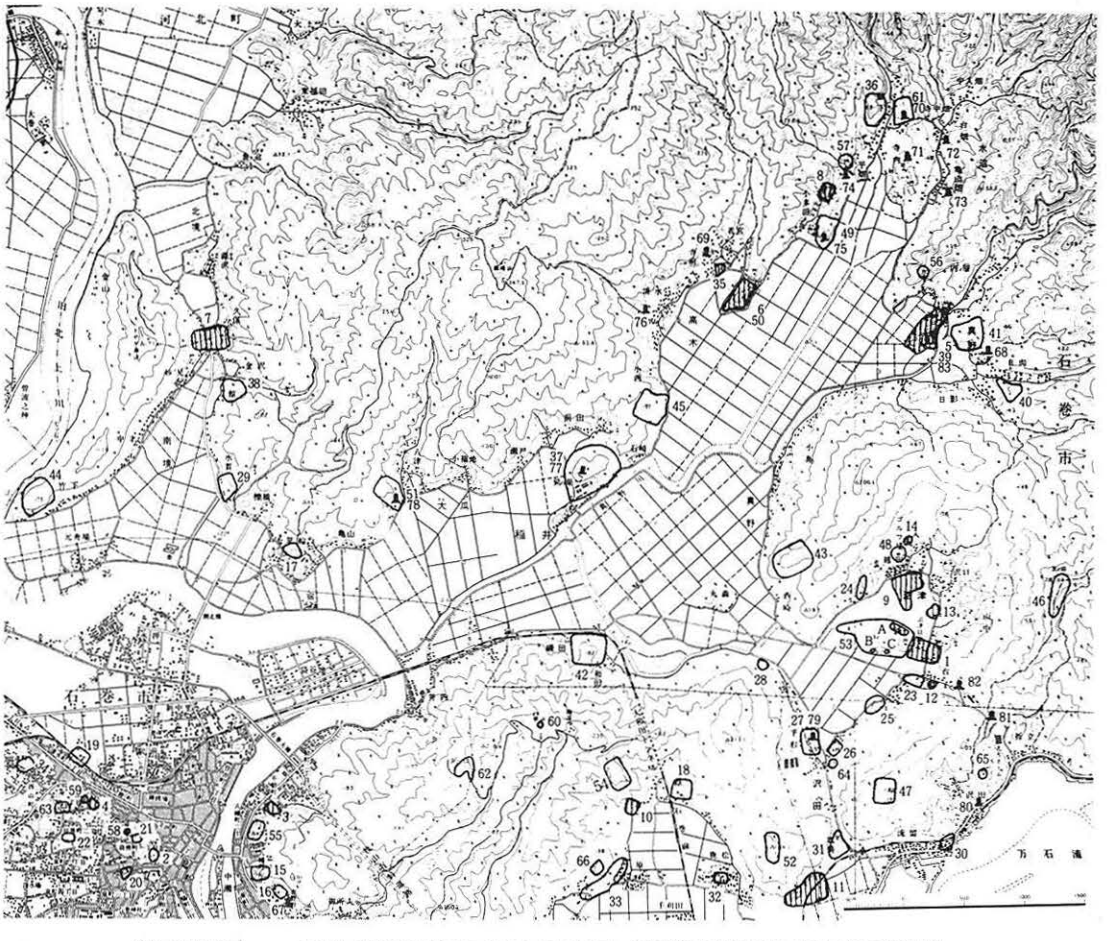
この時代になると，古稲井湾地域も律令制度に基づく政治体制に組み入れられたものと考えられる。現在，本地域において知られている奈良時代・平安時代の遺跡は沼津貝塚を含めて17遺跡を数える。この遺跡数の急激な増加は弥生時代・古墳時代と比較して，相対的に生産力が高まってきたことを示し，その主な経済的基盤は水稲耕作面積の拡大によるものと考えられる。なお，本地域には磯田貝塚，平形貝塚，平形山根貝塚などの貝塚も知られている。

(3) 中世

古稲井湾地域において中世の所産と考えられる舘跡は10を数える。各舘は鎌倉時代後期以降，本地域をも含む登米郡・牡鹿郡・桃生郡・気仙郡を支配した葛西氏の支配の下で構築されたと考えられる。また，

本地域には数多くの板碑が存在する。主なものとしては長谷寺板碑群・安楽寺板碑群・観音堂板碑群・八津板碑群などがあげられる。板碑の分布は水沼，真野，高木地区に集中する傾向があり，沼津貝塚周辺は希薄で出現時期も遅い。

この時代の経済的基盤は主に水田経営にあったが，それは自然条件と当時の技術的条件とに大きく制約され，近世以降と比較して不安定な状況下にあったと考えられる。



第 2 図版　　沼津貝塚周辺の遺跡分布図（斜線箇所は縄文時代の遺跡）

第2表　沼津貝塚周辺の遺跡地名一覧表

番号	遺跡名	遺跡所在地	時代	番号	遺跡名	遺跡所在地	時代
1	沼津貝塚	沼津字出外	縄文～平安	43	陣ケ森舘跡	真野字半堂崎	
2	永巌寺貝塚	泉町一丁目	縄文，平安	44	竹下舘跡	南境字竹下	
3	舘山遺跡	湊字不動町	縄文	45	高木舘跡	高木字油畑	中世
4	明神山下貝塚	字殻町	縄文	46	京ケ森舘跡	沼津字京ケ森	
5	内原遺跡	真野字小山	縄文，平安	47	平形舘跡	沢田字平形山	
6	小沢貝塚	高木字小沢	縄文	48	出雲舘跡	沼津字越田	中世
7	南境貝塚	南境字妙見	縄文	49	水沼古舘跡	水沼字小多田	中世
8	小多田遺跡	水沼字小多田	縄文	50	三日防舘跡	高木字小沢	
9	越田台遺跡	沼津字越田	縄文，平安	51	大瓜舘跡	八津字屋敷山	中世
10	堤貝塚	渡波字貉坂山	縄文，平安	52	牛ノ鞍舘跡	沢田字裏沢田	
11	垂水遺跡	流留字垂水	縄文～中世	53	鷲小坂舘跡	沼津字八幡山	
12	台A遺跡	沢田字台	縄文	54	早坂山舘跡	渡波字早坂山	
13	由利郷遺跡	沼津由利郷	縄文，平安	55	湊舘山舘跡	湊字不動町	
14	入遺跡	沼津字入	縄文	56	零羊崎神社	真野字馬場山	
15	五松山洞窟	八幡一丁目	奈良，平安	57	伊去波夜和気命神社	水沼字与市	
16	湊小学校遺跡	湊町一丁目	奈良	58	鳥屋神社	羽黒町一丁目	
17	箕輪山遺跡	稲井大瓜棚橋	奈良，平安	59	鳥屋崎神社	羽黒町二丁目	
18	際遺跡	渡波字転石山	奈良	60	零羊崎神社	字牧山	
19	清水尻遺跡	字清水町一丁目	奈良，平安	61	安楽寺跡	水沼字寺内	
20	梅ケ丘遺跡	泉町一丁目	平安	62	魔鬼山寺跡	字船石前山	
21	羽黒山遺跡	羽黒町一丁目	平安	63	明神山経塚	山下町一丁目	
22	明神山遺跡	羽黒町二丁目	平安	64	平形日影山経塚	沢田字平形日影山	
23	台B遺跡	沢田字台	平安	65	沢田日影山マウンド	沢田字日影山	
24	小供遺跡	沢田字小供	平安	66	貉坂山経塚	渡波字貉坂山	
25	磯田貝塚	沢田字磯田	平安	67	多福院板碑群	吉野町一丁目	
26	平形貝塚	沢田字平形	平安	68	長谷寺板碑群	真野字萱原	建治～天文
27	平形山根貝塚	沢田字平形山根	平安	69	吉祥寺境内板碑	高木字寺前	応永
28	広見山貝塚	沢田字広見山	平安	70	安楽寺跡板碑群	水沼字寺内	弘安～室町応永
29	水貫山遺跡	南境字水貫山	平安	71	板碑	水沼龍泉院境内	鎌倉
30	町貝塚	流留字町	中世	72	板碑	水沼字寺中畑	無年号
31	取揚坂貝塚	流留字取揚	中世	73	板碑	水沼字亀山畑	無年号
32	鹿松貝塚	渡波字鹿松	中世	74	板碑	水沼字与市	
33	鹿妻貝塚	鹿妻字山崎	中世，近世	75	板碑	水沼字小多田	貞和
34	田道町遺跡	田道町二丁目	古墳～平安	76	観音堂板碑群	高木字竹下	永仁～室町
35	寺前貝塚	高木字寺前	縄文	77	板碑	稲井字鷲ノ巣	
36	水沼舘跡	水沼字舘下	中世	78	八津板碑群	稲井大瓜八津	南北朝～室町
37	鷲ノ巣舘跡	大瓜字鷲ノ巣	中世	79	板碑	沢田字平形山根	
38	南境舘跡	南境字舘山	中世	80	板碑	沢田字駅前	
39	小屋舘跡	真野字小山	中世	81	板碑	沢田金山小学校東	
40	構舘跡	真野字八森山	中世	82	板碑	沢田金山小学校西	
41	寺舘跡	真野字山王山	中世	83	板碑	真野字小山	
42	大和田舘跡	大和田字竹下					

第四節　沼津貝塚の研究史

沼津貝塚が初めて文献に現われるのは1773年と古く，『安永二年牡鹿郡陸方沼津村風土記御用書出』においてである。それによれば靄舘付近の畑，すなわち現在の沼津貝塚から石鏃や土器が発見されたことが記されている。

第二次世界大戦以前の研究

このように沼津貝塚は古くから知られていたものの，学術的な価値が認識されるようになったのは20世紀初頭頃からである。石巻在住の研究者，毛利総七郎，遠藤源七は，常にアカデミックな研究者（注1）と密接な連絡を取りながら，1909年から1930年までの20余年間にわたって本貝塚の継続的調査を実施した（注2）。その結果，縄文土器をはじめとする各種の土製品，石製品，骨角製品など膨大な数にのぼる遺物が発見された（注3）。これらの遺物について両名は常に公開するという立場を貫いたため(注4)，本貝塚の遺物は多くの研究者の研究材料となった。とくに本貝塚の骨角製品の研究が盛んに行なわれ，そのなかには現在の縄文時代の研究にとって欠くことのできない研究論文も数多い。また，毛利，遠藤自らも長年にわたる本貝塚発掘調査の総括として『陸前沼津貝塚骨角器図録』，及び『陸前沼津貝塚骨角器図録解説』を出版した。以上のような経過から，本貝塚はわが国でもきわめて著名な遺跡の一つに数えられるに至った。

第二次世界大戦以後の研究

第二次世界大戦以後は，それまで蓄積されてきた考古学の成果が国民にも浸透した時期である。沼津貝塚も数多くの研究成果の公表によって研究者の間ばかりでなく，国民にも広く紹介され，本貝塚の知名度は一段と高くなった。その知名度の高さは主に遺物によるものであったが，最近，林謙作は仙台湾沿岸地域における縄文時代の社会の発展に関する試論の中で，本貝塚を取り上げている（注5）。これは沼津貝塚に関する研究としては新しい研究の部類に属するであろう。1945年以降における本貝塚の発掘調査としては，1958年に多摩考古学会が実施した調査，1963年に東北大学文学部考古学研究室が実施した調査，1967年に宮城県教育委員会が実施した調査があげられる。これらの調査では，いずれも多量の遺物が出土した。

注1　沼津貝塚を訪れた主な研究者としては江見水蔭，大山柏，喜田貞吉，清野謙次，小金井良精，後藤守一，直良信夫，柴田常恵，杉山寿栄男，高橋健自，中谷治宇治郎，長谷部言人，柳田国男，八幡一郎，山内清男などがあげられる。

注2　発掘調査地域は本貝塚の北側，貝層の散布する斜面で，畑の区面を利用して1区から13区に区分して調査を実施したが，各地の全面積を発掘したのではない。また，基盤に達するまで深く掘り下げて調査した区はきわめて少ない。

注3　本貝塚出土遺物のうち473点が国の重要文化財に指定されている。

注4　毛利，遠藤は，本貝塚出土遺物を研究者に公開したばかりでなく，毛利邸内に石巻考古舘を建設して，資料の収集，保管を行ない，一般の見学者にも公開した。なお，本貝塚がきわめて有名なのにもかかわらず，発掘調査が両名のみによって実施され，その出土遺物の散逸がきわめて少ないということも注目に値する。

注5　林謙作　1974年　「縄文期の集団領域」『考古学研究』第20巻第4号

第3表　沼津貝塚の発掘調査と主要関係文献

1773年	文献	『安永二年牡鹿郡陸方沼津村風土記御用書出』　「比辺畑より今ニ矢ノ根并瓦かわらけ等の類出申候事」と沼津貝塚について記している。
1909年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はH－2グリット（第1区）
1911年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はF－2グリット（第9区）
1918年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はF－2グリット（第9区）
1919年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はF－2グリット，F－2グリット（第10区）
1920年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はE－2グリット（第11区）
1925年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はI－2グリット，J－2グリット（第3区）

1926年	発掘 文献	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はH－２グリット（第１区） 長谷部言人「燕形銛頭」『人類学雑誌』第41巻第３号　　燕形銛頭という概念規定を行なっている。
1927年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はＩ－３グリット（第５区），Ｈ－３グリット，Ｉ－３グリット（第６区）
1928年	発掘 文献 文献	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はＩ－３グリット（第５区），Ｈ－３グリット，Ｉ－３グリット（第６区） 東京帝国大学『日本石器時代遺物発見地名表』増訂第５版 杉山寿栄男『日本原始工芸』
1929年	発掘	毛利総七郎，遠藤源七　　発掘地域はＪ－３グリット（第４区）
1930年	発掘	毛利総七郎，遠藤渡七　　発掘地域はＧ－２グリット，Ｇ－３グリット（第７区），Ｇ－２グリット（第８区）
1932年	文献 文献	大山　柏「陸前国稲井村沼津貝塚に就いて」『史前学雑誌』第４巻第１号　　1929年４月23日，大山柏，小金井良精，長谷部言人，杉山寿栄男が沼津貝塚の発掘を見学した際，Ｊ－３グリット（第４区）から成人人骨一体が発見されたことを記している。 大山　柏「陸前国稲井村沼津貝塚出土の一部骨角器」『史前学雑誌』第４巻第１号 毛利総七郎，遠藤源七が大山史前学研究所に寄贈した骨角器を紹介している。
1936年	文献 文献	喜田貞吉「日本石器時代の終末期に就いて」『ミネルヴァ』第１巻第３号　　沼津貝塚において鹹水産貝だけを出土する場所と，淡水産貝だけを出土する場所があるということを指摘している。 山内清男「日本考古学の秩序」『ミネルヴァ』第１巻第４号　　「喜田博士は陸前沼津貝塚に鹹水産と淡水産貝を出す部分があり共に亀ケ岡式を出す。それ故亀ケ岡式は長期に亘っていると推定されているが，この場合にも夫々亀ケ岡式中の如何なる細別型式に属するかを調査されたら面白いと思う。」と述べている。
1939年	文献 文献 文献	甲野　勇「弭形角製品に就いて（上）」『考古学雑誌』第29巻第９号　　従来，弭形角製品と呼称されていた角製品を弭と考えた。 甲野　勇「弭形角製品に就いて（下）」『考古学雑誌』第29巻第10号 甲野　勇「所謂〝浮袋の口〟に就いて」『人類学雑誌』第54巻第２号　　従来，浮袋の口と呼称されていた角製品を弭形角製品と同様な機能を持つものと考えた。
1940年	文献	毛利総七郎，遠藤源七『陸前沼津貝塚骨角器図録』　　毛利総七郎，遠藤源七が長年にわたって発掘調査を実施した沼津貝塚の出土遺物を多数収録している。
1952年	文献	加藤　孝「阿武隈，北上両河岸段丘，並びに松島湾諸島に於ける貝塚の分布と，その編年」『宮城学院女子大学研究論文集』Ⅱ　　沼津貝塚に泥炭層が存在することを指摘している。
1953年	文献	毛利総七郎，遠藤源七『陸前沼津貝塚骨角器図録解説』
1957年	文献	伊東信雄「古代史」『宮城県史』Ⅰ
1958年	発掘	多摩考古学会　　発掘地域はＣ－７グリット。発掘期間は７月23日～25日。出土した遺物は縄文土器（大木８ｂ式，大木９式，門前式，宝ケ峰式，金剛寺式）をはじめとする土製品，石製品，骨角製品である。
1959年	文献	酒詰仲男『日本貝塚地名表』
1960年	文献	楠本政助「宮城県南境貝塚出土の離頭銛頭について」『東北考古学』１　　従来，角鏃と考えられていた角製品は，実は古い型式の離頭銛（古式離頭銛）であるということを明らかにしている。
1962年	文献	東北大学文学部東北文化研究所「沼津貝塚出土石器時代遺物」『東北大学文学部東北文化研究所考古資料』第一集　　毛利総七郎，遠藤源七が沼津貝塚出土遺物を東北大学に譲渡した。本集，及び第二集，第三集はその一部を紹介したものである。
1963年	発掘	東北大学文学部考古学研究室　　発掘地域はＪ－２グリット。発掘期間は10月17日～12月。発掘面積は51㎡。出土した遺物は縄文土器（下層からは南境式，上層からは大

	文献	洞B式～大洞A′式が出土した）をはじめとする土製品，石製品，骨角製品である。 東北大学文学部日本文化研究所「沼津貝塚出土石器時代遺物」Ⅱ『東北大学文学部日本文化研究所考古資料』第二集。
1964年	文献	楠本政助『石巻周辺の遺跡について』　沼津貝塚から縄文時代前期大木５式，大木６式土器が発見されることを記している。 東北大学文学部日本文化研究所「沼津貝塚出土石器時代遺物」Ⅲ『東北大学文学部日本文化研究所考古資料』第三集
1965年	文献	井上郷太郎，大谷剋，星野佐和子，佐々木蔵之助「宮城県牡鹿郡稲井町沼津貝塚調査報告」『多摩考古』７　1958年，多摩考古学会が実施した沼津貝塚の発掘調査報告である。
1967年	発掘	宮城県教育委員会　発掘地域はH－３グリット，H－４グリット（遺跡の中央を南北方向に走る道路，西側に平行して設定した２ｍ×20ｍのトレンチ），H－６グリット（同じく2.5ｍ×7.5ｍのトレンチ）。発掘期間は10月５日～20日。H－３グリット，H－４グリットから出土した遺物は縄文土器（大木９式，大木10式，南境式，晩期後葉）をはじめとする土製品，石製品，骨角製品である。H－６グリットから出土した遺物は縄文土器（中期後葉）をはじめとする土製品，石製品である。
1968年	文献	伊東信雄「宮城県牡鹿郡稲井町沼津貝塚」『日本考古学年報』16　1963年，東北大学文学部考古学研究室が実施した沼津貝塚発掘調査の概要を記している。
1969年	文献	渡辺　誠「燕形離頭銛頭について」『古代文化』第21巻第９・10号　沼津型離頭銛頭という概念規定を行なっている。
1970年	文献	丹羽　茂「宮城県沼津貝塚発見の石庖丁」『しのぶ考古』１　沼津貝塚から発見された石庖丁を紹介している。
1971年	文献	堀野宗俊「仙台湾周辺発見の貝刃について」『仙台湾』創刊号　沼津貝塚から発見された貝刃を紹介している。
1972年	文献	後藤勝彦「東北に於ける古代製塩技術の研究」『宮城史学』２号　沼津貝塚から縄文時代晩期の製塩土器が発見されたことを記している。
	文献	金子浩昌「沼津貝塚出土の骨角製品」『仙台湾』第２号　沼津貝塚から出土した骨角製品の素材について記している。
	文献	渡辺　誠「縄文時代における植物質食料採集活動の研究」『古代文化』第24巻第５・６号　沼津貝塚から縄文時代晩期に属するクルミが発見されたことを記している。
	文献	藤沼邦彦「沼津貝塚」『日本考古学年報』20　1967年，宮城県教育委員会が実施した沼津貝塚発掘調査の概要を記している。
1973年	文献	楠本政助「先史」『矢本町史』第１巻　沼津貝塚から発見された多数の遺物を紹介している。また，1963年，東北大学文学部考古学研究室が実施した沼津貝塚発掘調査の写真も収録している。
1974年	文献	林　謙作「縄文期の集団領域」『考古学研究』第20巻第４号　仙台湾沿岸地域において縄文時代中期末葉から晩期末葉まで集落が営なまれる遺跡として沼津貝塚をあげている。

第五節　沼津貝塚の分布調査

沼津貝塚における分布調査（注１）はグリット方式を採用した。グリットは20ｍ四方のもので，1975年１月に実施した沼津貝塚平面図作成の際，設置した基準杭ＴＡ13と史跡地区界を示す杭50を結ぶ線を基準線とした（附録(4)沼津貝塚グリット配置，及び遺物包含層分布図参照）。グリットは史跡指定地区を中心として設定したもので，名称は基準線にはアルファベット，その直交線上にはアラビア数字を用いた。以下，各グリットにおける分布調査の概要を示す。

第4表　各グリットにおける分布調査結果の概要

区　名	地　　目	状　　況
A－6	山林	観察不可能
A－7	山林，畑地	縄文土器少数
A－8	畑地	縄文土器少数，土師器少数，須恵器少数
A－9	畑地	縄文土器少数，土師器少数，須恵器少数
B－1	畑地	縄文土器少数
B－2	畑地	縄文土器少数
B－3	山林，畑地	縄文土器少数
B－4	山林，畑地	縄文土器少数
B－5	畑地，神社参道	縄文土器少数
B－6	畑地	第6遺物包含層：ハマグリ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式） 第10遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（後期南境式，宝ケ峰式）
B－7	畑地	第10遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（後期南境式，宝ケ峰式） 第13遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式，金剛寺式）
B－8	畑地	第13遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式，金剛寺式）
B－9	畑地	縄文土器多数（後期南境式，宝ケ峰式，晩期）
C－1	畑地	縄文土器少数
C－2	畑地	第20遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C 2式～大洞A′式）
C－3	畑地	第4遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式） 第20遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C 2式～大洞A′式） 第24遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式）
C－4	畑地	第4遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式）
C－5	畑地，神社参道	第26遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式）
C－6	畑地	第10遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（後期南境式，宝ケ峰式） 第26遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式）
C－7	畑地	第10遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（後期南境式，宝ケ峰式） 第13遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式，金剛寺式）
C－8	畑地	第7遺物包含層：ハマグリ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式） 第13遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式，金剛寺式）
C－9	畑地	縄文土器多数（後期）
D－1	水田，畑地	第11遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第20遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C 2式～大洞A′式）
D－2	畑地	第5遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式） 第11遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第20遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C 2式～大洞A′式）
D－3	畑地	第5遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（中期大木9式，大木10式） 第11遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第12遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第24遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式）
D－4	畑地	第12遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式）

区　名	地　　目	状　　況
D－5	畑地，神社参道	第26遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式） グリッド全体：縄文土器多数（中期，後期，晩期）
D－6	畑地	第26遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式）
D－7	畑地	第３遺物包含層：縄文土器少数（前期大木１式） 第７遺物包含層：ハマグリ主体，縄文土器多数（中期大木９式，大木10式） 第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式） グリッド全体：縄文土器多数（後期）
D－8	畑地，休閑地	第７遺物包含層：ハマグリ主体，縄文土器多数（中期大木９式，大木10式） 第17遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期金剛寺式） 第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式），土師器少数
D－9	畑地，休閑地	縄文土器少数
D－10	畑地，休閑地	観察不可能
E－1	水田，畑地	第11遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式）
E－2	畑地	第５遺物包含層：ハマグリ，カキ主体，縄文土器多数（中期大木９式，大木10式） 第11遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第21遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式）
E－3	畑地	第１遺物包含層：縄文土器少数（前期大木１式） 第21遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式）
E－4	畑地	縄文土器少数
E－5	畑地，神社参道	縄文土器多数（後期，晩期）
E－6	畑地	縄文土器多数（後期，晩期），須恵器少数
E－7	畑地	第３遺物包含層：縄文土器少数（前期大木１式） 第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式）
E－8	畑地	第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式）
E－9	畑地，休閑地	縄文土器少数
E－10	水田	観察不可能
F－1	水田，畑地	第21遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式）
F－2	畑地	第16遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期金剛寺式） 第19遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（晩期大洞ＢＣ式，大洞C_1式） 第21遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式）
F－3	畑地	第19遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（晩期大洞ＢＣ式，大洞C_1式） 第21遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式） 第29遺物包含層：弥生土器少数（大泉式）
F－4		第29遺物包含層：弥生土器少数（大泉式）
F－5	畑地，神社参道	縄文土器多数（後期，晩期），須恵器少数
F－6	畑地	縄文土器多数（後期，晩期），須恵器少数
F－7	畑地	第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞A′式）
F－8	畑地，休閑地	第15遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式～晩期大洞C_1式） 第18遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期～晩期大洞Ｂ式） 第27遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式，製塩土器）
F－9	畑地，休閑地	第15遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰～晩期大洞C_1式）

区　名	地　　目	状　　況
F－10	水田	観察不可能
G－1	水田，畑地	縄文土器多数（中期大木９式，大木10式，後期，晩期）
G－2	畑地	第19遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（晩期大洞ＢＣ式，大洞C_1式） 第25遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞Ａ式，大洞Ａ′式，製塩土器）
G－3	畑地	第２遺物包含層：ハマグリ主体，縄文土器多数（中期大木９式，大木10式，後期南境式） 第19遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（晩期大洞BC式，大洞C_1式） 第25遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞A式，大洞A′式，製塩土器）
G－4	畑地	第29遺物包含層：弥生土器少数（大泉式）
G－5	畑地，神社参道	縄文土器多数（中期，後期，晩期）
G－6	畑地	第８遺物包含層：縄文土器多数（中期大木９式，大木10式，後期，晩期）
G－7	畑地	第14遺物包含層：カキ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式） 第15遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式～晩期大洞C_1式） 第23遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式～大洞Ａ′式）
G－8	畑地	第15遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式～晩期大洞C_1式） 第23遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式～大洞Ａ′式）
G－9	畑地，休閑地	第15遺物包含層：アサリ主体，縄文土器多数（後期宝ケ峰式～晩期大洞C_1式）
G－10	水田	観察不可能
H－1	市道，宅地	観察不可能
H－2	市道，宅地	観察不可能
H－3	市道，宅地，畑地	第９遺物包含層：カキ，アサリ主体（後期南境式～金剛寺式，晩期大洞Ｂ式～大洞C_1式）
H－4	市道，畑地	縄文土器少数
H－5	市道，畑地	縄文土器少数，土師器少数
H－6	市道，畑地	第８遺物包含層：縄文土器多数（中期大木９式，大木10式，晩期）
H－7	市道，畑地	縄文土器少数
H－8	市道，宅地，畑地	縄文土器少数（後期）
H－9	宅地，水田	観察不可能
I－1	宅地，休閑地	観察不可能
I－2	宅地，休閑地	観察不可能
I－3	畑地	第９遺物包含層：カキ，アサリ主体，縄文土器多数（後期南境式～金剛寺式，晩期大洞Ｂ式～大洞C_1式） 第22遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C_2式）
I－4	畑地	縄文土器多数，土師器少数，須恵器少数
I－5	畑地	縄文土器少数，須恵器少数
I－6	畑地，竹林，宅地	縄文土器少数
J－1	休閑地	観察不可能
J－2	休閑地	観察不可能

区　名	地　　目	状　　況
J－3	畑地	第9遺物包含層：カキ，アサリ主体，縄文土器多数（後期南境式～金剛寺式，晩期大洞B式～大洞C$_1$式） 第22遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C$_2$式）
J－4	畑地	縄文土器多数，土師器少数，須恵器少数
J－5	畑地	縄文土器少数，須恵器少数
J－6	畑地，竹林，宅地	縄文土器少数
K－1	宅地，休閑地	観察不可能
K－2	畑地，休閑地	観察不可能
K－3	畑地	第22遺物包含層：シジミ主体，縄文土器多数（晩期大洞C$_2$式）
K－4	畑地	縄文土器少数
K－5	畑地	縄文土器少数
L－1	宅地，休閑地	観察不可能
L－2	畑地，休閑地	観察不可能
L－3	畑地	縄文土器少数
L－4	畑地	縄文土器少数
L－5	畑地，宅地	縄文土器少数
M－1	宅地，休閑地	観察不可能
M－2	休閑地	観察不可能
M－3	畑地，休閑地	観察不可能
M－4	畑地，休閑地	縄文土器少数
M－5	畑地，宅地	縄文土器少数

以上，グリットを設定した地域の分布調査結果を表に示したが，今回の調査によってグリット設定地域外からも遺物が散布する場所が発見された。その概要を述べる。

A（第1図版，第2図版参照）

沼津貝塚が存在する丘陵北斜面に位置する。指定地区からは東北東の位置にあり，現在は畑として利用されている。遺物は縄文土器少数，石鏃1点が発見された。

B（第1図版，第2図版参照）

沼津貝塚が存在する丘陵南斜面に位置する。指定地区からは東の位置にあり，現在は山林，農道，水田として利用されている。遺物はハマグリ，アサリ等の自然遺物が多数発見された。

C（第1図版，第2図版参照）

沼津貝塚が存在する丘陵南斜面に位置する。指定地区からは東の位置にあり，現在は畑として利用されている。遺物は土師器，アサリが少数発見された。

注1　今回の分布調査に際しては，開北小学校児童有志の協力を得た。

第六節　沼津貝塚の遺構

現在までに沼津貝塚から発見された遺構（注１）としては，遺物包含層があげられる(注２)。これは中村光一氏による綿密な分布調査，今回の分布調査，過去における発掘調査とを考慮に入れて推定したものである(注３)。この遺物包含層は各々一つのまとまりを成し，時期が異なるとそれが存在する位置も変化する。以下，本貝塚における遺物包含層の概要を表と図に示すが，各々の遺物包含層には便宜的に番号を付けた。

注１：大井晴男(1966年『野外考古学』)は，「遺構とは，その地点における彼らの行動のうちで，それらの位置的関係が意識的に固定されていたと考えられるものを指す」と遺構に関して概念規定を行なっている。

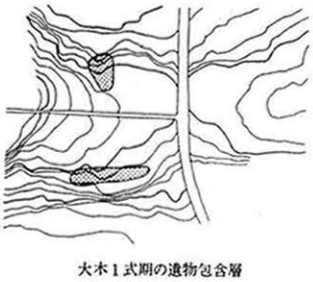
注２：大山柏(1932年「陸前国稲井村沼津貝塚に就いて」『史前学雑誌』第４巻第１号)は，1929年に毛利総七郎，遠藤源七が実施した本貝塚J-３グリット（第４区）の発掘調査において，成人人骨一体が発見されたことを記している。これは，埋葬の遺構としての可能性が考えられるが，その詳細が不明なのでここでは除外した。
また，楠本政助(1973年「先史」『矢本町史』第１巻)は，1963年に東北大学文学部考古学研究室が実施した本貝塚J-2グリットの発掘調査において，縄文時代晩期初頭に属する住居跡の中における炉跡が発見されたことを記している。しかし，発掘調査者である伊東信雄(1968年「宮城県牡鹿郡稲井町沼津貝塚」『日本考古学年報』16)は，それについてふれていない。よって，ここでは一応除外した。

注３：この遺物包含層の推定は主に表面調査によるものであり，地表下に埋蔵されている遺物包含層とは若干の相違が考えられる。

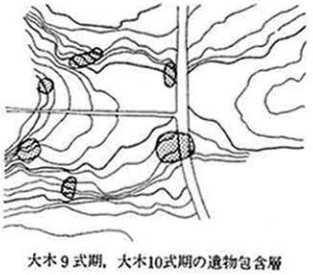
第5表　各時期毎の遺物包含層の概要

時期	包含層	位置（グリッド名）	標高(m)	状況，備考
大木１式期	第１遺物包含層	D-2, D-3, E-2, E-3, E-4	17～20	貝層は形成しない。
	第３遺物包含層	D-7, E-7, F-7, G-7	18～20	貝層は形成しない。
大木９式期	第２遺物包含層	G-3, G-4	18～20	ハマグリ主体，大木８b式も採集される。
大木10式期	第４遺物包含層	B-3, B-4, C-3, C-4	23～25	ハマグリ主体，大木８b式も採集される。
	第５遺物包含層	D-2, D-3, E-2, E-3	16～20	ハマグリ主体，大木８b式も採集される。
	第６遺物包含層	B-6, C-6	20～24	ハマグリ主体，大木８b式も採集される。
	第７遺物包含層	C-7, C-8, D-7, D-8	15～18	ハマグリ主体，大木８b式も採集される。
	第８遺物包含層	G-5, G-6, H-5, H-6	17～19	貝層は形成しない。大木8b式も採集される。
南境式期	第２遺物包含層	G-3, G-4	18～20	ハマグリ主体
	第９遺物包含層	H-2, H-3, I-2, I-3, J-2, J-3	17～20	ハマグリ，カキ主体
	第10遺物包含層	B-6, B-7, C-6, C-7	17～23	ハマグリ主体
宝ケ峰式期	第９遺物包含層	H-2, H-3, I-2, I-3, J-2, J-3	17～20	アサリ主体
	第10遺物包含層	B-6, B-7, C-6, C-7	17～23	ハマグリ，カキ主体
	第11遺物包含層	C-2, D-1, D-2, D-3, E-1, E-2, E-3	15～20	アサリ主体
	第12遺物包含層	D-3, D-4, E-3, E-4	20～22	アサリ主体
	第13遺物包含層	B-7, B-8, C-8, D-7	14～20	アサリ主体
	第14遺物包含層	G-7	15～17	カキ主体
	第15遺物包含層	F-8, F-9, G-7, G-8, G-9, H-8	12～15	アサリ主体

時期	包含層	位置（グリッド名）	標高(m)	状況，備考
金剛時式期	第9遺物包含層	H-2, H-3, I-2, I-3, J-2, J-3	17～20	アサリ主体
	第13遺物包含層	B-7, B-8, C-7, C-8, D-7	14～20	アサリ主体
	第15遺物包含層	F-8, F-9, G-7, G-8, G-9, H-8	12～15	アサリ主体
	第16遺物包含層	F-2	17～19	アサリ主体
	第17遺物包含層	D-8, D-9, E-8, E-9	12～14	アサリ主体
	第18遺物包含層	F-8, G-8	19～21	アサリ主体
大洞B式期	第9遺物包含層	H-2, H-3, I-3, J-2, J-3	17～20	アサリ主体
	第15遺物包含層	F-8, F-9, G-7, G-8, G-9, H-8	12～15	アサリ主体
	第18遺物包含層	F-8, G-8	19～21	アサリ主体
大洞BC式 大洞C_1式期	第9遺物包含層	H-2, H-3, I-2, I-3, J-2, J-3	17～20	アサリ主体
	第15遺物包含層	F-8, F-9, G-7, G-8, G-9, H-8	12～15	アサリ主体
	第19遺物包含層	E-2, E-3, F-2, F-3, G-2, G-3	16～20	アサリ主体
大洞C_2式期	第20遺物包含層	C-1, C-2, C-3, D-1, D-2, D-3	15～22	シジミ主体
	第21遺物包含層	E-1, E-2, E-3, F-1, F-2, F-3	15～20	シジミ主体
	第22遺物包含層	H-2, I-1, I-2, I-3, J-1, J-2, J-3, K-2, K-3	17～20	シジミ主体
	第23遺物包含層	G-7, G-8, H-7, H-8	14～15	シジミ主体
大洞A式期 大洞A′式期	第20遺物包含層	C-1, C-2, C-3, D-1, D-2, D-3	15～22	シジミ主体
	第23遺物包含層	G-7, G-8, H-7, H-8	15～15	シジミ主体
	第24遺物包含層	C-3, C-4, D-3, D-4	20～23	シジミ主体
	第25遺物包含層	G-2, G-3, H-2	16～20	シジミ主体
	第26遺物包含層	C-5, C-6, D-5, D-6	23	シジミ主体
	第27遺物包含層	D-7, D-8, E-7, E-8, F-7, F-8	15～18	シジミ主体
大泉式期 (弥生時代)	第28遺物包含層	G-3	17～18	シジミ主体
	第29遺物包含層	F-3, F-4, G-3, G-4	20	貝層は形成しない。

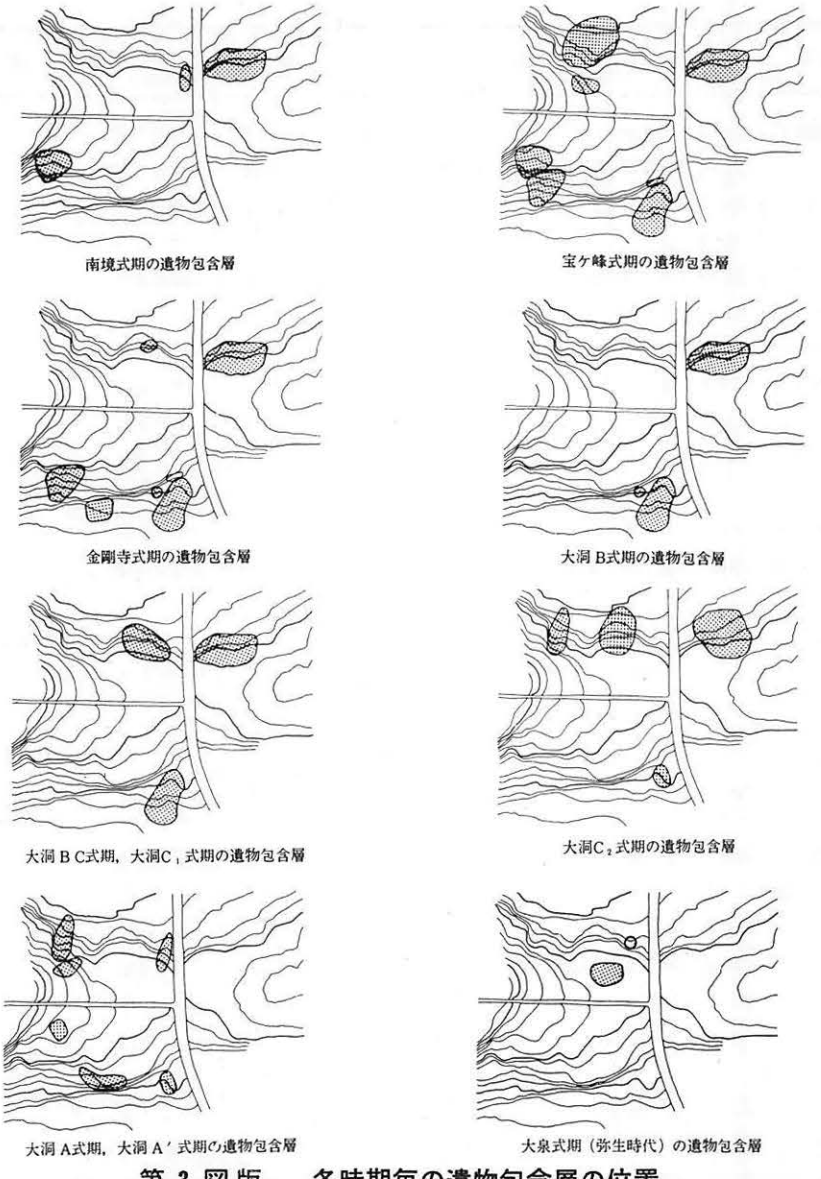


大木1式期の遺物包含層



大木9式期，大木10式期の遺物包含層

第3図版　各時期毎の遺物包含層の位置



第 3 図版　各時期毎の遺物包含層の位置

第七節　沼津貝塚の遺物

沼津貝塚から発見されている遺物としては土製品，石製品，骨角製品，自然遺物があげられる。その大部分は数多くの文献（第3表参照）によって紹介されている。しかし，本貝塚からは弥生時代以降の遺物も少数ながら発見されている。

(1)沼津貝塚から発見された各時代の遺物

縄文時代：縄文土器（大木1式，大木5式，大木6式，大木8b 式，大木9式，大木10式，南境式，宝ケ峰式，金剛寺式，大洞B式，大洞BC式，大洞C_1式，大洞C_2式，大洞A式，大洞A′式)をはじめとする土製品，石製品，骨角製品，自然遺物が発見されている。なお，縄文土器のうち，大木5式，大木6式は今回の調査では1点も発見できなかった。

弥生時代：弥生土器（大泉式）をはじめとする土製品，石製品（石庖丁，アメリカ式石鏃等)，自然遺

物が発見されている。

古墳時代：土師器（塩釜式）をはじめとする土製品が発見されている。

奈良・平安時代：土師器，須恵器をはじめとする土製品が発見されている。

(2)沼津貝塚から発見された自然遺物（注1）

軟体動物門　腹足綱：エゾアワビ，ユキノカサ，イシダタミ，コシダカガンガラ，クボガイ，スガイ，マメタニシの一種，オオヘビガイ，カワニナ，ヘナタリ，ウミニナ，ツメタガイ，カヅラガイ，パウシウボラ，アカニシ，レイシ，イボニシ，クリフレイシ，ヒメエゾボラ，バイ，オカモノアラガイ，トカシオリレイ，トクサガイ，コゲチャダケ，ナミコギセル，オカチョウジガイ類，ヒダリマキマイマイ，コタマガイ

掘足綱：ヤツカドツノガイ

斧足綱：カリガネエガイ，コベルトフネガイ，アカガイ，サルボウ，ベンケイガイ，イガキ，ムラサキインコ，アヅマニシキ，ホタテガイ，カキ，イタボガキ，ヤマトシジミ，ニホンシジミ，ウネナシトマヤガイ，ウチムラサキ，ハマグリ，カガミガイ，オキシジミ，オニアサリ，アサリ，ウバガイ，シオフキ，アリソガイ，ミルクイ，マテガイ，オオノガイ

脊椎動物門　魚綱：マグロ，ニシン類，スズキ，クロダイ，マダイ，サバ類，タチウオ，ヒラメ，カワハギ類，フグ類

両生綱：ウミガメ

鳥綱：鳥骨は多数発見されているが，その詳細は不明である。

哺乳綱：ニホンジカ，エゾジカ，イノシシ，アナグマ，イタチ，キツネ，タヌキ，ツキノワグマ，オオカミ，ニホンイヌ，ノウサギ，クジラ，イルカ，トド，オキゴンドウ，オットセイ

植物遺存体　クルミ

(3)沼津貝塚から発見された遺物の主な保管場所

石巻市教育委員会：縄文時代（前期，中期，後期，晩期），弥生時代，奈良・平安時代の遺物を保管している（第4図版～第13図版，第27図版，第28図版参照）。

宮城県教育委員会（注2）：縄文時代（中期，後期，晩期）の遺物を保管している（第14図版～第19図版参照）。

清水　毅（仙台市土樋）：縄文時代（中期）の遺物を保管している（第20図版，第21図版参照）。

毛利　伸（石巻市住吉町）：縄文時代（中期，後期，晩期），古墳時代の遺物を保管している（第22図版～第26図版，第29図版～第31図版参照）。

東北大学文学部考古学研究室（注3）：縄文時代（中期，後期，晩期）の遺物を保管している。

八王子市立郷土資料館（注4）：縄文時代（中期，後期）の遺物を保管している。

石巻考古学研究所：縄文時代（前期，中期，後期，晩期）の遺物を保管している。

石巻高等学校人文科学部：縄文時代（後期，晩期）の遺物を保管している。

佐々木富夫（仙台市沖野）：縄文時代（後期）の遺物を保管している。

以上，沼津貝塚から発見された遺物の概略を述べたが，本書では既刊の文献に未だ紹介されていない遺物を中心として，その図面を収録した（第4図版～第31図版参照）（注5）。

注1　沼津貝塚から発見された自然遺物の集成に際しては，阿部恵氏のご御示と以下の文献を参考にした。
毛利総七郎，遠藤源七　1953年　『陸前沼津貝塚骨角器図録解説』
金子浩昌　1972年　「沼津貝塚出土の骨角製品」『仙台湾』第2号
渡辺　誠　1972年　「縄文時代における植物質食料採集活動の研究」『古代文化』第24巻第5・6号

注2　1967年に宮城県教育委員会が実施した発掘調査による出土遺物を保管している。

注3　毛利総七郎，遠藤源七が寄贈した遺物と，1963年に東北大学文学部考古学研究室が実施した発掘調査による出土遺物を保管している。

注4　1958年に多摩考古学会が実施した発掘調査による出土遺物を保管している。

注5　遺物の紹介に際して，宮城県教育委員会，清水毅氏，毛利伸氏には資料の提示を受け，東北大学文学部考古学研究室，東北歴史資料館，尚絅女学院，工藤雅樹氏には種々の便宜をはかって頂いた。また，以下の諸氏，及び機関

からは次のような協力を得た。
藤沼邦彦氏（縄文時代晩期，弥生時代の土器について教示を得た。）
丹羽　茂氏（第14図版2，第16図版1，第17図版2の縄文土器実測図作成について協力を得た。）
阿部　恵氏（骨角製品の素材について教示を得た。）
尚絅女学院高等学校地学研究室（石製品の素材について教示を得た。）

第八節　総　　括

1．沼津貝塚は20世紀初頭以来，現在に至るまで縄文時代の研究にとって極めて重要な役割を果した遺跡として有名である。とりわけ，本貝塚出土の骨角製品は，縄文時代の生産活動の一部門としての漁撈活動の研究に多くの資料を提供し続け，その一部は国の重要美術品に指定されている。また，日本における考古学研究の歴史がそうであるように，本貝塚における研究の歴史も，民間の研究者によって力強く推し進められてきた。このように，沼津貝塚は日本の考古学研究，中でも縄文時代の研究の歴史を知る上で貴重な遺跡と考えられる。

2．沼津貝塚から発見された遺物としては，縄文時代（前期大木1式，大木5式，大木6式，中期大木8b式，大木9式，大木10式，後期南境式，宝ケ峰式，金剛寺式，晩期大洞B式，大洞BC式，大洞C_1式，大洞C_2式，大洞A式，大洞A′式），弥生時代（大泉式），古墳時代（塩釜式），奈良・平安時代のものがあげられる。

3．以上のことから沼津貝塚という遺跡の歴史は次のように考えられる。

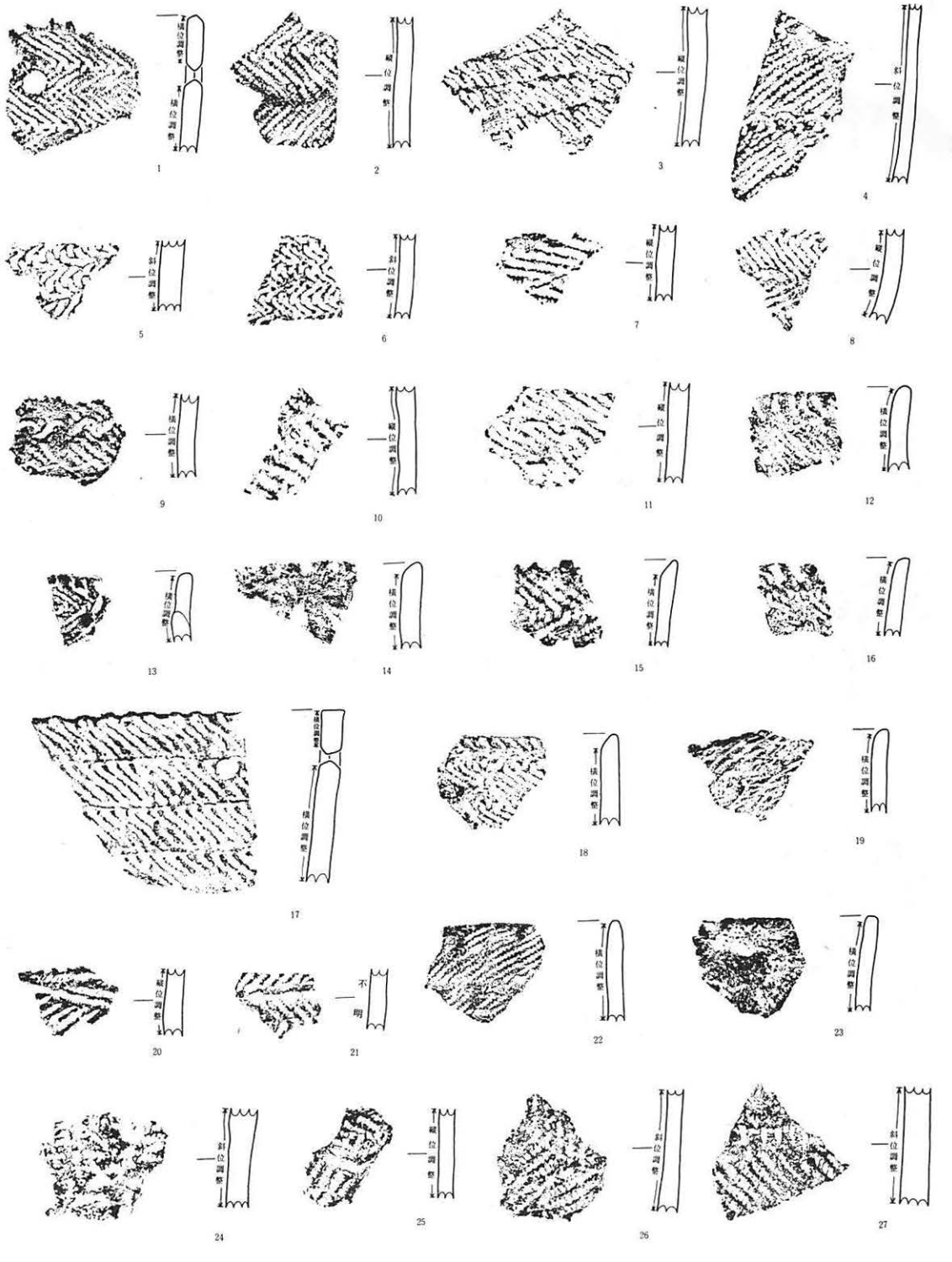
縄文時代前期大木1式期に，本貝塚にはじめて人々が居住したが，その居住期間は極めて短かく，遺跡はすぐに放棄された。この時期は，縄文時代早期末葉における最大海進時期の後に位置するが，貝層の存在は知られていない。その後，中期大木9式期に至って，再び本貝塚に人々が本格的に居住しはじめ（注1），弥生時代大泉式期まで，南境貝塚と共に古稲井湾沿岸地域における中核的な遺跡として継続的に居住が続けられた。この時期は，大きく見て序々に海退が進行した時期で，本貝塚に居住した人々が採集した主な貝種が，時間と共にハマグリ（大木9式期～南境式期）→アサリ（宝ケ峰式～大洞C_1式期）→シジミ（大洞C_2式期～大泉式期）というように鹹水産のものから淡水産のものへと変化している。このことはそれまでは海であった，いわゆる古稲井湾が序々に陸化していったことを示している。なお，本貝塚周辺の植物相は落葉広葉樹林で，本貝塚に居住した人々は，その下で狩猟活動・採集活動を行ない，またその前面に展開する古稲井湾では漁撈活動を行なっていたものと考えられる。古墳時代以降の沼津貝塚に関する具体的な内容は，現時点においては不明である。

4．沼津貝塚は遺物，特に骨角製品が高い評価を受けている。しかし遺跡の構成とその変遷という方面に関して現時点においてはあまり知られていない。わずかに遺物包含層：（生活用具廃棄の場）が知られているだけである。今後，本貝塚を考える上で居住の場，生活用具廃棄の場，埋葬の場，生産の場，広場，その他各種の場を検討する必要がある。

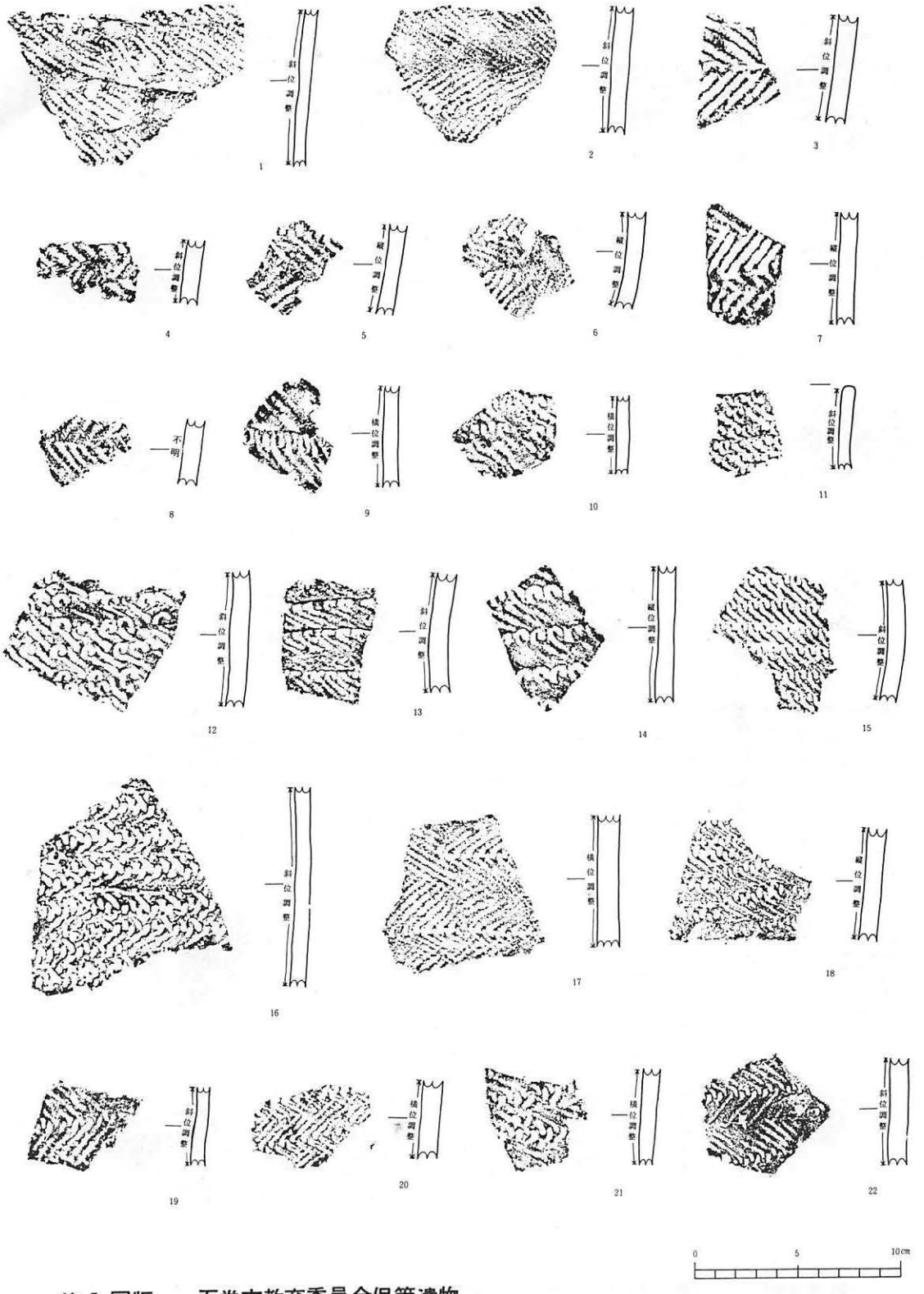
5．沼津貝塚は古くから調査されてきた遺跡であるが，国史跡指定地区内の保存状態は比較的良好である。すなわち，本貝塚北側，貝層の分布する傾斜地域は毛利総七郎，遠藤源七をはじめとする数多くの発掘調査によって，調査されつくしたように考えられがちである。しかし，それらは，北側地域の全面積を調査したのではなく，また全て基盤まで調査が行なわれたわけではない。今後の調査によって新たに本貝塚の構成とその変遷を考える上で重要な遺構，遺物が発見される可能性がきわめて強いと言える。以上の地域の反対側，南側の傾斜地域は現在までほとんど発掘調査の手が加えられていない未調査地域で，今後の研究にとって，その考古学的価値はきわめて高いと考えられる。以上，歴史学の研究とその成果を国民に還元するという立場に立って，本貝塚の保存は，国史跡指定地区内ばかりでなく，指定地区外（指定地区外からも遺物が散布する地域と，本貝塚前面の水田下に泥炭層の存在（注2）が知られている），及び本貝塚周辺の諸遺跡をも含めた地域の保存を，積極的に推進する方向性を確立しなければならない。

注1　沼津貝塚のように縄文時代早期末葉から前期前葉にかけて一度遺跡が形成され，その後放棄されるが，中期中葉に至って再び遺跡が形成され，晩期まで及ぶ大規模な貝塚としては，次のものがあげられる。松島湾沿岸地域においては松島町西ノ浜貝塚，鳴瀬町宮戸島貝塚，石巻湾沿岸地域においては石巻市南境貝塚。

注2　加藤　孝　1952年『阿武隈，北上両河岸段丘，並びに松島湾岸諸島に於ける貝塚の分布と，その編年』『宮城学院女子大学研究論文集』Ⅱ

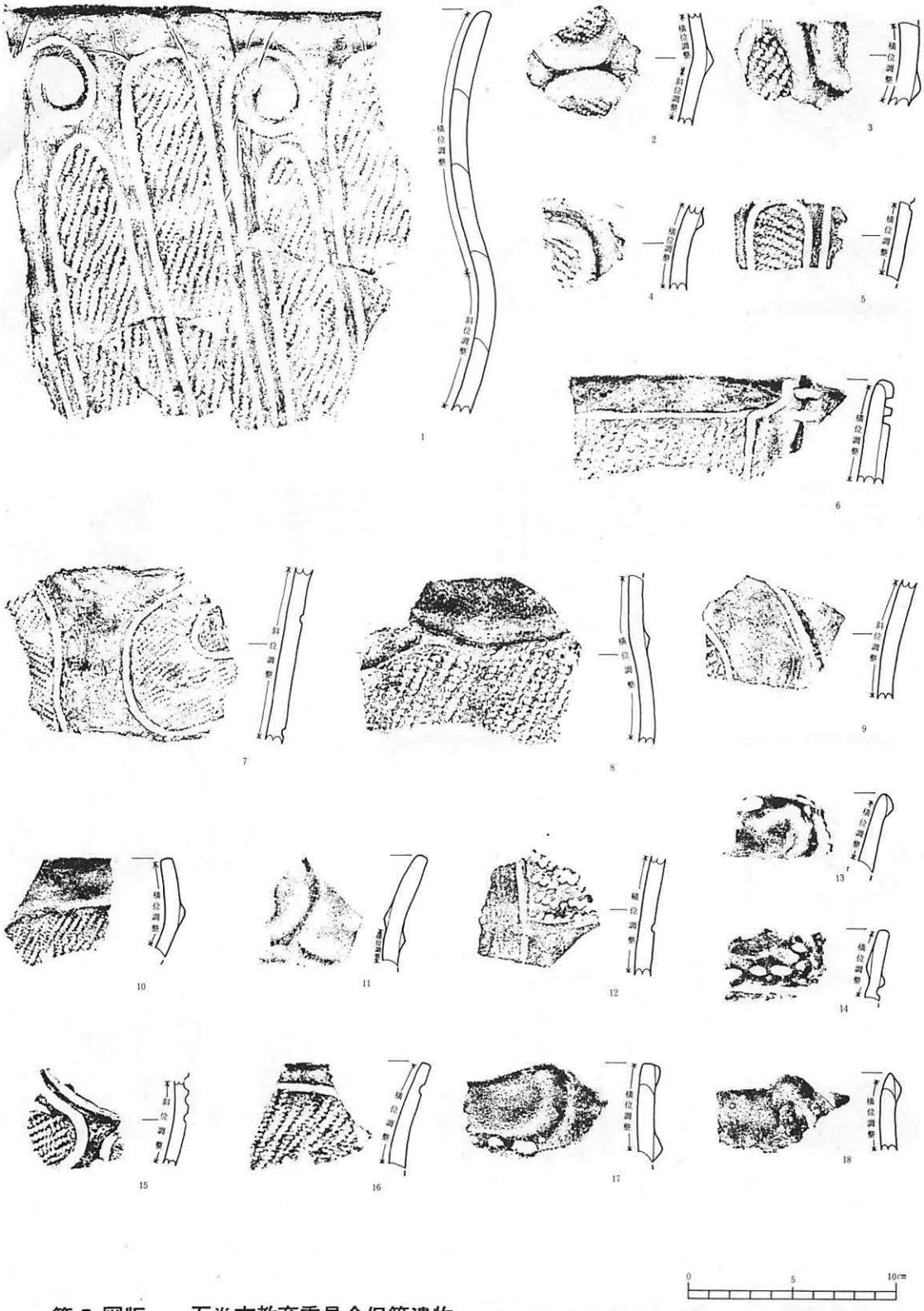


第 4 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

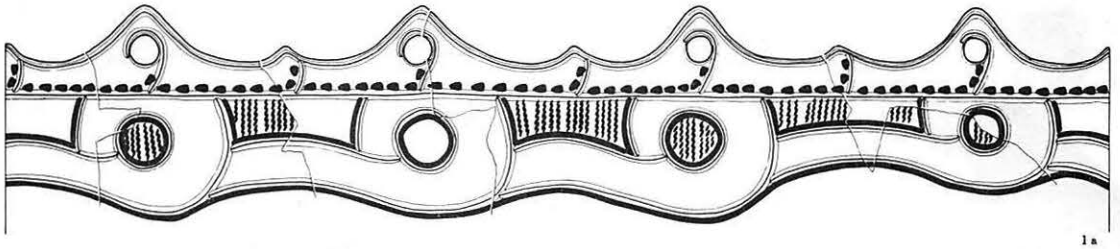


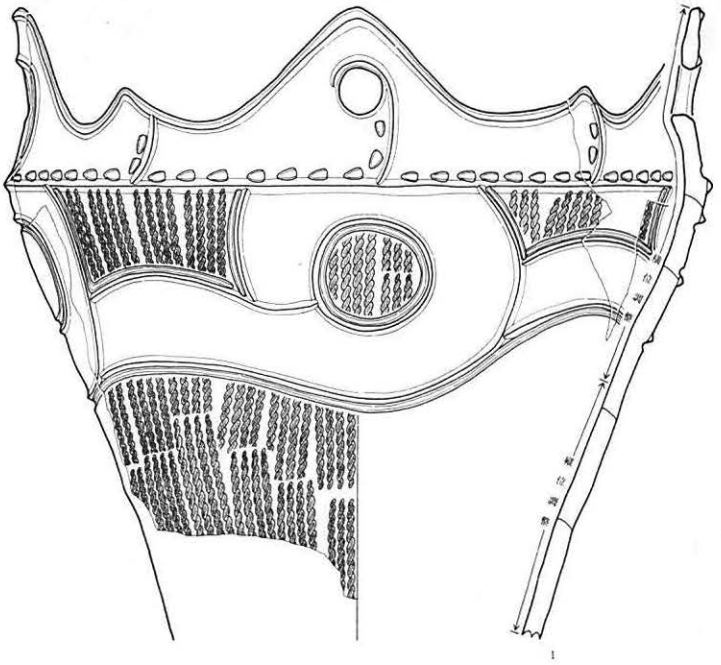
第 5 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

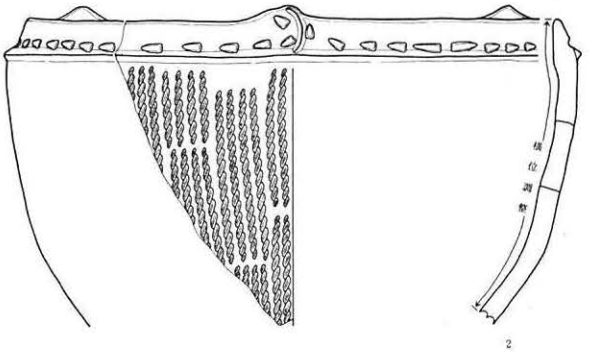
第 6 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

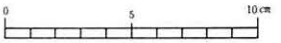


第 7 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

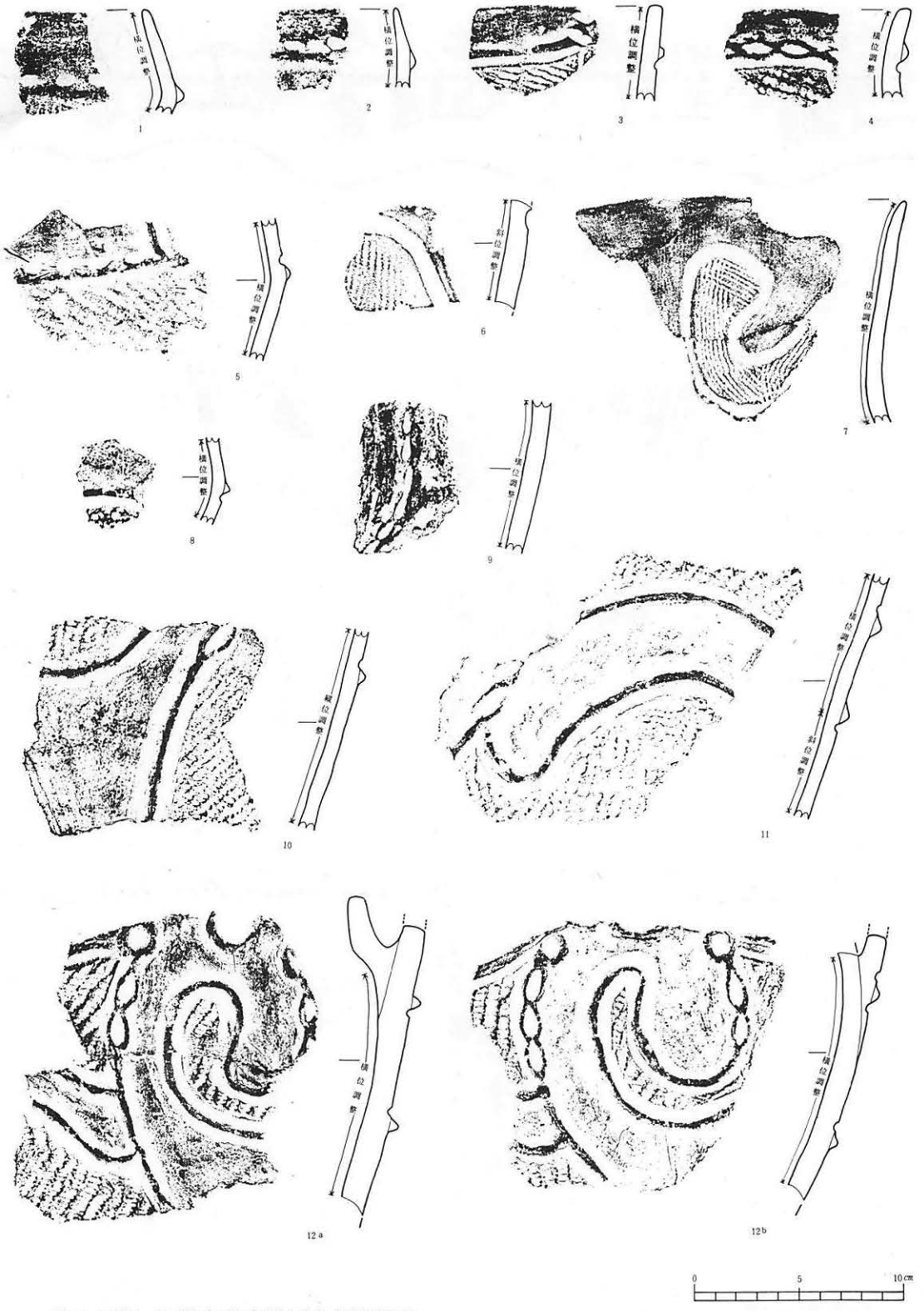




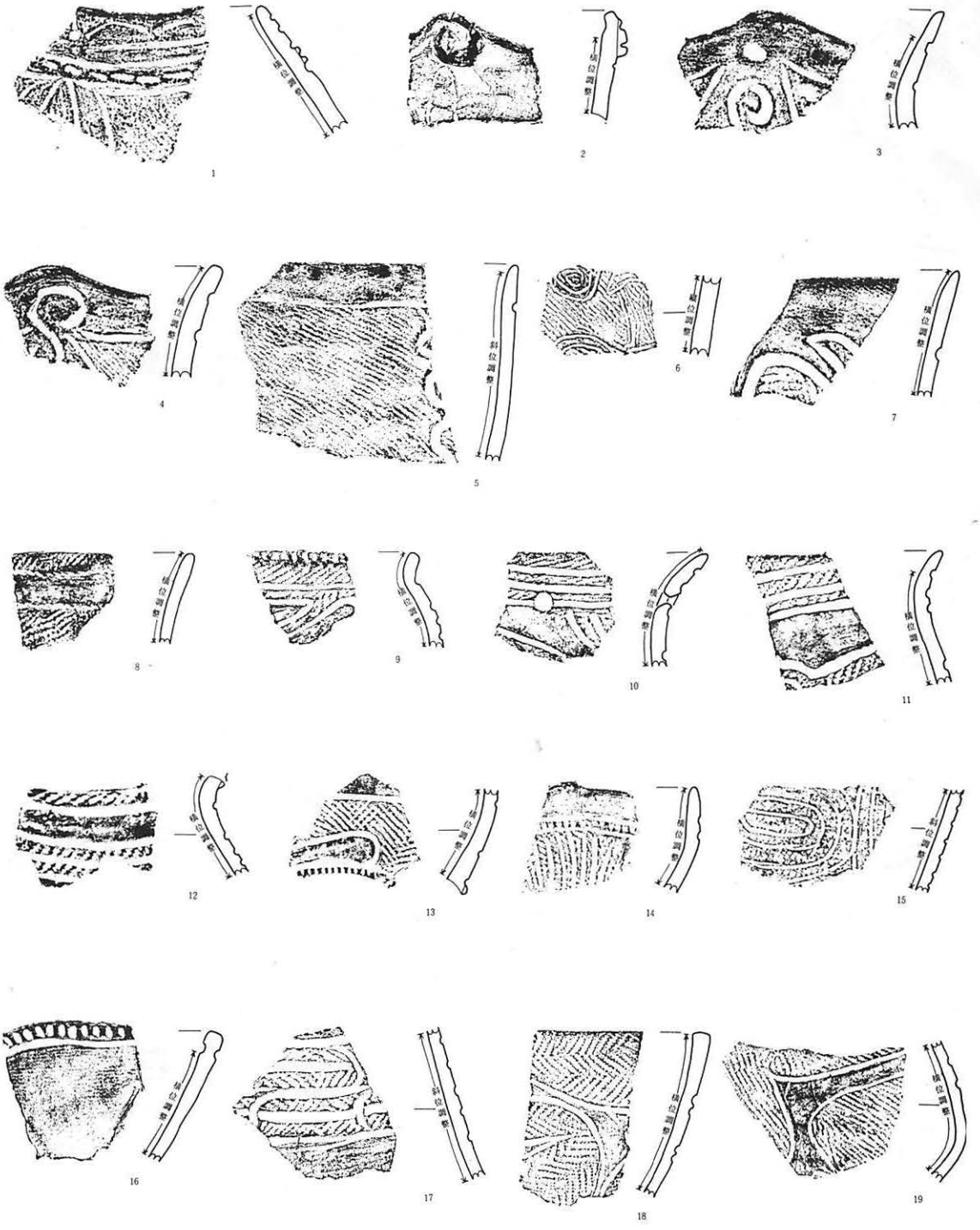




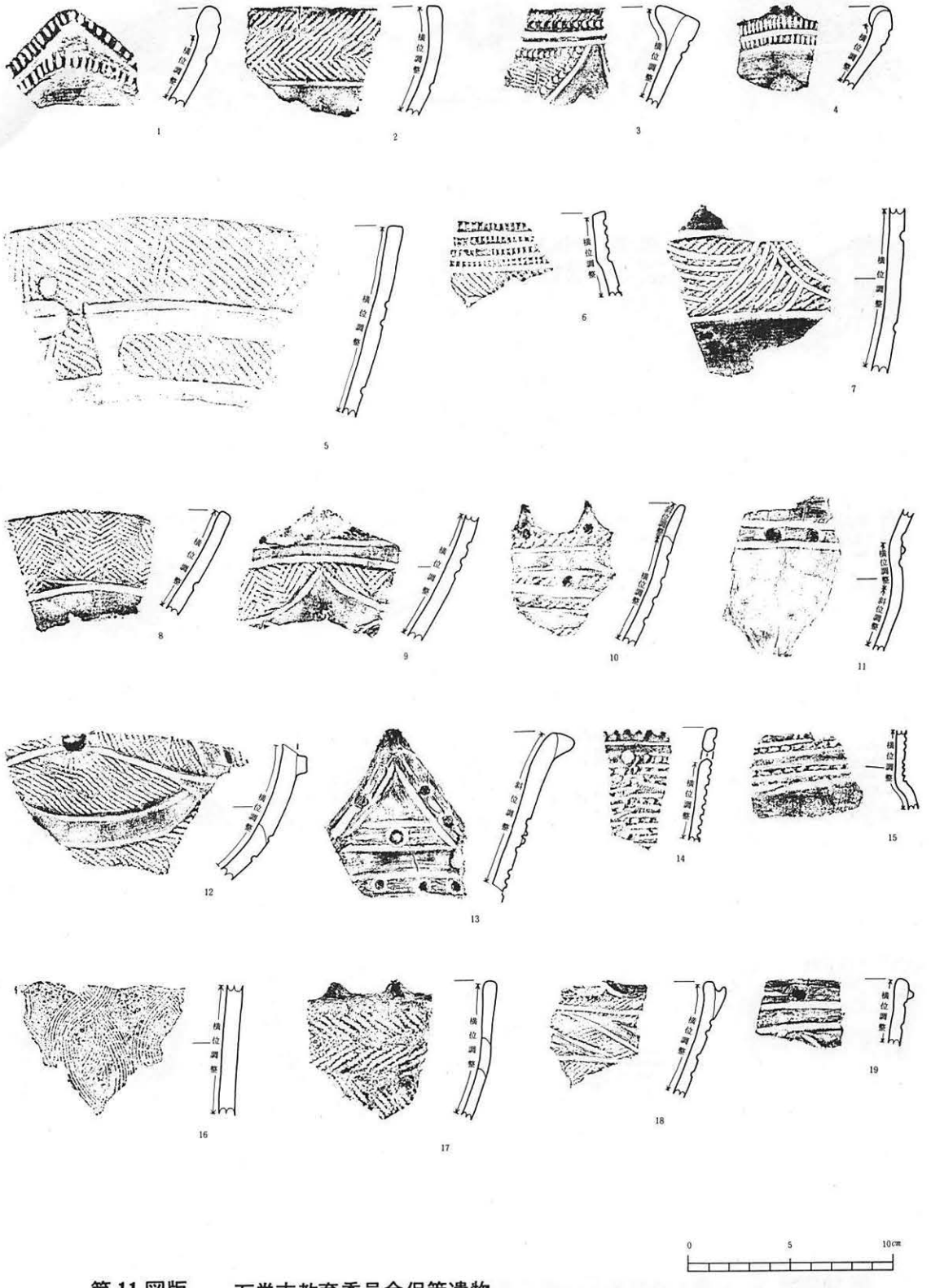
第 8 図版　　石巻市教育委員会保管遺物



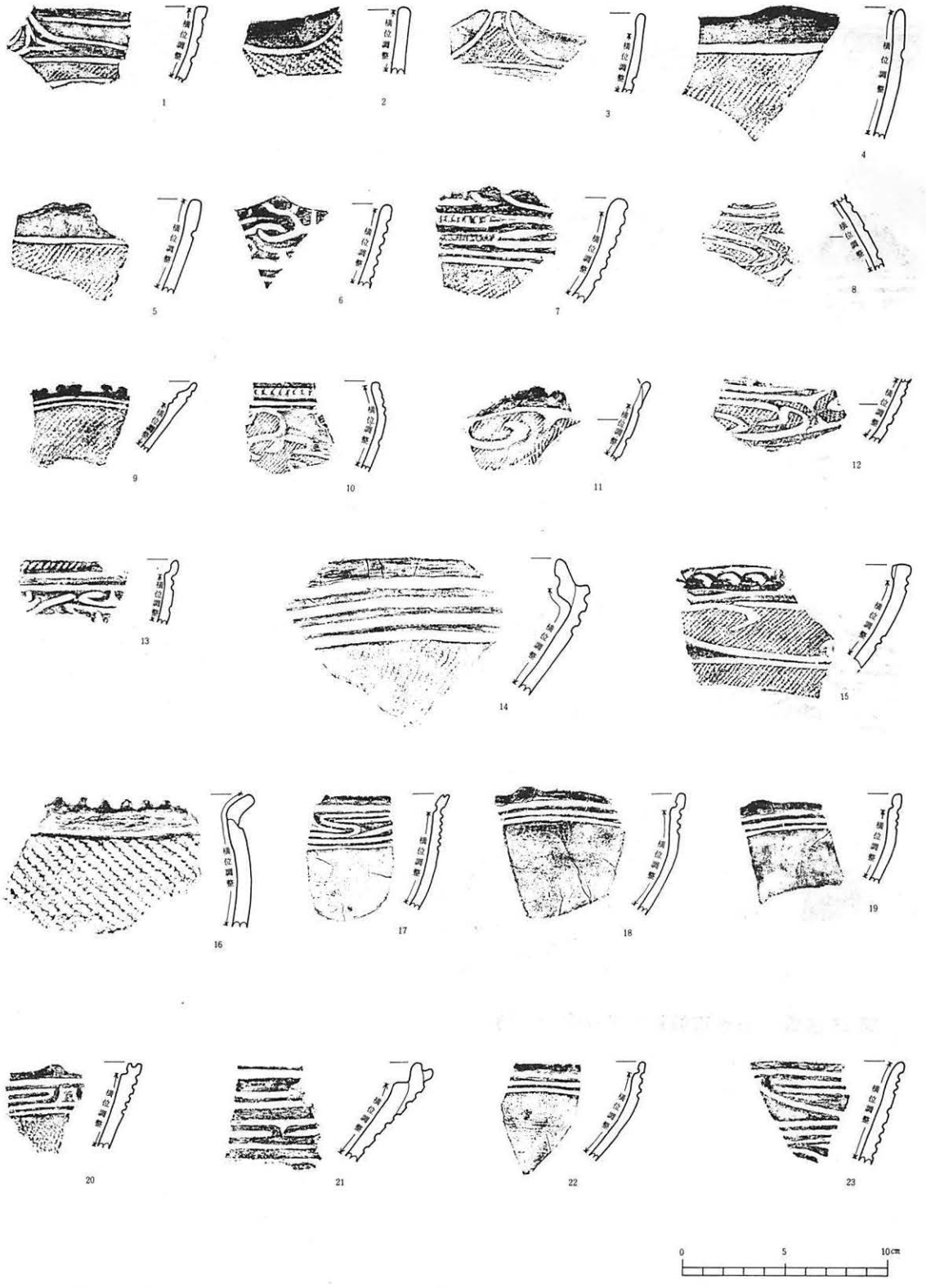
第 9 図版　石巻市教育委員会保管遺物



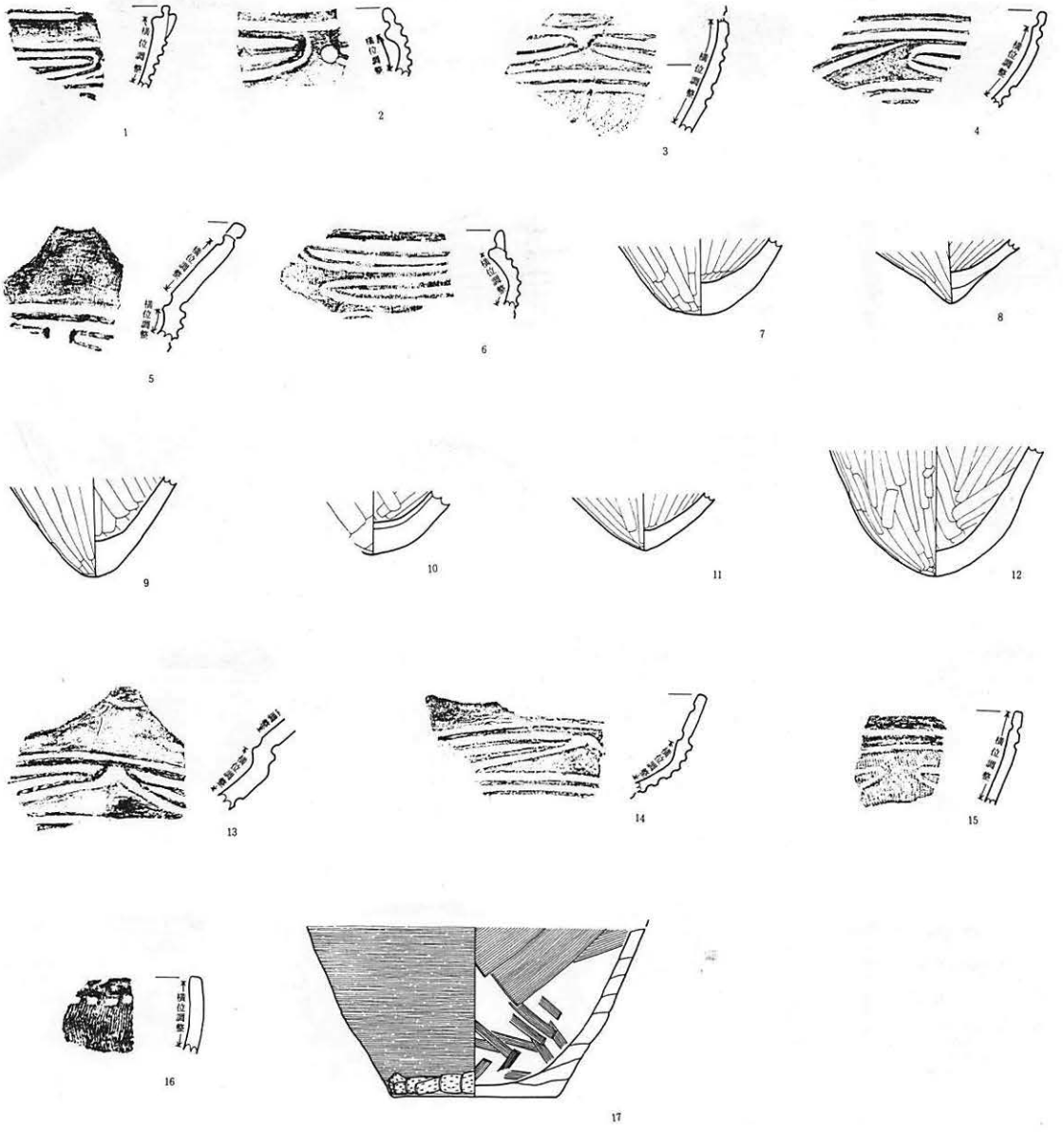
第10図版　　石巻市教育委員会保管遺物



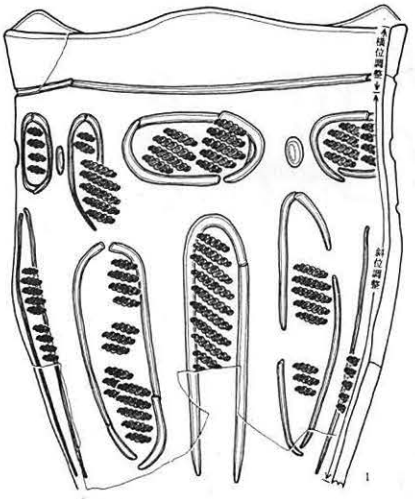
第 11 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

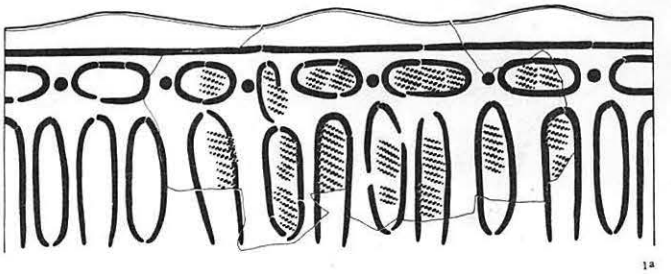


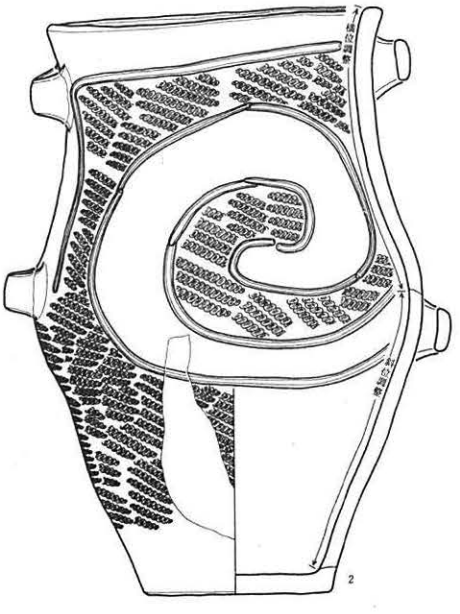
第 12 図版　　石巻市教育委員会保管遺物

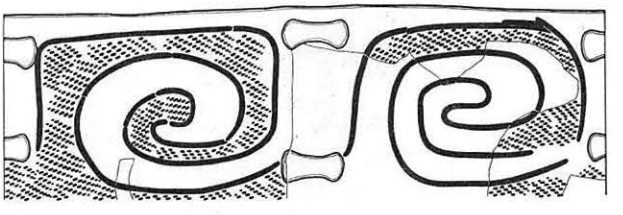


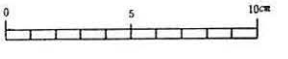
第 13 図版　石巻市教育委員会保管遺物



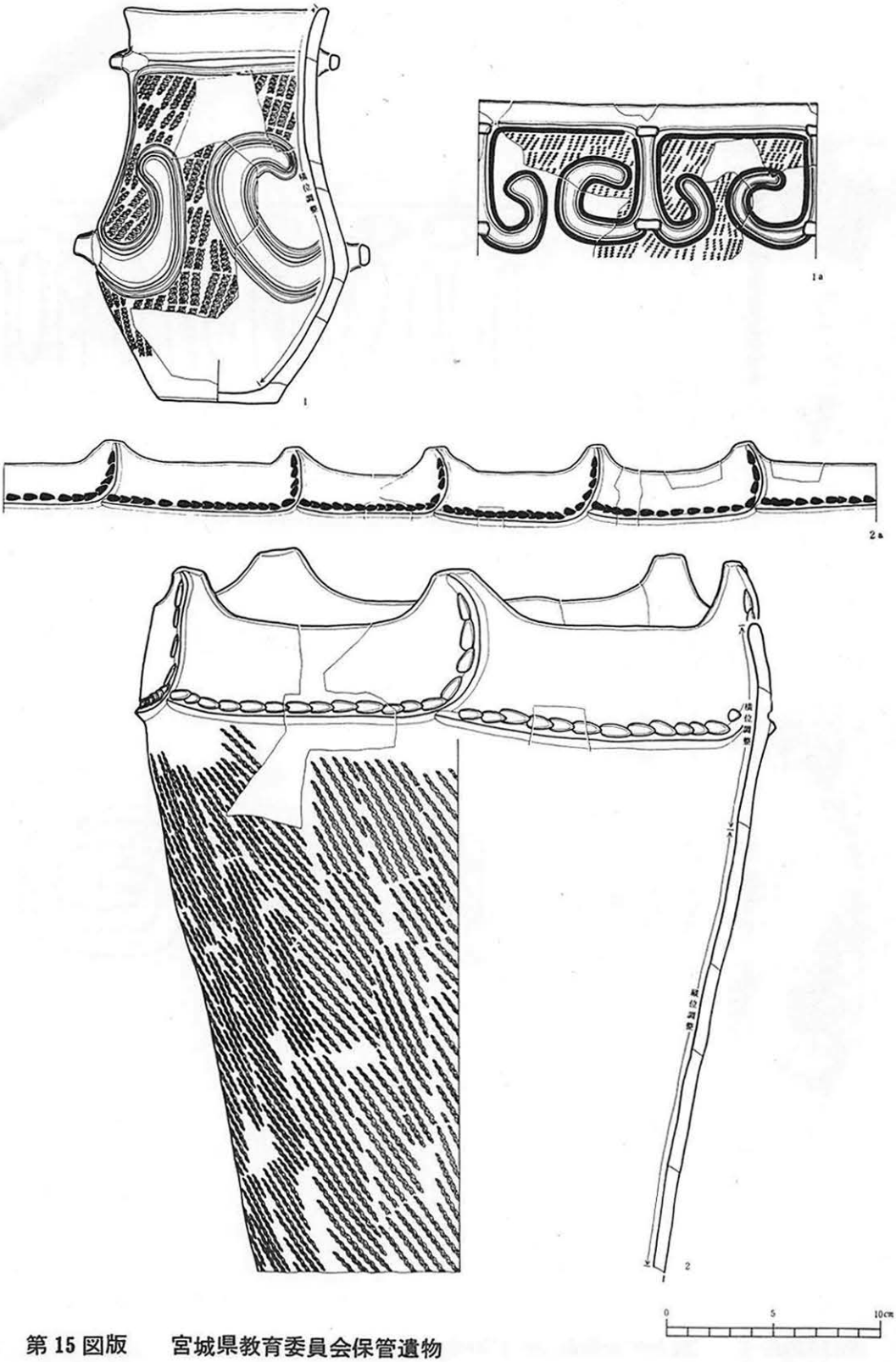




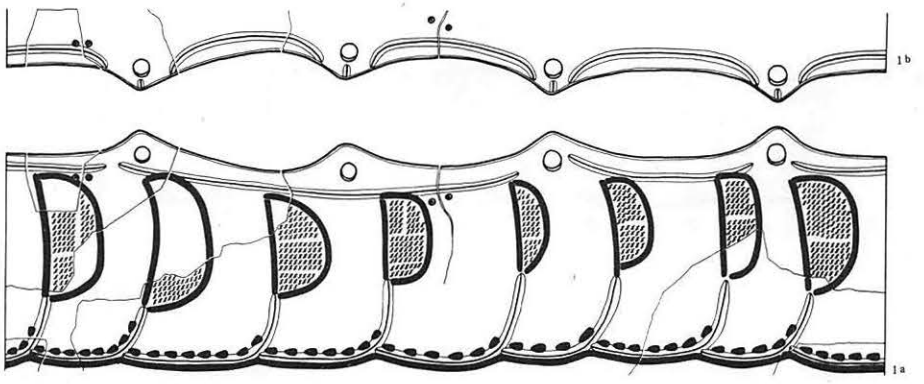


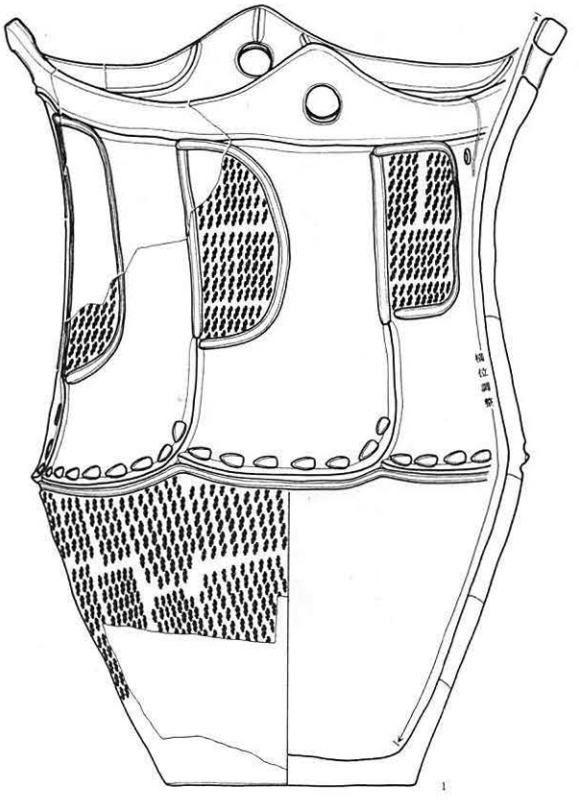


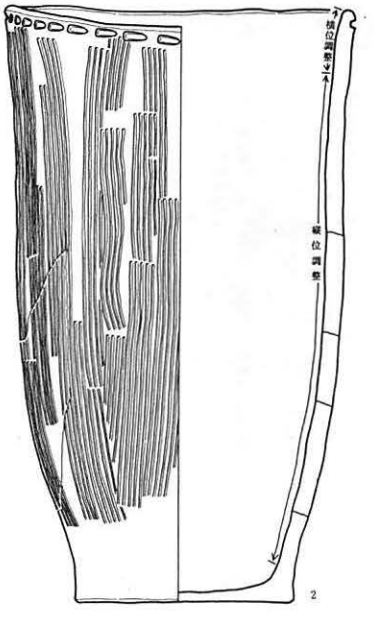
第 14 図版　　宮城県教育委員会保管遺物

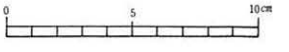


第 15 図版　　宮城県教育委員会保管遺物

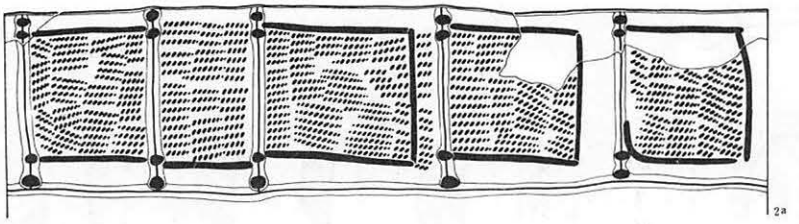


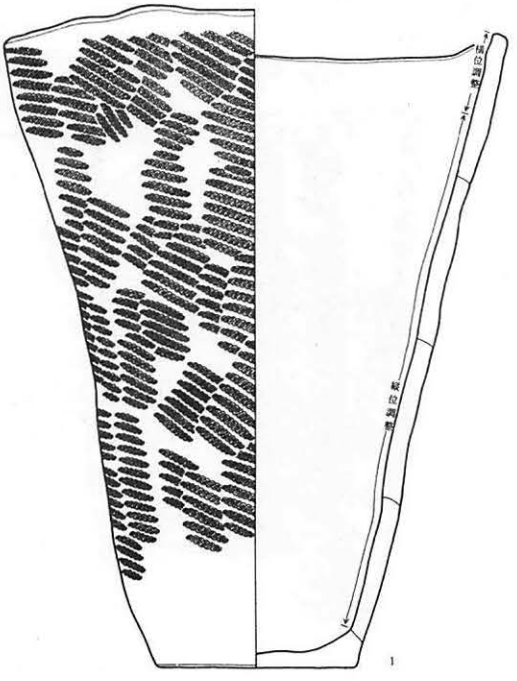


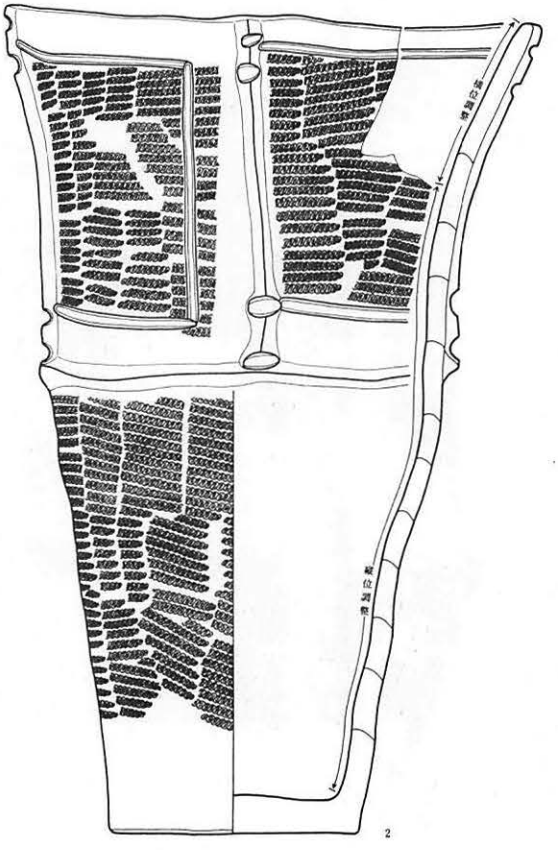


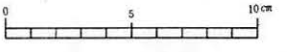


第 16 図版　　宮城県教育委員会保管遺物

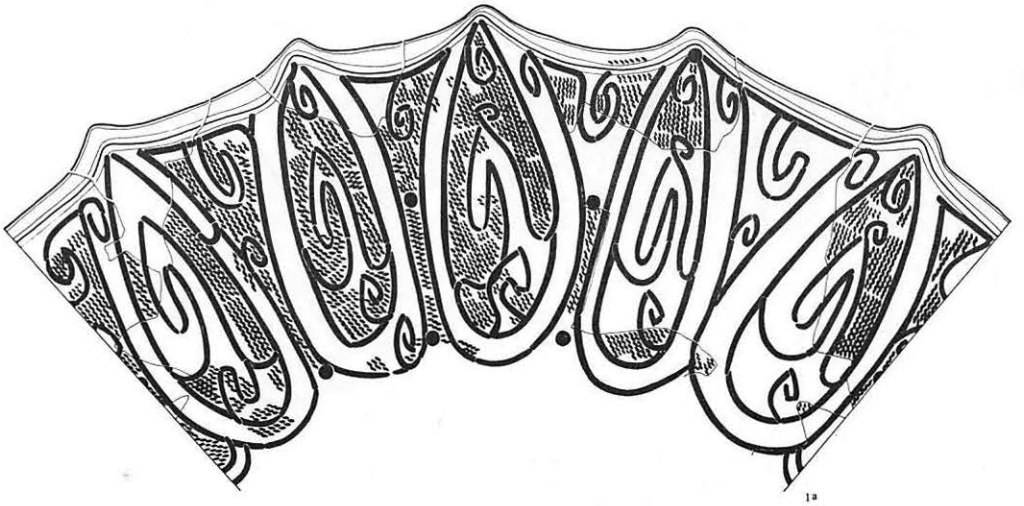


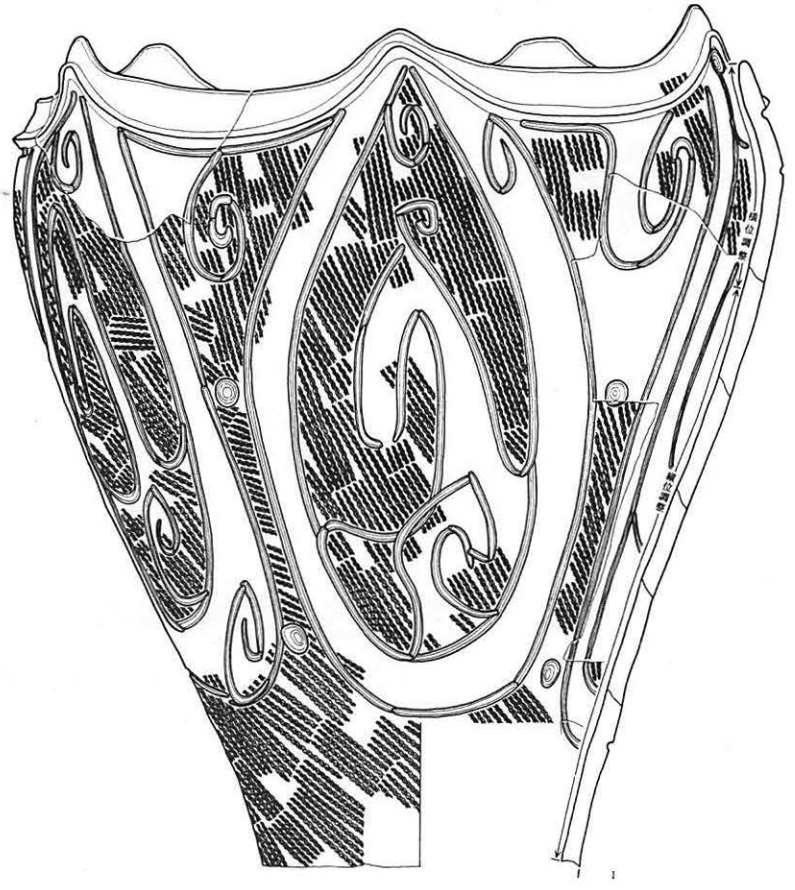


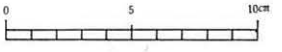




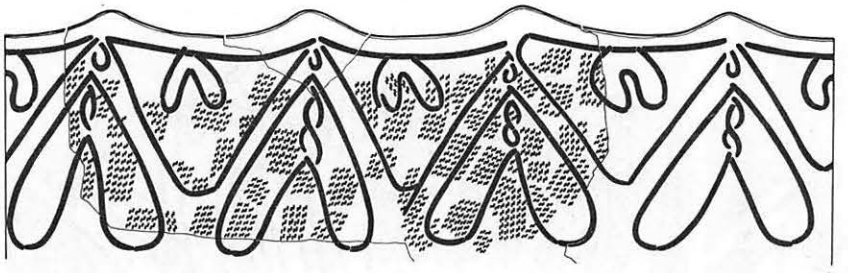
第 17 図版　　宮城県教育委員会保管遺物

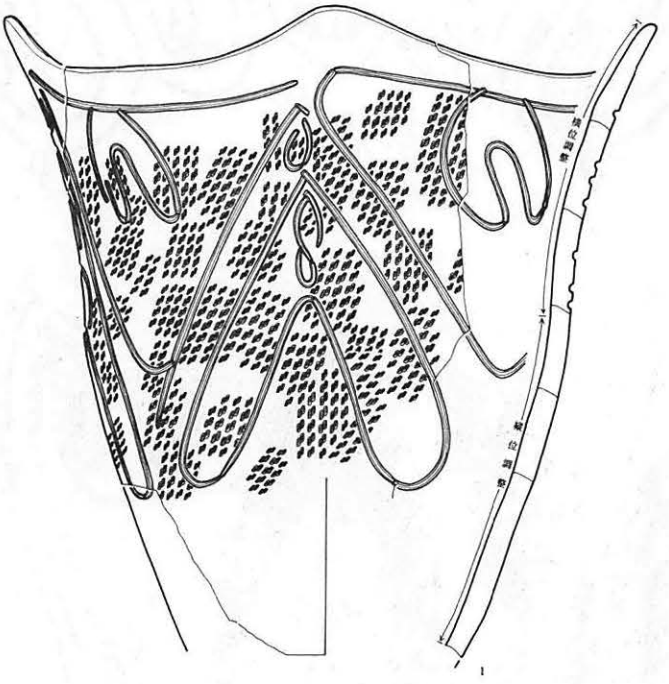


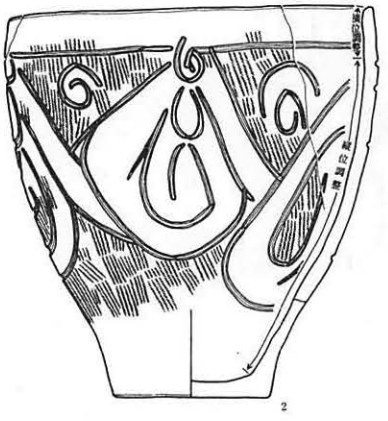


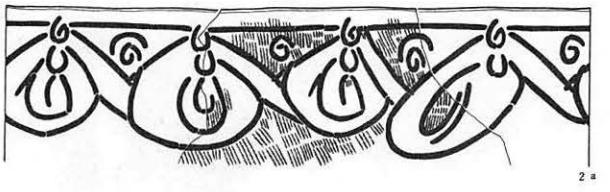


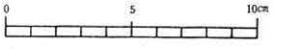
第 18 図版　　宮城県教育委員会保管遺物



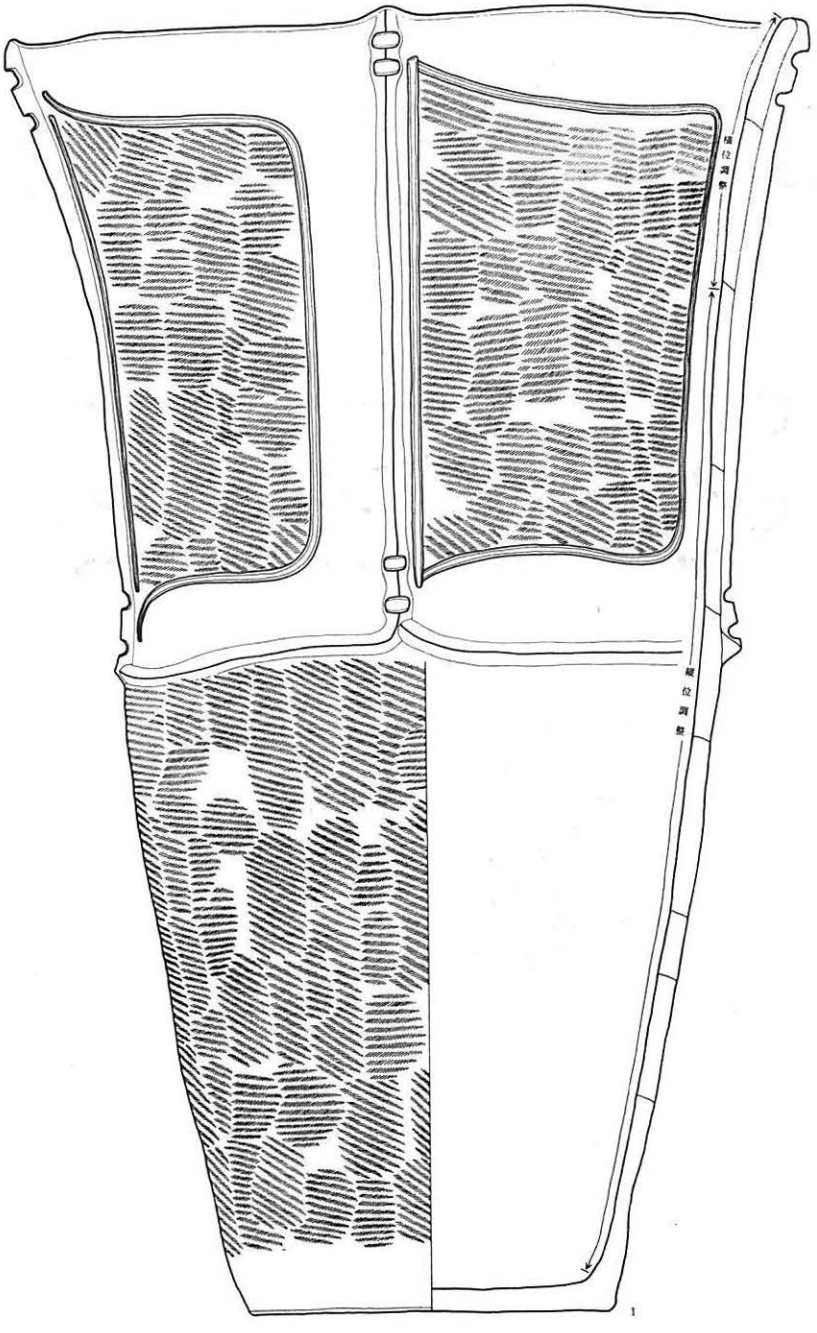




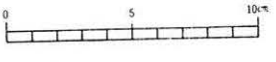


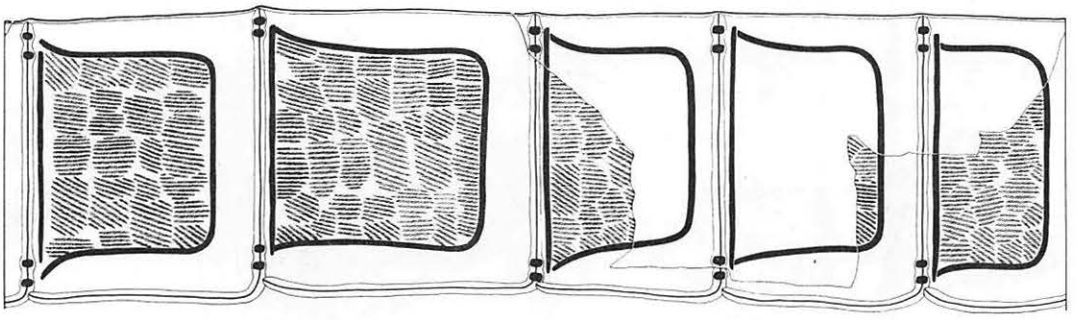


第 19 図版　宮城県教育委員会保管遺物

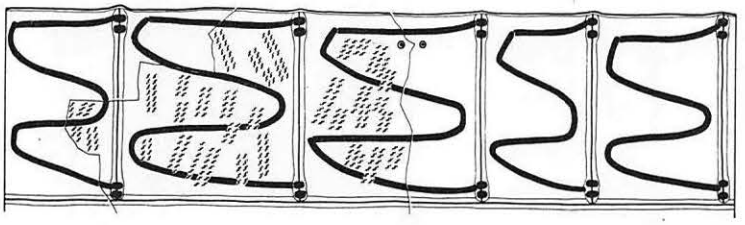


第20図版　清水毅氏保管遺物

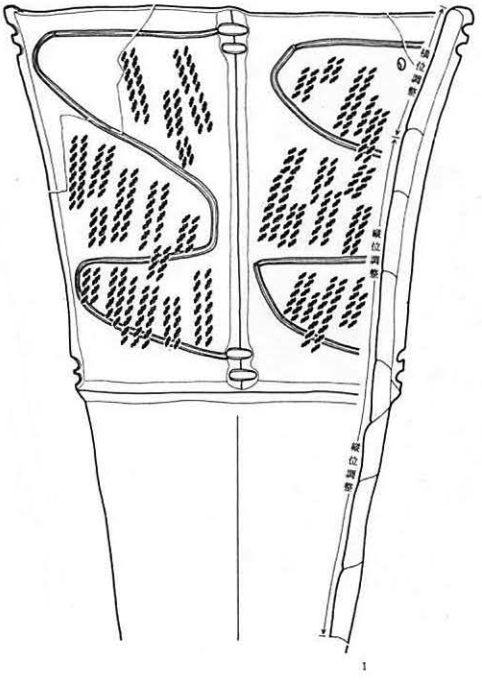




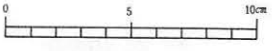
1a（第20図版1



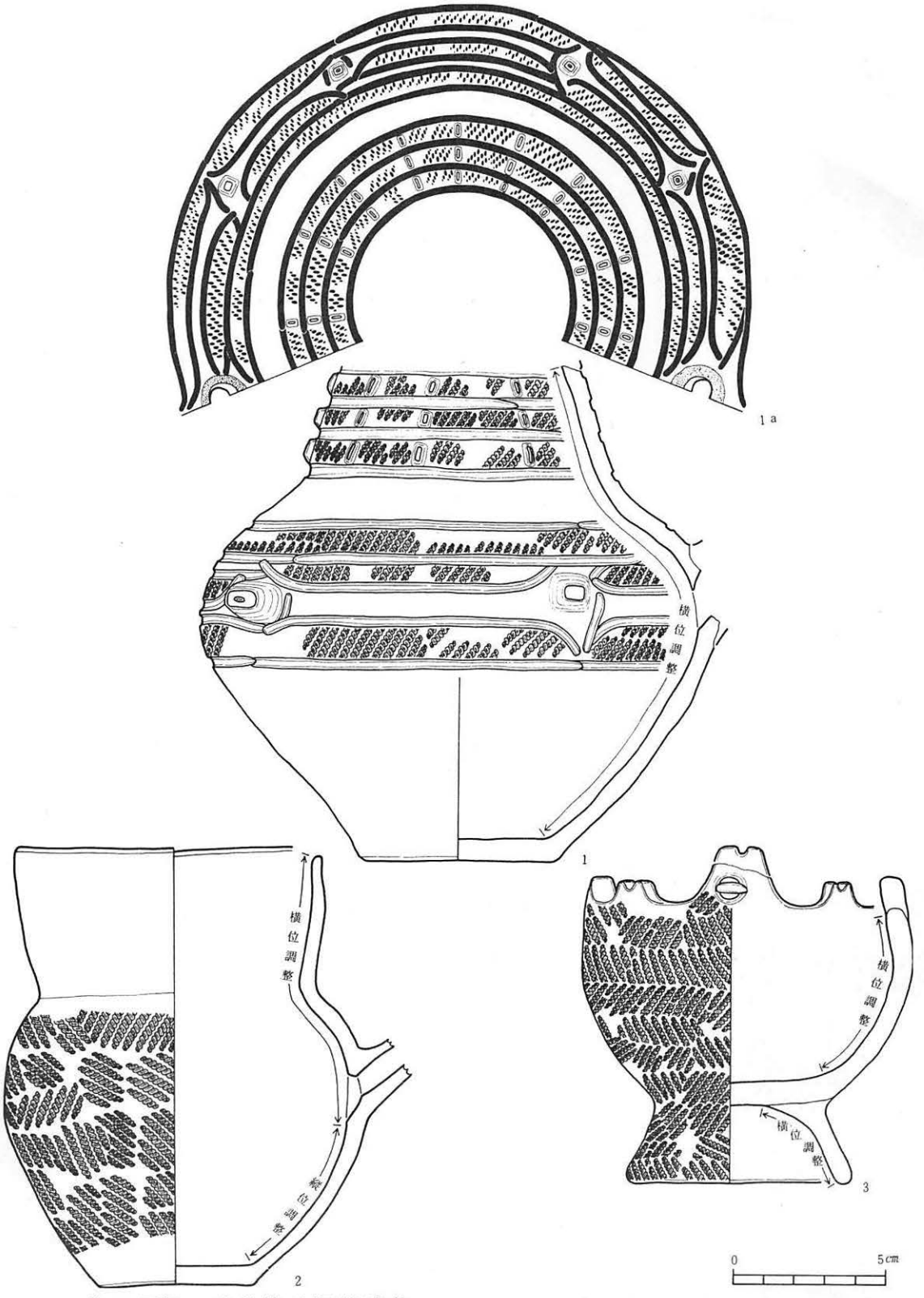
1a



1

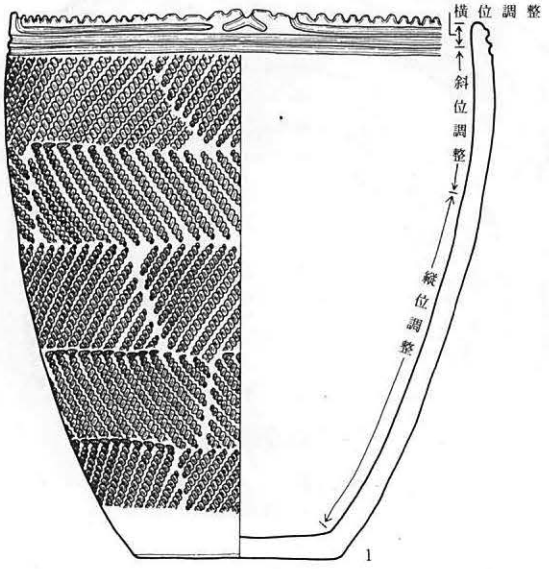


第21図版　清水毅氏保管遺物

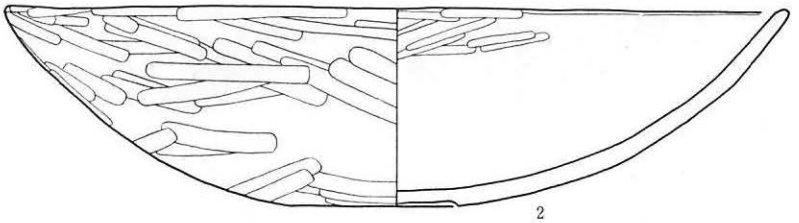


第22図版　毛利伸氏保管遺物

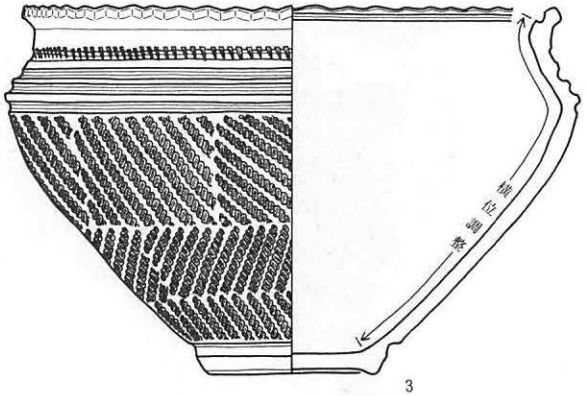
1 a



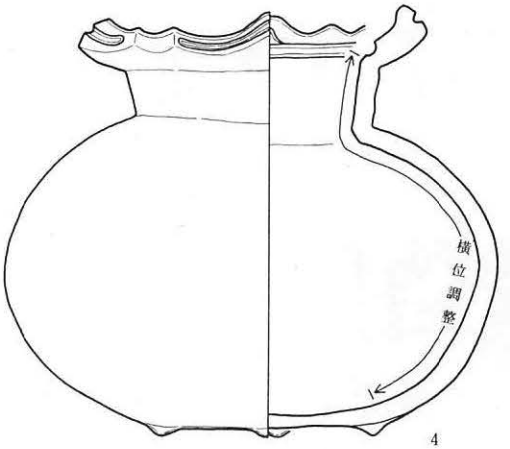
1



2

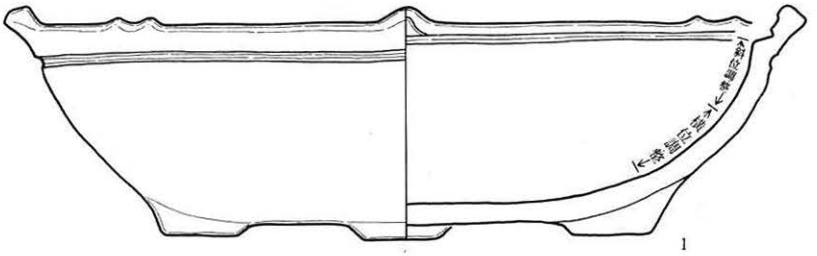


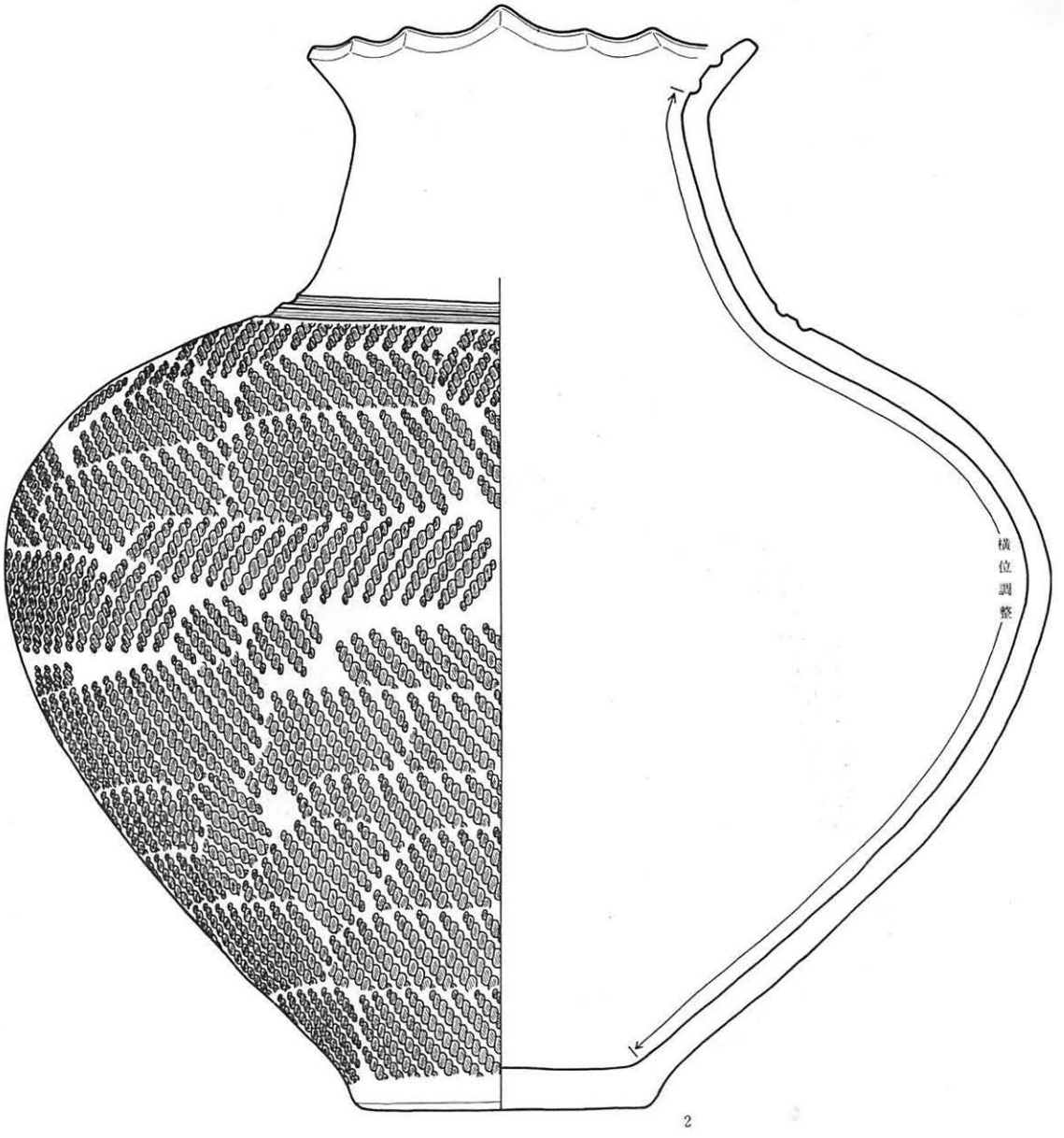
3

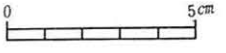


4

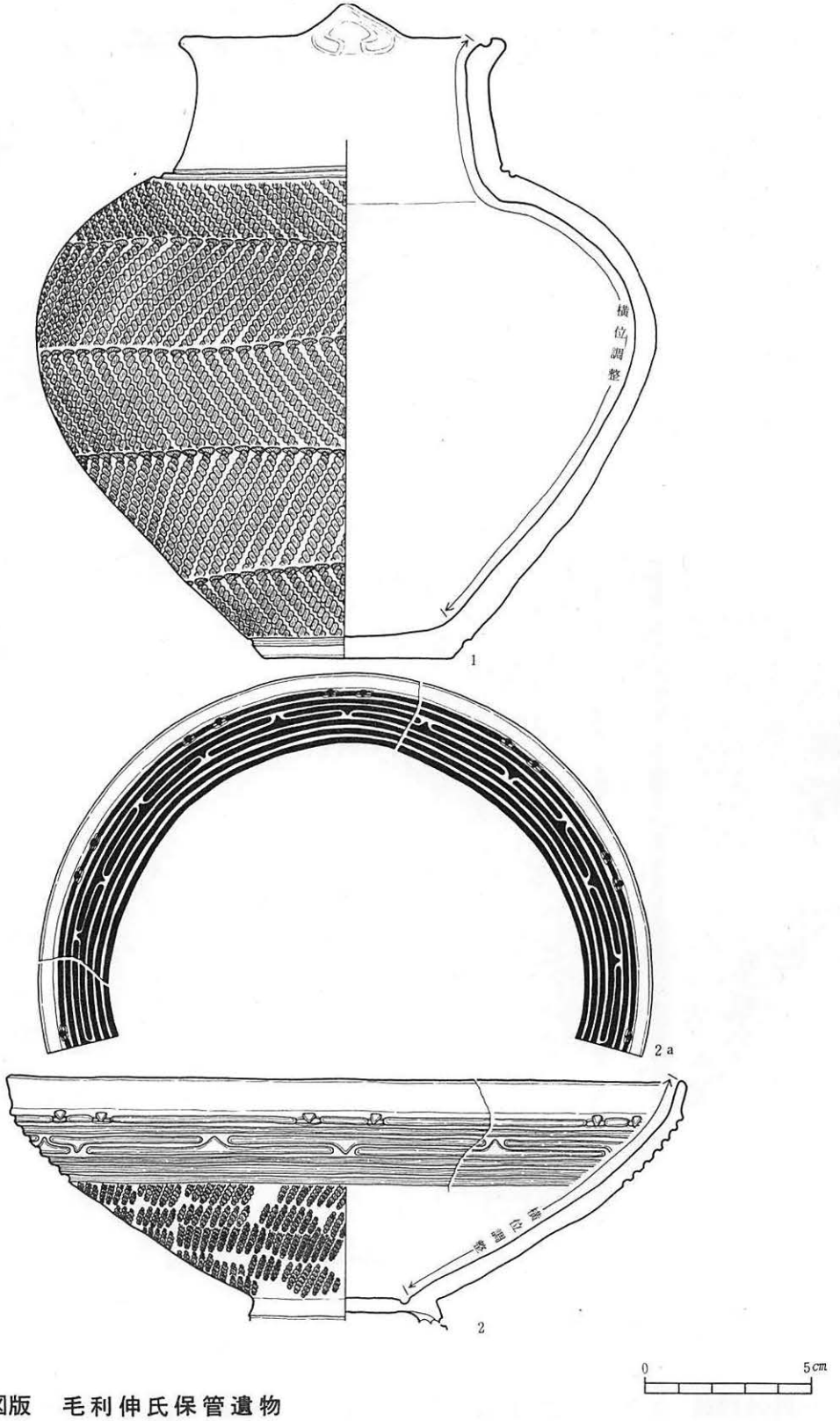
第23図版　毛利伸氏保管遺物



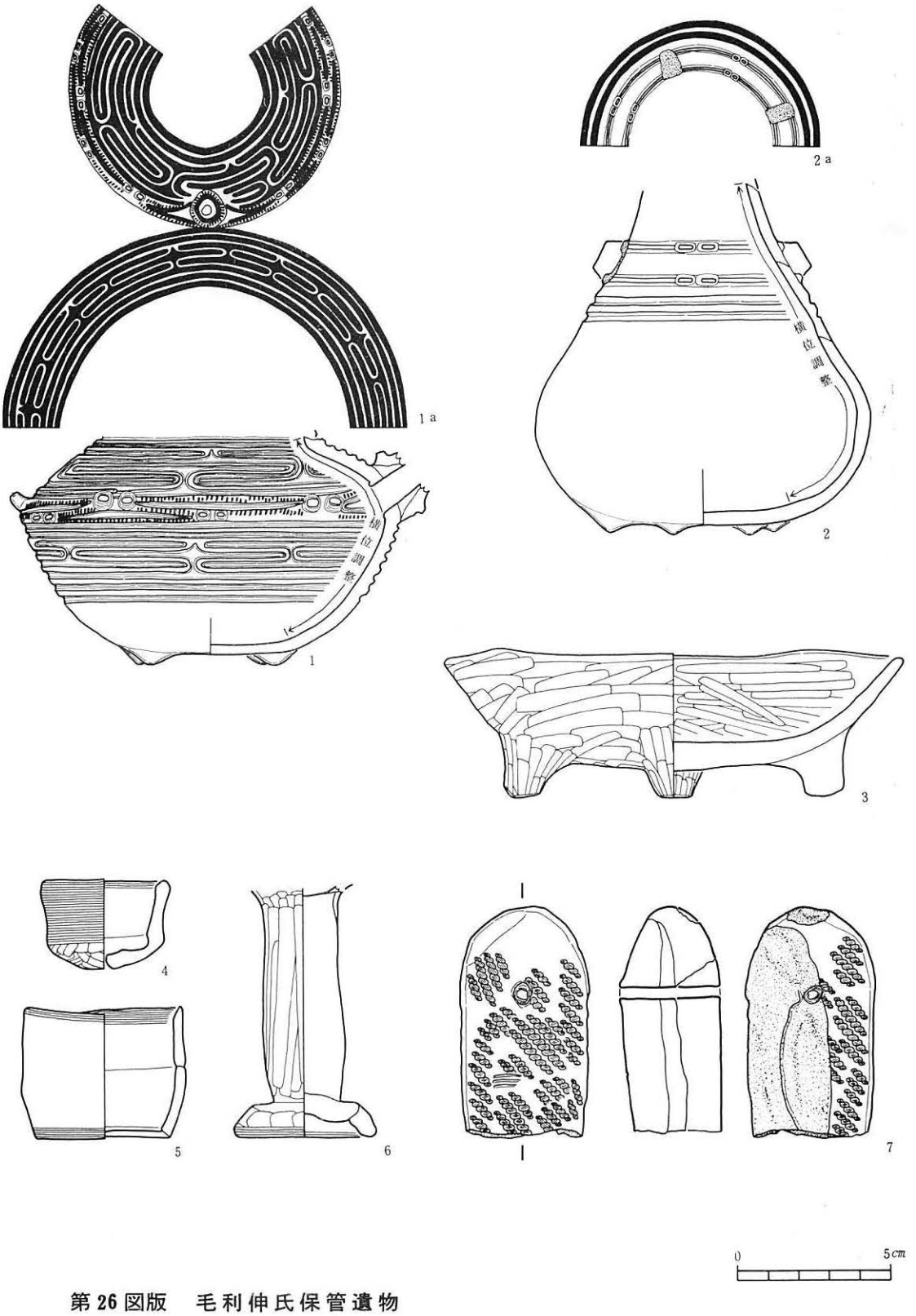




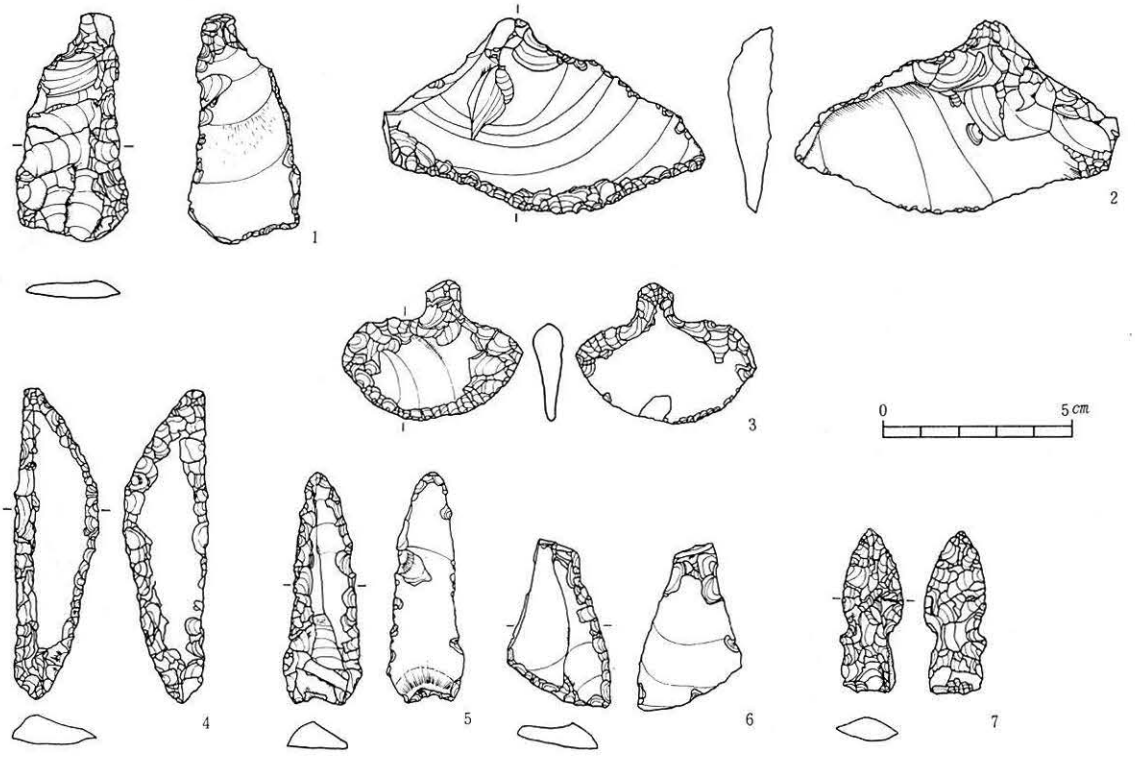
第24図版　毛利伸氏保管遺物

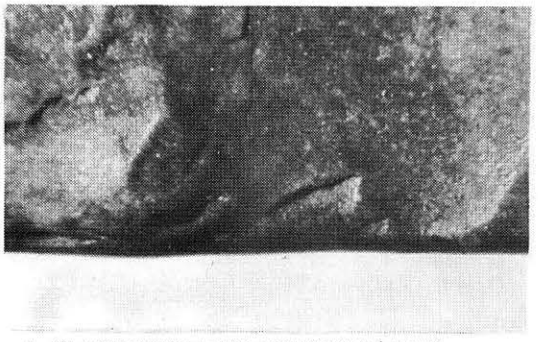


第25図版　毛利伸氏保管遺物

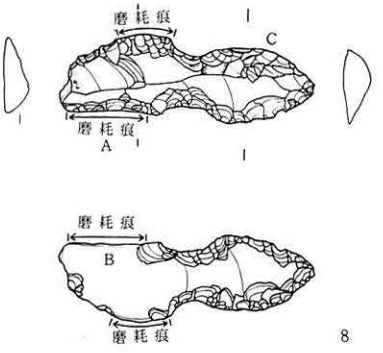


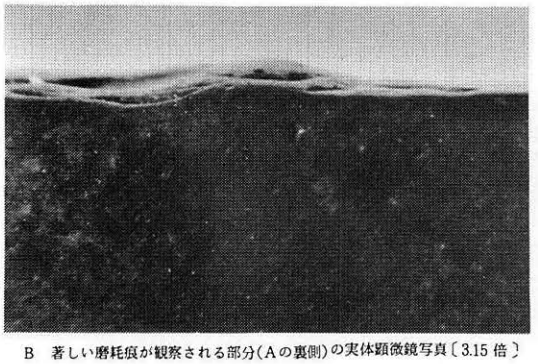
第26図版　毛利伸氏保管遺物



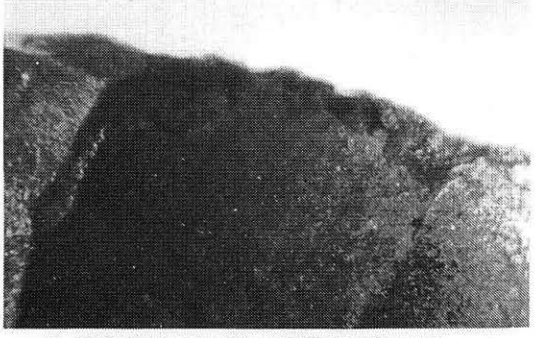


A　著しい磨耗痕が観察される部分の実体顕微鏡写真〔 3.15 倍〕





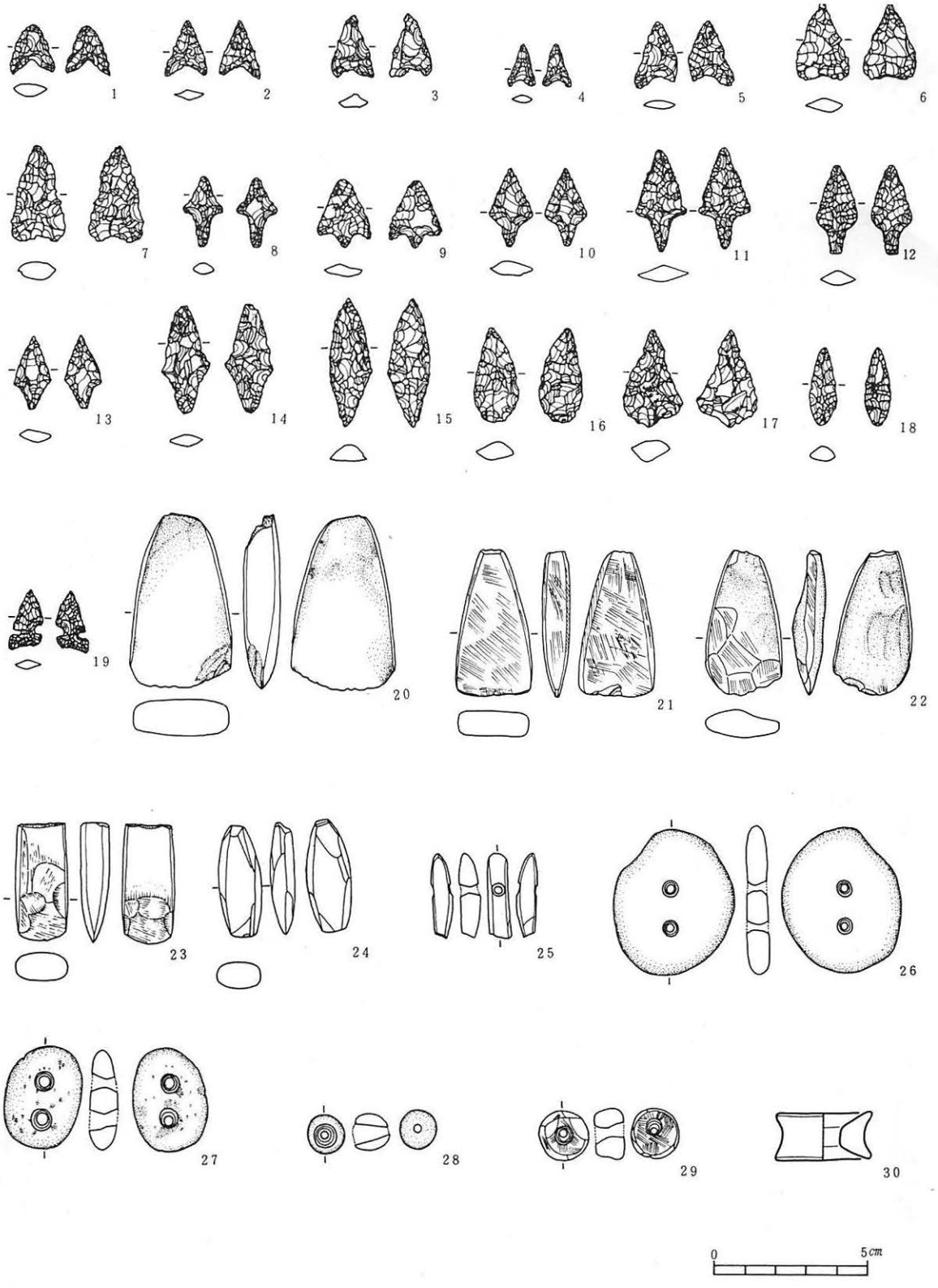
B　著しい磨耗痕が観察される部分(Aの裏側)の実体顕微鏡写真〔3.15 倍〕



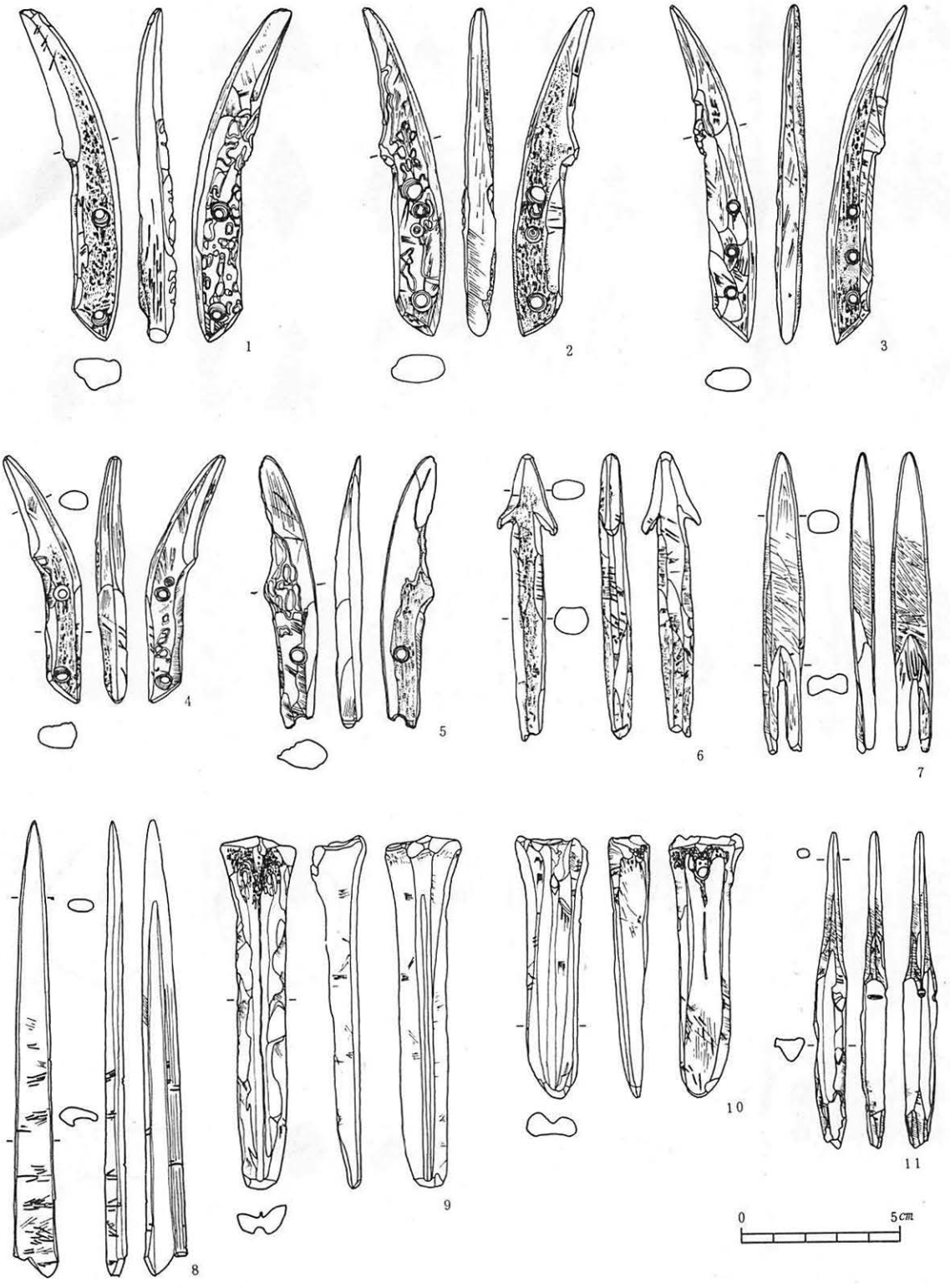
C　磨耗痕が観察されない部分の実体顕微鏡写真〔3.15 倍〕

※写真撮影に際しては宮城県教育委員会の協力を得て，オリンパス三眼鏡筒式実体顕微鏡ＸＴＲを使用した。

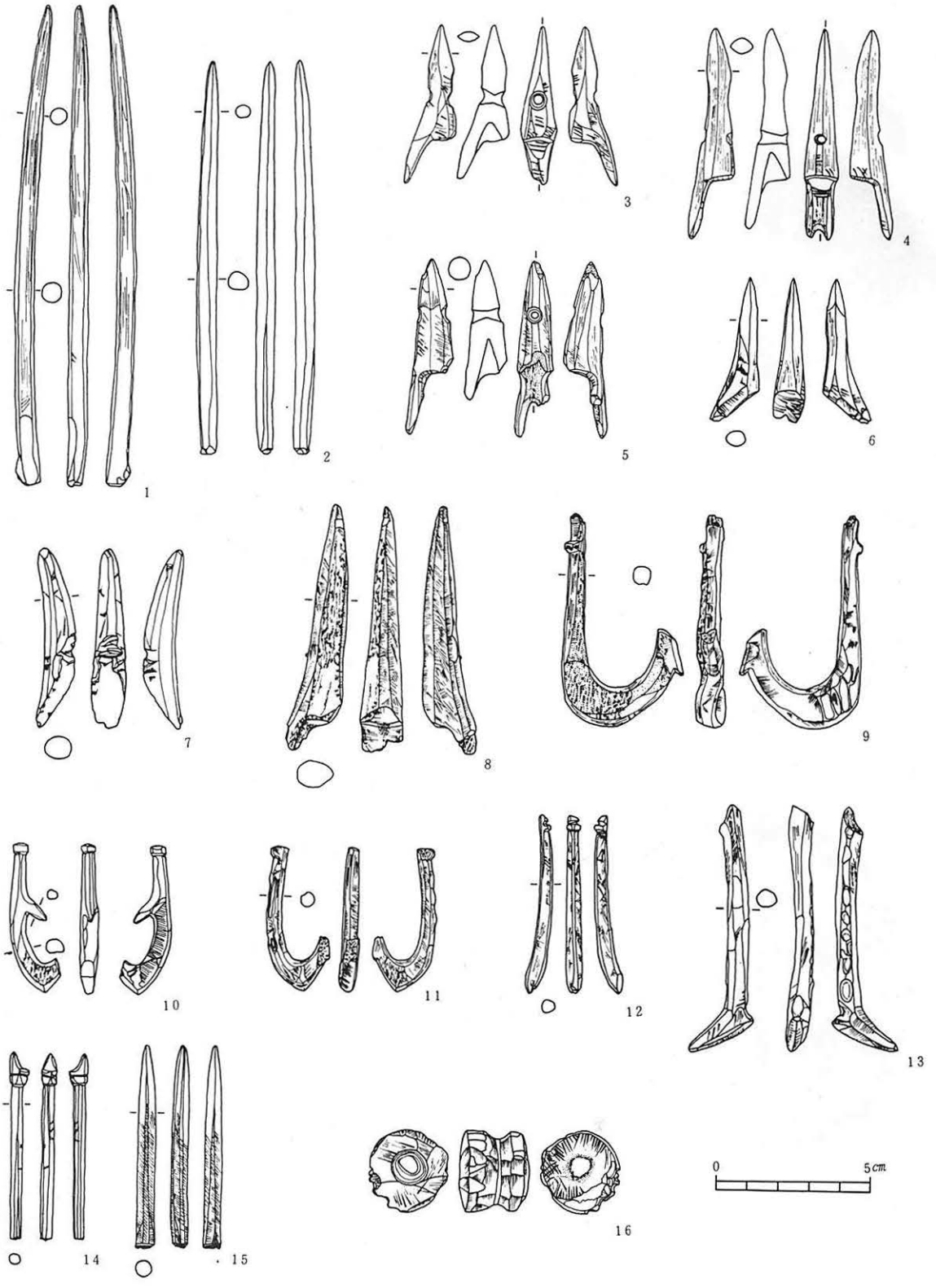
第 27 図版　　石巻市教育委員会保管遺物



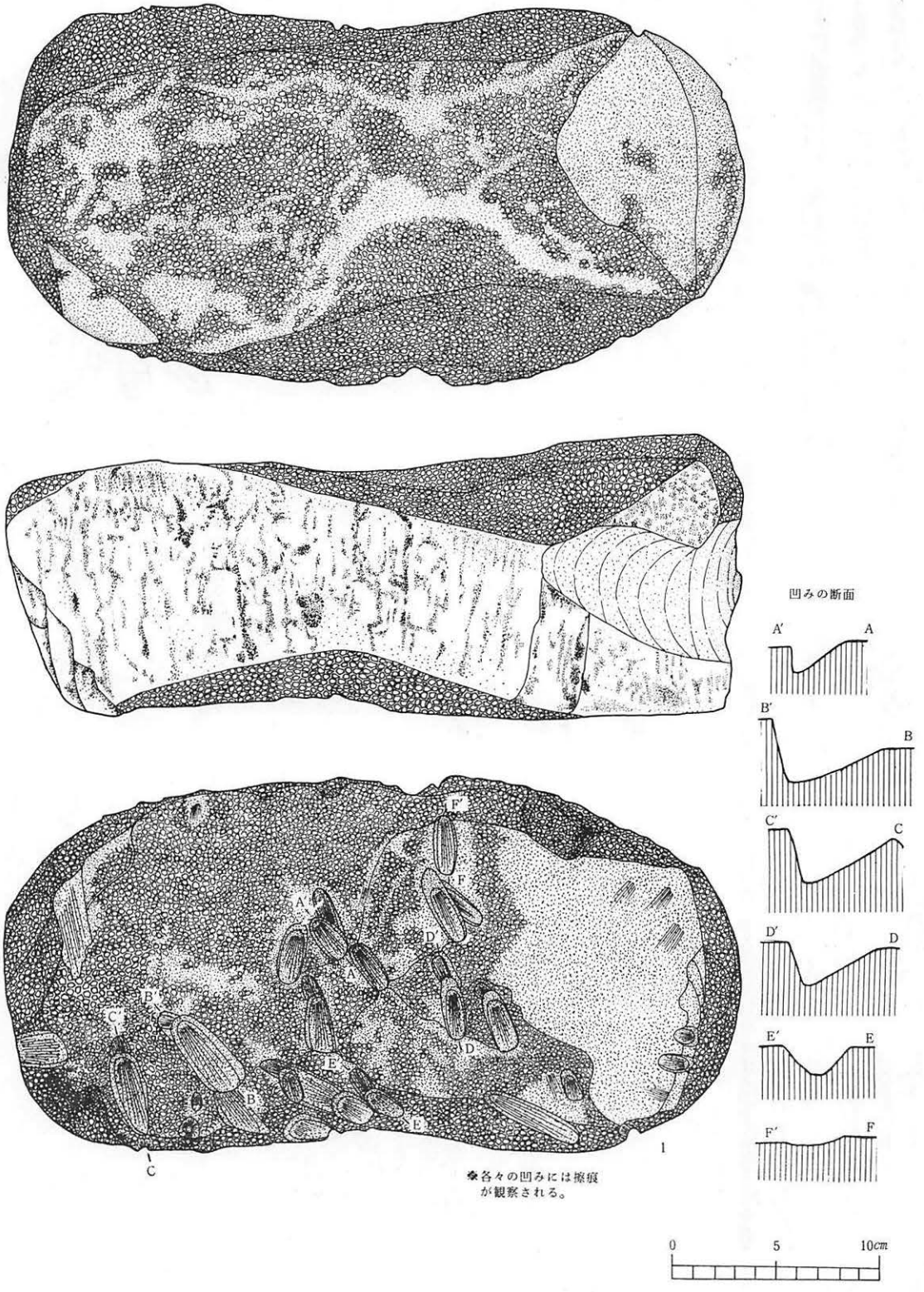
第 28 図版　石巻市教育委員会保管遺物



第29図版　毛利伸氏保管遺物



第30図版　毛利伸氏保管遺物



❖各々の凹みには擦痕が観察される。

第31図版　毛利伸氏保管遺物

第6表　遺物の注記

石巻市教育委員会保管遺物

図版番号	区　名	外面施文，調整	内面施文調整	遺物包含層	備　考
第4図版1	E－3	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	横位調整	第1遺物包含層	大木1式
2	E－2	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
3	D－3	縄文（RL）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
4	E－3	縄文（LR）横位回転	斜位調整	第1遺物包含層	大木1式
5	E－2	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第1遺物包含層	大木1式
6	E－2	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第1遺物包含層	大木1式
7	E－3	縄文（RL）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
8	E－3	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
9	E－3	縄文（RL）横位回転	横位調整	第1遺物包含層	大木1式
10	D－3	縄文（RL）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
11	D－3	縄文（RL）横位回転	縦位調整	第1遺物包含層	大木1式
12	D－7	縄文（RL）横位回転→刻目文	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
13	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転→刻目文	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
14	D－7	不明	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
15	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
16	F－7	縄文（RL）横位回転→刻目文	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
17	D－7	縄文（RL）横位回転→穿孔	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
18	E－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転→刻目文	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
19	D－7	撚糸文（R）	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
20	D－7	撚糸文（L）→撚糸圧痕文（ℓ）	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
21	C－7	縄文（LR,RL）横位回転	不明	第3遺物包含層	大木1式
22	D－7	縄文（LR）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
23	B－6	縄文（RL）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
24	D－7	縄文（RLR）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
25	D－7	縄文（LR,RL）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
26	D－7	縄文（RL）縦位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
27	D－7	縄文（RL）横位回転→刻目文	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
第5図版1	D－7	縄文（RL）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
2	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
3	D－6	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
4	D－7	縄文（RL,LR）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
5	F－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
6	F－6	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
7	D－7	縄文（LR,RL）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
8	G－9	縄文（LR,RL）横位回転	不明	第3遺物包含層	大木1式
9	D－7	縄文（RL）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
10	E－7	縄文（RL）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
11	－	縄文（RL）横位回転	斜位調整	－	大木1式
12	D－7	縄文（RL）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
13	D－7	縄文（RL）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
14	D－7	縄文（RL）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
15	D－7	縄文（RL）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式

図版番号	区　名	外面施文，調整	内面施文調整	遺物包含層	備　考
16	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
17	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
18	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	縦位調整	第3遺物包含層	大木1式
19	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
20	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
21	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
22	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
第6図版1	D－7	縄文（RL）横位回転	横位調整	第3遺物包含層	大木1式
2	D－7	縄文（RL，LR）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
3	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
4	D－7	縄文（単節結束羽状縄文）横位回転	斜位調整	第3遺物包含層	大木1式
5	C－3	隆線文→沈線文，刺突文→調整	横位調整	第4遺物包含層	大木8b式
6	E－2	縄文（LR）横位回転→隆線文→沈線文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木8b式
7	F－2	隆線文→縄文（LR）縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木8b式
8	D－7	縄文（LR）縦位回転→隆線文→沈線文→調整	横位調整	第7遺物包含層	大木8b式
9	D－8	沈線文→調整→縄文（LR）縦位回転	横位調整	第7遺物包含層	大木8b式
10	—	隆線文→沈線文→調整→刺突文	横位調整	—	大木8b式
11	C－4	撚糸文（R）→隆線文→調整	横位調整	第4遺物包含層	大木9式
12	C－4	沈線文→刺突文→調整	斜位調整	第4遺物包含層	大木9式
13	C－4	縄文（RL）縦位回転→沈線文→調整	斜位調整 横位調整	第4遺物包含層	大木9式
14	E－2	縄文（LR）縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木9式
15	E－2	隆線文→縄文（RLR）横位回転，沈線文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木9式
16	B－6	縄文（LR）縦位回転→沈線文→調整	縦位調整	第6遺物包含層	大木9式
17	D－7	隆線文→調整→縄文（RL）横位回転	横位調整	第7遺物包含層	大木9式
18	D－7	縄文（RL）縦位回転→沈線文→調整	縦位調整 斜位調整	第7遺物包含層	大木9式
第7図版1	D－7	縄文（RL）縦位回転→沈線文→調整	斜位調整 横位調整	第7遺物包含層	大木9式
2	G－6	縄文（LR）縦位回転→隆線文→調整	横位調整 斜位調整	第8遺物包含層	大木9式
3	G－6	縄文（RL）縦位回転→隆線文→沈線文→調整	横位調整	第8遺物包含層	大木9式
4	G－7	縄文（RL）横位回転→隆線文→調整	横位調整	第8遺物包含層	大木9式
5	G－6	縄文（LR）縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第8遺物包含層	大木9式
6	G－3	隆線文→沈線文，刻目文→撚糸文（LR）→調整	横位調整	第2遺物包含層	大木10式
7	G－3	縄文（LR）横位，縦位回転→沈線文→調整	斜位調整	第2遺物包含層	大木10式
8	C－4	隆線文→縄文（RLR）縦位回転→調整	横位調整	第4遺物包含層	大木10式
9	C－4	縄文（LR）縦位回転→隆線文→沈線文→調整	斜位調整	第4遺物包含層	大木10式
10	C－3	縄文（LR）横位回転→調整	横位調整	第4遺物包含層	大木10式
11	D－4	隆線文→調整	横位調整	第4遺物包含層	大木10式
12	C－4	沈線文→縄文（LR）縦位調整→調整	縦位調整	第4遺物包含層	大木10式
13	E－2	隆線文→刺突文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木10式
14	D－2	隆線文→沈線文，刺突文→調整	横位調整	第5遺物包含層	大木10式
15	B－6	縄文（LR）横位回転→沈線文→調整	斜位調整	第6遺物包含層	大木10式
16	C－6	沈線文→縄文（RL）縦位回転→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
17	B－6	隆線文→刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
18	B－6	隆線文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
第8図版1	B－6	隆線文→撚糸文(L)縦位回転→沈線文，刺突文→調整	縦位調整 横位調整	第6遺物包含層	大木10式
2	B－6	隆線文→撚糸文(L)縦位回転，刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式

図版番号	区　名	外面施文，調整	内面施文調整	遺物包含層	備　考
第9図版1	B－6	隆線文→撚糸文（R）→刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
2	B－6	隆線文→刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
3	B－6	縄文（LR）縦位回転→隆線文→沈線文，刻目文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
4	B－6	縄文（RL）横位回転→隆線文→刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
5	B－6	隆線文→縄文（RL）横位回転→刺突文→調整	横位調整	第6遺物包含層	大木10式
6	D－7	沈線文→縄文（RL）縦位回転→調整	斜位調整	第7遺物包含層	大木10式
7	D－7	撚糸文（L）→沈線文→調整	横位調整	第7遺物包含層	大木10式
8	E－7	隆線文→縄文（RL）縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第7遺物包含層	大木10式
9	H－6	隆線文→刺突文→調整	横位調整	第8遺物包含層	大木10式
10	G－3	縄文（RL）縦位回転→隆線文→刺突文→調整	縦位調整	第2遺物包含層	門前式
11	B－6	縄文（RL）縦位回転→隆線文→沈線文，刻目文→調整	斜位調整 横位調整	第6遺物包含層	門前式
12a.b	D－3	縄文（RL）縦位回転→隆線文→沈線文→刺突文→調整	横位調整	第5遺物包含層	門前式
第10図版1	D－2	隆線文→撚糸文(R)縦位回転→沈線文，沈線文→刺突文→調整	横位調整	第5遺物包含層	門前式
2	C－4	隆線文→沈線文→調整	横位調整	第4遺物包含層	南境式
3	D－3	撚糸文（L）→沈線文，刺突文→調整	横位調整	第5遺物包含層	南境式
4	D－2	撚糸文（L）→沈線文→調整	横位調整	第5遺物包含層	南境式
5	D－2	撚糸文（R）→沈線文→調整	斜位調整	第5遺物包含層	南境式
6	G－3	撚糸文（R）→沈線文→調整	縦位調整	第2遺物包含層	南境式
7	C－4	縄文（RL）横位，斜位回転→沈線文→調整	横位調整	第4遺物包含層	南境式
8	B－6	縄文（LR）横位回転→撚糸圧痕文（LR）→調整	横位調整	第10遺物包含層	南境式
9	C－2	縄文（LR）横位回転→沈線文，撚糸圧痕文（LR）→調整	横位調整	第11遺物包含層	南境式
10	D－2	縄文（LR）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	南境式
11	—	縄文（LR）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	南境式
12	H－3	縄文（LR）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第9遺物包含層	宝ケ峰式
13	H－3	縄文（RL）羽状縄文→隆線文→沈線文→刻目文→調整	横位調整	第9遺物包含層	宝ケ峰式
14	G－2	縄文（RL）横位回転→沈線文→刻目文→調整	横位調整	第9遺物包含層	宝ケ峰式
15	B－6	縄文（LR）横位，斜位回転→沈線文	斜位調整	第10遺物包含層	宝ケ峰式
16	F－2	沈線文→刻目文→調整	沈線文 横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
17	D－2	縄文（LR，RL）横位回転→沈線文→調整	斜位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
18	D－2	縄文（LR，RL）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
19	C－2	縄文（RL）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
第11図版1	C－2	沈線文→刻目文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
2	C－2	縄文（LR，RL）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
3	E－2	縄文（LR）縦位，横位回転→沈線文→刺突文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
4	D－2	沈線→刻目文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
5	D－2	縄文（RL）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
6	D－2	縄文（RL）横位回転→沈線文→刻目文	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
7	D－3	縄文（LR）横位回転→沈線文→調整	横位調整	第11遺物包含層	宝ケ峰式
8	C－8	縄文（RL）横位，縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第13遺物包含層	宝ケ峰式
9	C－7	縄文（RL）横位，縦位回転→沈線文→調整	横位調整	第13遺物包含層	宝ケ峰式
10	T－3	縄文（LR）横位回転→沈線文→隆線文→調整	斜位調整 横位調整	第9遺物包含層	金剛寺式
11	F－2	隆線文→沈線文→調整	斜位調整 横位調整	第11遺物包含層	金剛寺式
12	D－2	隆線文→縄文（RL）横位回転→調整	横位調整	第11遺物包含層	金剛寺式
13	C－7	沈線文→隆線文→刺突文→調整	斜位調整	第13遺物包含層	金剛寺式
14	D－2	沈線文→刺突文→調整	横位調整	第11遺物包含層	金剛寺式

図版番号	区名	外面施文，調整	内面施文調整	遺物包含層	備考
第11図版15	D－2	沈線文→刺突文→調整	横位調整	第11遺物包含層	金剛寺式
16	D－2	調整→櫛目文	横位調整	第11遺物包含層	金剛寺式
17	C－7	縄文(LR. RL)横位回転	横位調整	第13遺物包含層	金剛寺式
18	F－8	隆線文→縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第15遺物包含層	金剛寺式
19	D－8	隆線文→沈線文→調整	横位調整	第17遺物包含層	金剛寺式
第12図版1	I－2	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第9遺物包含層	大洞B式
2	H－3	縄文(RL)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第9遺物包含層	大洞B式
3	C－7	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第13遺物包含層	大洞B式
4	C－8	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第13遺物包含層	大洞B式
5	F－8	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第18遺物包含層	大洞B式
6	F－3	沈線文→調整	横位調整	第19遺物包含層	大洞BC式
7	F－3	縄文(LR)横位回転→沈線文→刺突文→調整	横位調整	第19遺物包含層	大洞BC式
8	I－2	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第9遺物包含層	大洞C_1式
9	I－2	縄文(LR)横位回転→沈線文	刻目文→横位調整	第9遺物包含層	大洞C_1式
10	H－3	縄文(LR)横位回転→沈線文→刻目文→調整	横位調整	第9遺物包含層	大洞C_1式
11	G－3	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第19遺物包含層	大洞C_1式
12	G－3	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第19遺物包含層	大洞C_1式
13	C－2	沈線文→刻目文→調整	沈線文→横位調整	第20遺物包含層	大洞C_2式
14	D－2	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	沈線文→横位調整	第20遺物包含層	大洞C_2式
15	E－7	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第27遺物包含層	大洞C_2式
16	F－7	縄文(RL)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第27遺物包含層	大洞C_2式
17	G－3	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
18	D－2	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第20遺物包含層	大洞A式
19	G－7	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第23遺物包含層	大洞A式
20	F－7	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	沈線文→横位調整	第27遺物包含層	大洞A式
21	G－3	沈線文→調整	横位調整	第25遺物包含層	大洞A式
22	G－3	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大洞A式
23	G－2	沈線文→調整	横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
第13図版1	G－2	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
2	G－3	沈線文→調整	沈線文→位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
3	G－2	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
4	G－3	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
5	G－2	隆線文→沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大洞A′式
6	E－7	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第27遺物包含層	大洞A′式
7	D－2	ミガキ	ミガキ	第20遺物包含層	製塩土器
8	G－3	ミガキ	ミガキ	第25遺物包含層	製塩土器
9	G－3	ミガキ	ミガキ	第25遺物包含層	製塩土器
10	F－7	ミガキ	ミガキ	第27遺物包含層	製塩土器
11	F－7	ミガキ	ミガキ	第27遺物包含層	製塩土器
12	G－3	ミガキ	ミガキ	第25遺物包含層	製塩土器
13	G－3	隆線文→沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大泉式
14	G－3	沈線文→調整	沈線文→横位調整	第25遺物包含層	大泉式
15	E－3	沈線文→撚糸文（L），撚糸圧痕文（L）→調整	沈線文→横位調整	第29遺物包含層	大泉式
16	D－5	撚糸文（R）→刺突文→調整	横位調整	第29遺物包含層	大泉式
17	――	ヨコナデ→ケズリ	ヘラナデ	―	―

宮城県教育委員会保管遺物

図版番号	区名	外面施文，調整	内面施文，調整	遺物包含層	備考
第14図版1	——	沈線文→縄文(LR)縦位回転→調整	斜位調整→横位調整	——	大木9式
2	——	把手の貼付→縄文(LR)縦位回転→沈線文→調整	斜位調整→横位調整	——	大木10式
第15図版1	——	把手の貼付→隆線文，縄文(RL)縦位，斜位回転→沈線文→調整	横位調整	——	大木10式
2	——	隆線文→撚糸文(R)，刺突文→調整	縦位調整→横位調整	——	大木10式
第16図版1	——	隆線文→撚糸文(LR)→沈線文→刺突文→調整	隆線文→横位調整	——	大木10式
2	——	櫛目文→刺突文→調整	縦位調整→横位調整	——	大木10式
第17図版1	——	縄文(LR)縦位回転→横位調整	縦位調整→横位調整	——	大木10式
2	——	縄文(LR)斜位回転→隆線文→沈線文→刻目文→調整	縦位調整→横位調整	——	大木10式
第18図版1	——	撚糸文(R)→隆線文→沈線文→刺突文→調整	縦位調整→横位調整	——	南境式
第19図版1	——	縄文(RLR)縦位，斜位回転→沈線文→調整	縦位調整→横位調整	——	南境式
2	——	撚糸文(r)→沈線文→調整	縦位調整→横位調整	——	南境式

清水毅氏保管遺物

第20図版1	C－4	隆線文→縄文(L)→沈線文→刻目文→調整	縦位調整→横位調整	第4遺物包含層	大木10式
第21図版1	C－4	隆線文→調整→沈線文→撚糸文(LR)，刻目文	縦位調整→横位調整	第4遺物包含層	大木10式

毛利伸氏保管遺物

第22図版1	——	縄文(LR)横位回転→貼付文→沈線文→調整	横位調整	——	金剛寺式
2	——	縄文(LR)縦位，横位回転→調整	縦位調整→横位調整	——	金剛寺式
3	——	縄文(RL)縦位，横位回転→調整	横位調整	——	金剛寺式
第23図版1	——	縄文(LR，RL)横位回転→沈線文，刻目文→調整	縦位調整→斜位調整→横位調整	——	大洞C_1式
2	——	ミガキ→朱塗	ミガキ→朱塗	——	大洞C_1式
3	——	縄文(RL，LR)横位回転→沈線文→刻目文→調整	横位調整	——	大洞C_2式
4	——	沈線文→調整→朱塗	沈線文→横位調整	——	大洞C_2式
第24図版1	——	沈線文→調整	沈線文→横位調整→斜位調整	——	大洞C_2式
2	——	縄文(RL，LR)横位回転→沈線文→調整	横位調整	——	大洞C_2式
第25図版1	——	縄文(RL，LR)横位回転→沈線文→調整	沈線文→横位調整	——	大洞C_2式
2	——	縄文(LR)横位回転→沈線文→調整	沈線文→横位調整	——	大洞A式
第26図版1	——	貼付文→沈線文，刻目文→調整→朱塗	横位調整	——	大洞A式
2	——	隆線文，貼付文→沈線文→調整→朱塗	横位調整	——	大洞A式
3	——	ミガキ	ミガキ	——	大洞A式
4	——	ミガキ→ヨコナデ	ヨコナデ	——	塩釜式
5	——	ヨコナデ	ヨコナデ	——	塩釜式
6	——	ミガキ→ヨコナデ	ヨコナデ	——	塩釜式
7	——	縄文(LR)縦位回転→穿孔	縄文(LR)縦位回転→穿孔	——	縄文時代中期

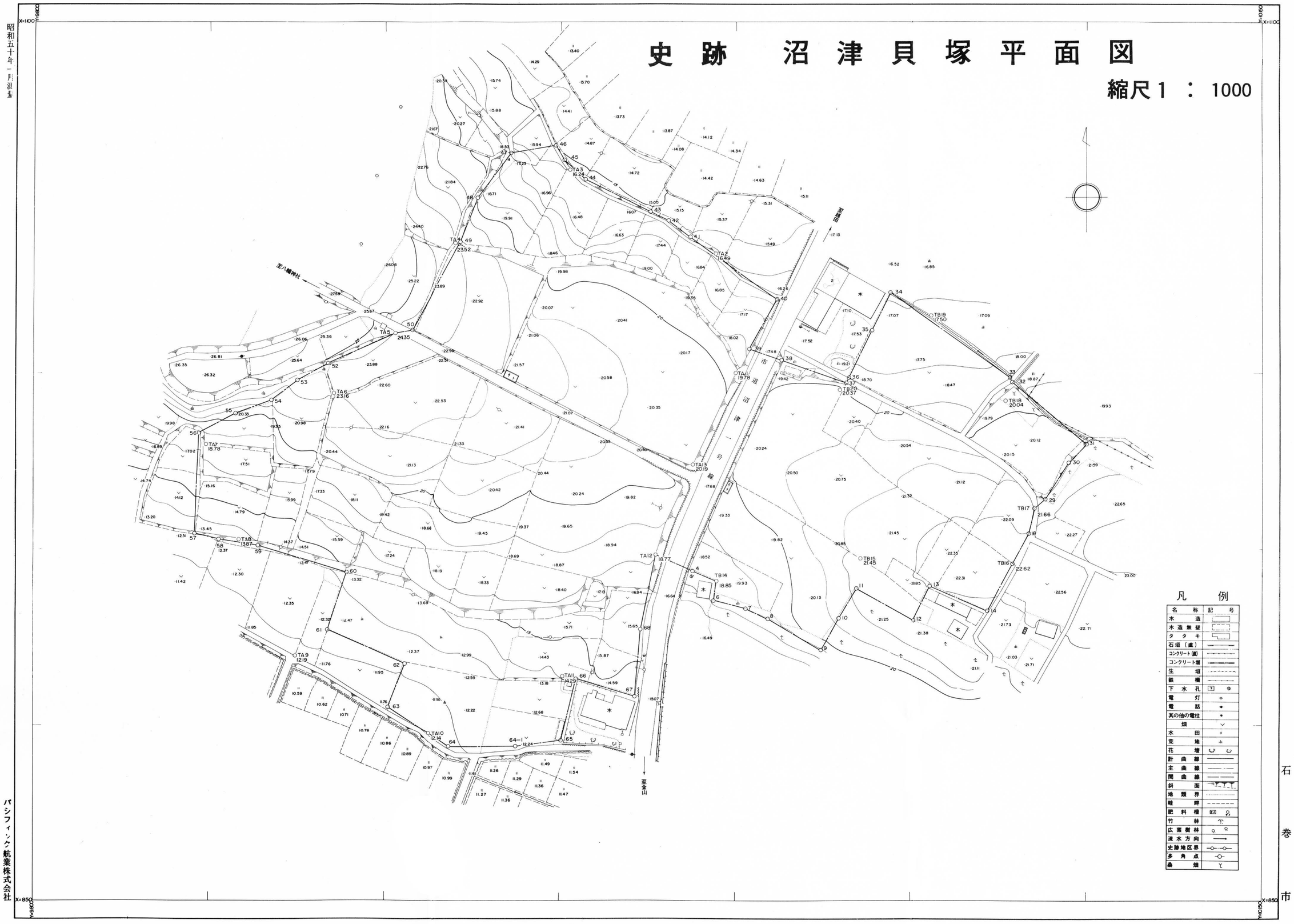
石巻市教育委員会保管遺物

図版番号	区名	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	素材	備考
第27図版1	E-7	6.04	2.95	0.45	珪質頁岩	
2	——	5.18	8.68	1.16	珪質頁岩	
3	——	3.71	4.81	0.81	珪質頁岩	
4	G-3	8.21	2.24	0.78	珪質頁岩	
5	——	6.10	2.10	0.72	珪質頁岩	
6	——	4.40	2.78	0.59	珪質頁岩	
7	——	4.35	1.66	0.62	珪質頁岩	
8	——	6.79	2.11	0.72	珪質頁岩	
第28図版1	F-2	1.60	1.41	0.42	珪質頁岩	
2	C-2	1.81	1.35	0.32	珪質頁岩	
3	——	2.01	1.36	0.45	珪質頁岩	
4	E-2	1.33	0.92	0.22	珪質頁岩	
5	C-2	2.12	1.48	0.29	珪質頁岩	
6	C-2	2.49	1.73	0.45	珪質頁岩	
7	D-7	3.10	1.75	0.55	珪質頁岩	
8	——	2.27	1.31	0.38	珪質頁岩	
9	——	2.20	1.72	0.39	珪質頁岩	
10	C-2	2.50	1.35	0.48	珪質頁岩	
11	F-2	4.27	1.66	0.51	珪質頁岩	
12	I-2	2.87	1.32	0.49	珪質頁岩	
13	——	2.36	1.20	0.41	珪質頁岩	
14	——	3.50	1.58	0.42	珪質頁岩	
15	——	4.14	1.39	0.51	珪質頁岩	
16	——	3.09	1.45	0.69	珪質頁岩	
17	F-2	3.13	1.93	0.61	珪質頁岩	
18	C-2	2.52	0.90	0.50	珪質頁岩	
19	F-3	1.96	1.09	0.29	黒曜岩	
20	C-2	5.65	3.37	1.20	安山岩	
21	I-3	4.70	2.50	0.85	凝灰岩	
22	——	4.70	2.45	0.94	頁岩	
23	——	3.92	1.69	0.86	砂岩	
24	H-2	3.68	1.43	0.88	頁岩	
25	I-2	2.76	0.70	0.65	砂岩	
26	J-3	4.79	3.94	0.73	珪質頁岩	
27	——	3.42	2.49	0.90	凝灰岩	
28	——	1.25	1.23	1.16	凝灰岩	
29	——	1.61	1.60	0.95	瑪瑙石	
30	——	——	——	——	——	

毛利伸氏保管遺物

図版番号	区名	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	素材	備考
第29図版1	——	10.50	1.59	1.18	鹿角板	
2	——	10.38	1.66	1.08	鹿角板	
3	——	11.17	1.41	0.90	鹿角板	
4	——	7.77	1.24	0.86	鹿角板	
5	——	8.57	1.61	0.90	鹿角板	
6	——	9.06	1.89	0.91	鹿角板	
7	——	9.50	1.29	0.78	鹿角板	
8	——	14.50	1.37	0.61	鹿の中足骨	
9	——	11.20	2.42	1.67	鹿の中足骨	
10	——	9.31	2.30	1.30	鹿の中足骨	
11	——	10.00	1.03	0.81	鹿の中足骨	
第30図版1	——	15.50	0.65	0.65	鹿の中足骨	
2	——	12.68	0.65	0.59	鹿の中足骨	
3	——	5.10	1.12	1.30	鹿角板	
4	——	6.80	1.08	1.21	鹿角板	
5	——	5.68	1.15	1.22	鹿角板	
6	——	4.68	1.00	1.17	鹿角板	
7	——	5.80	1.10	1.00	鹿角板	
8	——	7.90	1.38	1.45	鹿角板	
9	——	6.90	3.92	0.71	鹿角板	
10	——	4.74	1.3	0.53	鹿角板	朱塗
11	——	4.65	1.95	0.49	鹿角板	
12	——	5.75	0.50	0.50	鹿角板	
13	——	7.91	0.7	0.70	鹿角板	
14	——	6.07	0.48	0.60	鹿角板	
15	——	6.65	0.54	0.54	鹿角板	朱塗
16	——	2.70	2.55	2.23	鹿角板	
第31図版	——	17.40	35.25	13.20	鯨の脊椎骨	

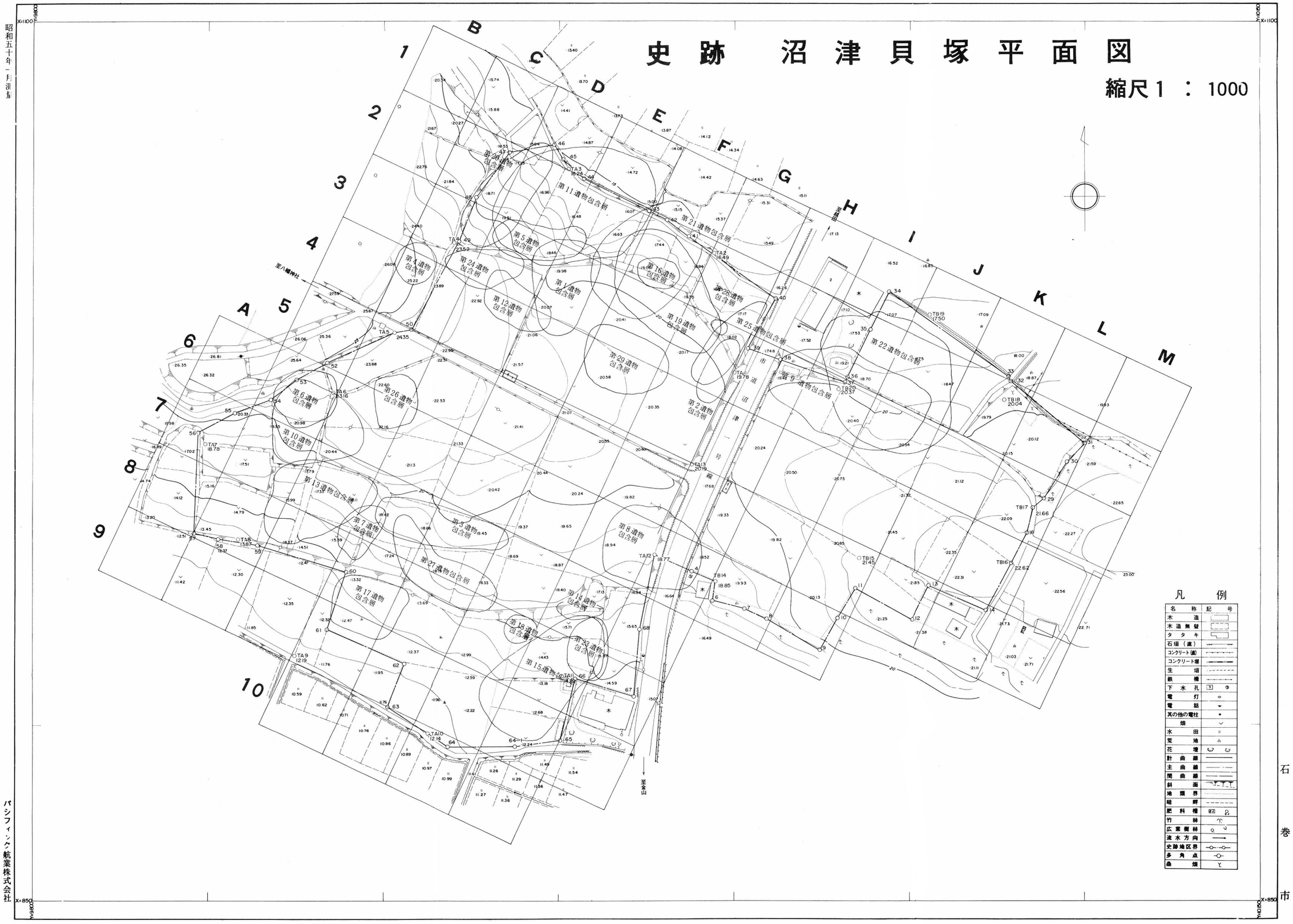
昭和五十年一月測量


史跡　沼津貝塚平面図
縮尺1：1000
凡例
名称
記号
木造
木造無壁
タタキ
石垣（直）
コンクリート（面）
コンクリート堰
生垣
鉄柵
下水孔
電灯
電話
其の他の電柱
畑
水田
荒地
花壇
計曲線
主曲線
間曲線
斜面
地類界
畦畔
肥料櫃
竹林
広葉樹林
流水方向
史跡地区界
多角点
桑畑
沼津市道
至八幡神社
至金山
1：1000

昭和五十年一月測量

史跡　沼津貝塚平面図

縮尺 1 ： 1000



1 : 1000

0　10　20　30　40　50　100m

パシフィック航業株式会社

石巻市

沼津貝塚保存管理計画策定事業報告書

昭和51年3月23日　印刷
昭和51年3月31日　発行

発行　石巻市教育委員会
石巻市日和ケ丘一丁目1番1号

印刷　川　辺　印　刷
仙台市小田原一丁目5番12号